

2010年度年報作成にあたって

平成22年度は診療報酬の大きな改訂がありました。全体的にはプラス改定でしたが、急性期病院に手厚い改定であり、医療崩壊など今までの経過を鑑みると当然と言えば当然と言えましょうか。

回復期リハビリテーションに関しましては、前回の改定で初めて医療現場に成果主義が導入されたのをきっかけに、今回はその程度が更に拡大した感があります。既に差別化が図られていた回復期入院料ⅠとⅡの差が拡大（差95点/日→差120点/日）しました。その回復期入院料Ⅰを取得するための要件として、「在宅復帰率60%以上」、「2単位/日/1人以上のリハビリの提供」は前回改定と変わりませんが、「新規入院重症患者割合が15%から20%へUP」と言ったようにより一層の入院患者の重症化が誘導されました。更に「休日リハビリテーション提供体制加算60点（365リハビリを行える体制を整える）」や「リハビリテーション充実加算40点（平均6単位/日以上リハビリを行う）」の新設があり、盆暮れ正月も休まず、たくさんのリハビリを行う必要性がうたわれました。

幸い当院では前年より365日リハビリを行っていましたが「休日リハビリテーション提供体制加算」取得に問題はありませんでしたが、「リハビリテーション充実加算」取得に関しては、一ヶ月平均して6単位/日以上のリハビリ提供の必要性があるため、5月の連休など休日の多い月のリハビリ単位数UPの必要がありました。2ヶ月の観察期間を経過して6月から全ての加算の取得でき、それとともにリハビリの単位数が大幅にUPしました。

診療報酬上、リハビリテーション以外包括である回復期リハビリテーション病院にとりまして、高価な多種類の新薬を導入するのは在庫管理の問題を含めて困難を伴う関係上、抗がん剤他、必要に応じて他病院（多くは前病院）を受診していただき処方お願いしていました。しかし今回の改訂を機に、実質的に他病院受診での外来処方が困難となりました。そのため急性期病院なみの薬品在庫を抱える必要性が生じ、管理上も大変困惑しました。

全体としましては、リハビリテーション施行単位の大幅UPのおかげで、経営的にも追い風となった年度となりました。

平成23年6月吉日
院長 佐藤 信也

病院理念

「愛し愛される病院」

理念の実行目標

1. 患者さん個人の人権を尊重し、障がいを負っても人間らしさの復権のために貢献する
2. 地域社会の要請に応え住民の健康、福祉向上に貢献する
3. 職員のやる気とアイデアを大切にする

基本方針

1. 何人も平等に医療を受けられる病院づくり
2. プライバシー保護とインフォームドコンセントに基づいた患者さん中心の医療
3. 確固たるチームワークによる復帰へのサポート
4. 地域住民、地域医療機関との密着した医療
5. 医療人としての自覚と技術向上のための教育

平成15年12月 制定
平成18年12月 改定

患者さんの権利

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受ける事ができます。
2. あなたは、医療行為について、自由な意思に基づき、同意・選択することができます。
3. あなたは、医療行為に関し、医療者から十分な説明・報告を受ける事ができます。
4. あなたは、自由に医療機関を選択する事ができます。
5. あなたは、医療行為に関し、いつでも他の医療者の意見を求めることができます。
6. あなたの個人の情報は、保護されます。

平成15年12月1日 制定

職業倫理規定

医療人の倫理観とは、何人からも利害関係をつくらない潔癖な態度と、科学的観点から専門医療分野・医療システム・医療経済等に精通し、全ては人々のためであることを心して、全人医療に徹することである。

医療の担い手として専門職の誇りをもち、社会的使命と職務の責任を常に考え、豊かな人間性を磨くことを心掛け、ここに倫理規定を設ける。

1. 私たちは、人々の保健・医療・福祉のために専門性の高い知識と技術をもってその社会的使命を遂行する。専門職として責任ある行為をとりその名称を辱める行為をしてはならない。
2. 私たちは、この職業の尊厳と責任を自覚し、教養を深め人格を高めるよう心掛ける。
3. 私たちは、互いに尊敬し、医療関係者と協力して医療に尽くす。
4. 私たちは、医療を受ける人々の人格を尊重し、優しい心で接すると共に医療内容についてよく説明し信頼を得るよう努める。
5. 私たちは、職務上知りえた情報についての秘密を守らなければならない。
6. 私たちは、不当な報酬をもとめない。

平成16年12月1日 制定



病院の概要



1. 沿革

平成14年	4月	病院開設（内科、リハビリテーション科 129床 2F病棟 43床 療養病棟 3F病棟 43床 療養病棟 4F病棟 43床 療養病棟 保険医療機関、労災保険指定医療機関、生活保護法指定医療機関、 結核予防法指定医療機関
	7月	2F病棟を回復期リハビリテーション病棟として届出
平成15年	4月	4F病棟を回復期リハビリテーション病棟として届出
平成16年	5月	日本医療機能評価機構による施設認定（第JC210号）
平成18年	8月	3F病棟を回復期リハビリテーション病棟として届出 （全床129床が回復期リハビリテーション病床となる）
	9月	「患者さんのための3つの宣言」認定病院
	12月	クリスマスイルミネーション開始（毎年12月実施）
平成19年	5月	「地域連携診療計画退院時指導料」を届出
	7月	埼玉県子育て応援宣言企業に登録
	10月	駐輪場増設
平成20年	5月	リハビリテーション室拡張（+82㎡、言語療法室増設+2室）
	6月	2F病棟一般浴室を個浴（4ヶ所）に改修
	10月	医事システム更新（オンライン請求対応）
	11月	電子カルテ、オーダーリングシステム導入、稼動
平成21年	4月	中村 毅理事長 就任
	5月	日本医療機能評価機構の病院機能評価更新審査認定
	8月	休日リハビリテーション開始（理学療法）
平成22年	1月	休日リハビリテーション開始（作業療法）
	6月	休日リハビリテーション開始（言語聴覚療法）
平成23年	月	
	月	
	月	

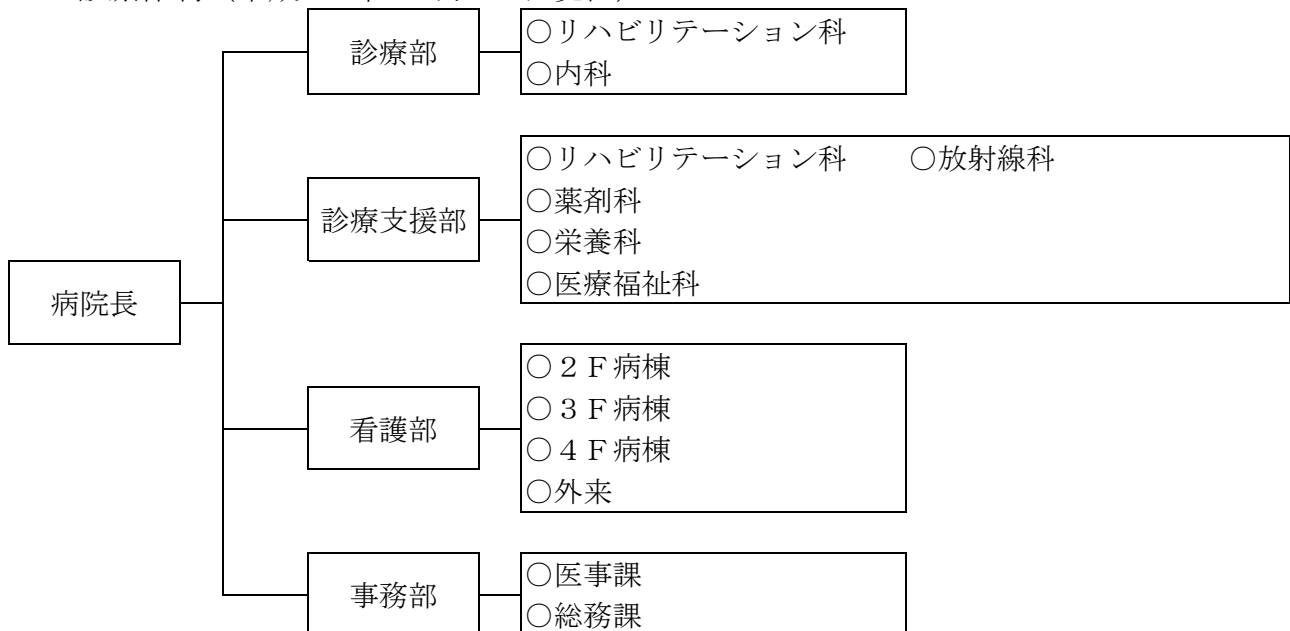
2. 概要

1. 当院の概要

名称	医療法人社団東光会 戸田中央リハビリテーション病院
所在地	〒335-0023 埼玉県戸田市本町1丁目14番1号 電話 048-442-1116 FAX 048-442-3500
開設年月日	平成14年4月
開設者	理事長 中村 毅
管理者	院長 佐藤 信也
診療科目	内科、リハビリテーション科
許可病床数	129床（療養病床）
建物概要	鉄筋コンクリート造 地上5階建て 工期：平成13年3月15日～平成14年2月15日
施設の規模	建築面積 941.9239㎡ 延床面積 3614.3550㎡ 敷地面積 1813.5600㎡
法令による指定	○ 保険医療機関 ○ 生活保護法指定病院 ○ 労災保険指定病院 ○ 結核予防法指定病院
認定施設等の一覧	○ 日本医療機能評価機構認定病院（審査体系区分1 Ver. 5.0） ○ 実習指定病院 （看護） 戸田中央看護専門学校 蕨戸田医師会看護専門学校 さいたま市立高等専門学校 （リハビリテーション） 社会医療技術学院 両国リハビリテーション専門学院 目白大学保健医療学部 横浜リハビリテーション学院 埼玉県立大学保健医療福祉学部 東都リハビリテーション学院 国際医療福祉大学保健医療学部 城西医療技術専門学校 首都大学東京健康福祉学部 医学アカデミー 文京学院大学保健医療技術学部 日本工学院専門学校 帝京平成大学健康メディカル学部 早稲田医療技術専門学校 多磨リハビリテーション学院 西武学園医学技術専門学校
施設基準の一覧 平成23年03月31日現在	回復期リハビリテーション病棟入院料1 脳血管疾患等リハビリテーション料（I）

	運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 地域連携診療計画退院時指導料 栄養管理実施加算 薬剤管理指導料 退院調整加算 休日リハビリテーション提供体制加算 リハビリテーション充実加算
顧問教授	○ 柏森 良二 帝京大学医学部附属病院リハビリテーション科教授 ○ 山科 章 東京医科大学病院内科学第二講座主任教授 ○ 山本 謙吾 東京医科大学病院整形外科主任教授 ○ 三上 真弘 帝京大学名誉教授

2. 診療体制（平成 23 年 03 月 31 日現在）



3. 職員数（平成 23 年 03 月 31 日現在） ※人員数は勤務の実人数

職 種	常勤	非常勤	計	職 種	常勤	非常勤	計
医 師	4	5	9	診療放射線技師			
看 護 師	46	6	52	管 理 栄 養 士	2		2
准 看 護 師	8		8	理 学 療 法 士	31		31
高 看 学 生		4	4	作 業 療 法 士	22	1	23
准 看 学 生				言 語 聴 覚 士	10		10
介 護 福 祉 士	18		18	医 療 福 祉 科	5		5
看 護 助 手	7	6	13	事 務 職 員	9	2	11
看 護 ク ラ ー ク	2		2	そ の 他 職 員			
薬 剤 師	3		3	合 計	167	24	191

4. 入職・退職の報告（平成22年04月01日～平成23年03月31日）※転入・転出も含

職 種	入職数		退職数		職 種	入職数		退職数	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤		常勤	非常勤	常勤	非常勤
医 師			1		診療放射線技師				1
看 護 師	11	4	7		管 理 栄 養 士	2		1	
准 看 護 師		4	2	2	理 学 療 法 士	19		15	
高 看 学 生					作 業 療 法 士	11		5	
准 看 学 生					言 語 聴 覚 士	2		2	
介 護 福 祉 士		1	3		医 療 福 祉 科	2		2	
看 護 助 手		8		3	事 務 職 員	3	1	4	
看 護 ク ラ ー ク					そ の 他 職 員				
薬 剤 師	1		1		合 計	51	18	43	6

5. 病棟の構成（平成23年03月31日現在）

病棟名	定床	個室	4人室	設 備
2F病棟	43床	3床	40床	食堂・談話室、個別浴室（4槽）
3F病棟	43床	3床	40床	食堂・談話室、機械浴槽（2槽）
4F病棟	43床	3床	40床	食堂・談話室、個別浴室（3槽）

6. IT化の整備状況

➤ 稼動中のシステム

No	システム名	開始年月	開発元
1	超小型コージェネレーションシステム	2002.04	東京ガス（株）
2	ホスピタルフードサービスシステム（Hospia）	2002.04	（株）セントラルユニ
3	コダックCRシステム	2002.04	コダック
4	遠隔監視システム（Rings）	2003.07	東テク（株）
5	人事給与システム（ADPS）	2005.04	（株）カシオソフト
6	デビットカードサービス	2006.12	日本デビットカード推進協議会
7	医事会計システム	2008.10	中央ビジコム（株）
8	リハビリテーション支援システム（電子カルテ、オーダーリングシステム含）	2008.11	（株）エムビーテック
9	オムロン絶縁監視装置（キューピクル）	2008.12	シンクス（株）

➤ システムの構成

No	システム名	ハード構成	台数
1	ホスピタルフードサービスシステム（Hospia80-Ⅲ）	富士通（FMV8MLK161）	1
2	コダックCRシステム	800特型	1
3	遠隔監視システム	録画機・カメラ	4・25
4	人事給与システム（ADPS）	DELL（INSPIRON6000） HP（COMPAQ nx6120）	1

5	デビットカードサービス	P a n a s o n i c Z E C - 1 4 A 0 0	1
6	医事会計システム	サーバ 端末 (デスクトップ) レーザープリンター ドットプリンター ラベルプリンター	1 4 1 1 1
7	リハビリテーション支援システム (電子カルテ・オーダーリング)	サーバ 端末 (デスクトップ) 端末 (ノート型) プリンタ	2 1 60 5

➤ 業務委託状況

No	委託内容	業者名	
1	検体検査業務	(株) 戸田中央臨床検査研究所 (株) BML	
2	寝具、リネン、白衣管理業務	(株) 東基	
3	食事サービス提供	日清医療食品 (株) 北関東支店	
4	清掃業務	(株) ダスキン	
5	鼠族昆虫駆除業務	西武消毒 (株)	
6	感染性廃棄物回収業務	(株) メッドトラスト東京	
7	カーテンメンテナンス 職員ユニフォーム管理	(株) 三和企商	
8	設備管理業務	消防設備	(株) 能美防災
		昇降機遠隔監視	S E Cエレベーター (株)
		受水槽清掃	山大物産 (株)
		水質分析	(株) 分析
		自家用電気工作物	垣内電機管理事務所
		空調機器	東京ガス (株) 北部GHPメン テセンター
		ガスコージェネレーション システム	東京ガス (株)
		院内電話	英工電機 (株)
		医療ガス設備	東京エアウォーター (株)
		放射線設備線量測定	ラドセーフテクニカルサービス (株)
	D r y V i e w 8 2 0 0 C Rシステム800	(株) エルクコーポレーション	
9	ホームページ	(株) ウィッツ	
10	カード式TV	(株) パースジャパン	
11	エコロジーガーデン	(株) 竹中庭園緑化	
12	売店販売	(株) テンソウ商事	
13	防犯監視カメラ・セキュリティー システム	(株) セコム	
14	診療録・フィルム等保管	(株) ふれあい広場	

➤ 統計資料

No.	項 目		2 2 年度		2 1 年度		
1	病床利用率	2 階病棟	年延入院患者数	15,520	98.9%	15,612	99.5%
			年延病床数	15,695		15,695	
		3 階病棟	年延入院患者数	15,598	99.4%	15,595	99.4%
			年延病床数	15,695		15,695	
		4 階病棟	年延入院患者数	15,624	99.5%	15,647	99.7%
			年延病床数	15,695		15,695	
		合計	年延入院患者数	46,742	99.3%	46,854	99.5%
			年延病床数	47,085		47,085	
2	1 日平均患者数	回復期リハ病棟	年延入院患者数	46,365	127.0 人	46,334	126.9 人
			診療実日数	365		365	
		療養病棟	年延入院患者数	495	1.4 人	539	1.5 人
			診療実日数	365		365	
		合計	年延入院患者数	46,860	128.4 人	46,873	128.4 人
			診療実日数	365		365	
		外来	年延外来患者数	171	1.1 人	169	1.0 人
			診療実日数	156		164	
3	診療単価	回復期リハ病棟	年入院収入	1,742,866,045	37,590 円	1,470,672,564	31,741 円
			年延入院患者数	46,365		46,334	
		療養病棟	年入院収入	8,489,792	17,151 円	7,258,096	13,651 円
			年延入院患者数	495		539	
		合計	年入院収入	1,751,355,837	37,374 円	1,478,030,660	31,533 円
			年延入院患者数	46,860		46,873	
		外来	年外来収入	580,380	3,394 円	597,270	3,534 円
			年延外来患者数	171		169	
4	PT 1 人 1 日当りの実施単位	延実施単位数	159,143	17.5 単-位	123,314	15.6 単位	
		延職員数	450		403		
5	OT 1 人 1 日当りの実施単位	延実施単位数	113,826	17.0 単位	81,123	14.6 単位	
		延職員数	334		285		
6	ST 1 人 1 日当りの実施単位	延実施単位数	53,389	16.9 単位	37,193	16.7 単位	
		延職員数	156		110		
7	外来・入院患者比率	年延外来患者数	171	0.4%	169	0.4%	
		年延入院患者数	46,860		46,873		

No.	項 目			22年度		21年度			
8	職員1人1日 当たりの 平均取扱患者 数	全職員	1日平均患者数	128.4	0.65人	128.4	0.70人		
			平均職員数	198.8		183.1			
		医師	1日平均患者数	128.4	23.78人	128.4	22.53人		
			平均職員数	5.4		5.7			
9	医業収入に 対する割合 (構成)	入院料	年入院収入	863,016,030	47.2%	808,905,470	51.9%		
			年医業収入	1,826,835,003		1,559,053,961			
		リハビリテ ーション料	年リハビリ収入	790,338,085	43.3%	570,922,550	36.6%		
			年医業収入	1,826,835,003		1,559,053,961			
		食事療養費	年食事療養費収入	94,962,918	5.2%	94,791,800	6.1%		
			年医業収入	1,826,835,003		1,559,053,961			
		室料差額	年室料差額収入	50,840,265	2.8%	54,604,935	3.5%		
			年医業収入	1,826,835,003		1,559,053,961			
		保険外	年保険外収入	24,058,521	1.3%	25,821,096	1.7%		
			年医業収入	1,826,835,003		1,559,053,961			
		10	医業収入に 対する割合 (経費)	薬品費	年薬品費	8,866,289	0.5%	8,165,496	0.5%
					年医業収入	1,826,835,003		1,559,053,961	
医療材料費	年医療材料費			9,656,308	0.5%	10,445,170	0.7%		
	年医業収入			1,826,835,003		1,559,053,961			
人件費	年人件費			931,860,558	51.0%	861,910,845	55.3%		
	年医業収入			1,826,835,003		1,559,053,961			
11	労働効率 (1人当収入)	全職員	年医業収入	1,826,835,003	9,189円	1,559,053,961	8,515円		
			平均職員数	198.8		183.1			
		医師	年医業収入	1,826,835,003	338,303円	1,559,053,961	273,518円		
			平均職員数	5.4		5.7			
12	病床効率	年入院収入	1,823,394,571	38,726円	1,555,916,941	33,045円			
		年延病床数	47,085		47,085				
13	病床回転数	回復期リハ病棟	年暦日数	365	4.4回転	365	4.1回転		
			平均在院日数	83.4		90.0			
		療養病棟	年暦日数	365	3.0回転	365	3.8回転		
			平均在院日数	122.5		96.0			
		合計	年暦日数	365	4.1回転	365	4.1回転		
			平均在院日数	89.4		88.5			
14	死亡率	院内死亡数	0	0%	0	0%			
		退院数	555		522				

3. 年度目標

2010年度事業計画

2010年度は診療報酬の改定があります。現時点ではどのような変更内容になるかは不明です。NET（総額）微増とのことでありますが、その多くは急性期病院の報酬増にまわるようです。リハビリに関しては回復期リハビリテーションのあり方について、その存在意義を厚生労働省は十分認識していますので大きな減額は無いと思われれます。しかし、発症まもない超急性期から急性期リハビリの重要性そして必要性が昨今言われており、やはり財源が慢性期から急性期へシフトしていくのは時代の趨勢と思われれます。そしてより早い時期に多くの単位のリハビリを行い（その分亜急性期から慢性期の単位は減る？）、早めの退院という方向は、欧米諸国のリハビリ病院入院日数から見ても、くい止めることのできない大きな流れであると考えます。

そこで当院としては、在院日数短縮圧力による稼働率低下が起こり、リハビリ施行単位数の更なる増加要求、ADL改善期待が暗然とのしかかってくる事であろうと予想されます。そのような環境下で、現在林立してきた回復期リハビリテーション病院の中で、今まで以上に選ばれる病院とならなければいけません。それらを踏まえ以下の計画を立案します。

1. リハビリテーション専門病院としてのアピール
 - ① 365日リハビリテーションを行う
 - i リハビリスタッフの増員
 - ii リハビリテーション施行単位の充実（患者1人9単位/日、場合によってはそれ以上）
 - ② 病棟、リハビリスタッフが共同したADL訓練の更なる充実
 - i 状況に応じてリハビリスタッフの早番、遅番などのシフト変更も検討
 - ③ 入退院の効率化と業務改善
2. ブランドイメージの確立（継続）
 - ① 学生の指導
 - ② 学会等での研究、発表
 - ③ 地域活動への参加
3. 病病連携・病診連携の充実（継続）
 - ① 情報提供の更なる効率化と連携パス改善充実、連携の会での情報発信
4. 地域に優しいオープンな病院となる（継続）
 - ① 当院の療法士勉強会を地域医療機関へ開放する
 - ② 当院主催のリハビリテーション研究会を通じ、地域医療機関の種々の職種のスタッフと定期的に交流を図る
 - ③ 公開講座の実施

2010年1月18日
戸田中央リハビリテーション病院
院長 佐藤 信也



看護部門

1. 概要

看護部長 竹田 聖子

1. 年次報告

平成22年度は、下記の目標を掲げ活動しました。

看護部目標

1. 患者・家族の病への思いに寄り添い、前に進むための力を回復できる環境を作る
 - 1) 患者・家族の自己決定権の尊重
 - 2) 安全な環境の提供
 - 3) 安心できる環境の提供
 - 4) 患者・家族が思いを表出できる機会の提供
2. 生活の場がリハビリテーションの場であることを再認識し専門職として主体的に活動する
 - 1) 摂食・嚥下訓練のシステムの強化
 - 2) 重症者支援
3. 安心して新しい生活を始められるよう地域を含めた他職種と連携する
 - 1) 外出・外泊訓練により安心して在宅に戻ることができる
 - 2) 退院指導、介護指導の徹底
4. 看護者として・組織人として成長できる
 - 1) 患者・家族・他職種との協働の中で看護のアイデンティティを示すことができる人材の育成
 - 2) 働きやすい職場づくり

年度の休日リハビリテーション開始に続き今年度は、リハビリテーション充実加算を取得しました。これは患者さんにより充実したリハビリテーションを提供できている病棟が算定できる加算で、患者さん一人当たり平均6単位（120分）以上のリハビリが提供できていることが条件になります。

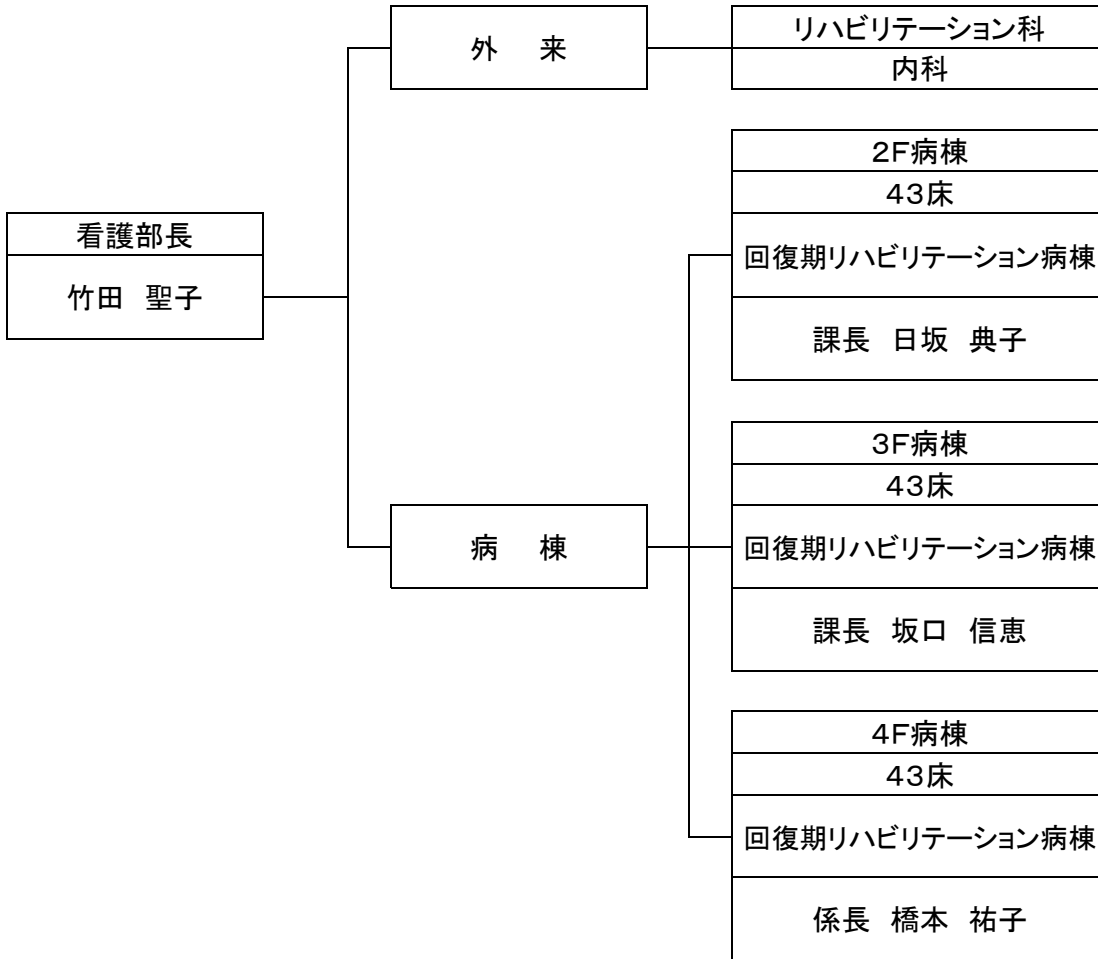
それに対する看護部の取り組みは、患者さんの一日のスケジュールを把握し、無理無駄なくリハビリに取り組むことができるよう環境を整えることです。入浴や食事の時間のバリエーションを増やし対応しました。

充実したリハビリ時間とはいえ24時間の中の120分です。残りの22時間が私たち看護に任された時間であるということを意識し、生活の場がリハビリテーションであることを再認識し取り組みました。

また、そのような中でも昨年同様各階の食堂を利用し患者さんの癒しとなるようなレクレーションや、御家族を支援する介護教室などを継続することができました。特筆すべきことは4月にそれまでに介護教室を卒業して退院された患者さんの御家族をお招きして介護教室同窓会（茶話会）を開催したことです。15名の御家族と5名の患者さんが参加くださり、退院後の生活の情報交換で盛り上がりました。「一人で介護していると不安になるので参加できてよかった」という御意見を多く頂きました。外来を持たない当院では患者さんの退院後の様子は気がかりでありましたので、とてもよい機会になりました。来年度以降も継

続していく予定です

組織図（平成22年3月31日現在）



2. 人事

1. 昇進

➤ 副主任

佐藤 絵馬 (院内昇格)

2. 転勤

➤ 転入

4月 1日付 日坂典子 (看護師) 戸塚共立第1病院より

5月 6日付 丹野琴美 (看護師) 戸田中央総合病院より

6月 1日付 山本陽子 (看護師) 朝霞台中央総合病院より

7月 17日付 檜山禅 (准看護師) 戸田中央総合病院より

3. 動態

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
採用	看護師	2	2		1					1		1	7
	准看護師	1							1				2
	高看学生												
	介護福祉士		1		1			1			1		4
	看護助手								1				1
	クレーク										1		1
合計	3	3		2				1	2	1	2	1	15
退職	看護師	1					2		1	1		2	7
	准看護師												
	高看学生												
	介護福祉士	1	1		1	1		1			1		6
	看護助手												
	クレーク												
合計	2	1		1	1	2	1		1	1	1	2	13

※産休者8名、育休者6名、転勤者4名は除く。

4. 看護単位と配置人員 (平成22年3月31日現在)

所属	病床	看護師	准看護師	介護福祉士	看護助手	クレーク	合計
2階病棟	43床	18 (1)	2 (2)	6 (1)	4 (1)	1	
3階病棟	43床	11 (2)	7 (3)	7	2 (1)		
4階病棟	43床	14 (1)	4 (1)	5 (1)	5 (2)	1	
部長室	—	2					
合計	129床	48	15	20	15	2	

() は非常勤

5. 看護職員の平均年齢

看護師	准看護師	介護福祉士	看護助手
35.8	33.9	33.4	41.2

3. 会議・委員会

1. 看護部会

- 人員構成（平成23年3月31日現在）
部長：竹田聖子
部員：日坂典子、兼本佐和子、坂口信恵、橋本祐子
- 目的
病院の方針、看護部の方針に基づき、看護管理に関する連絡調整や看護組織の運営、改善等協議し看護の質向上を図る。
- 運営
毎月2回 計22回実施
- 開催報告

開催日	議事内容	参加人数
4/6	休日リハビリテーション実施への対応について	4
4/20	申し送り廃止後の状況について	4
4/30	看護部総会について	4
5/21	看護部総会について、PGソフト採用後の状況について	4
6/3	各委員会からの情報の整理	4
6/29	人事考課について	4
7/15	茂原病院からの見学受け入れ、インターンシップ受け入れについて	5
8/10	中国人留学生への対応について、TMG看護介護学会について	5
8/31	摂食機能療法について	5
9/07	オムツ変更について	5
9/21	リネン庫の業者管理について	5
10/7	FIM、日常生活機能評価の活用方法について	5
10/16	TMG潜在看護師研修について	5
11/2	医療監視の報告	5
11/16	喫茶戸田リハ、シネマ戸田リハについて	5
12/7	地域リハビリテーション研究会への看護部からのアンケートの結果について	5
1/4	中途採用者の研修について	5
1/21	末梢ライン生食ロック用キットの検討	5
1/31	各委員会からの決定事項の確認	5
2/23	新年度の体制について、後期面接について	5
3/15	停電の影響について、対策について	4

➤ 活動報告（職員教育も含む）

開催日	内 容
5/14	看護まつり テ ー マ:その人らしさを支える看護 内 容 : 健康相談、健康チェック、福祉用具の展示、嚥下食の試食、パンフレットの掲示 参加者数: 52名
5/12	看護部総会 内 容 : 院長挨拶 今年度の看護部の方針 看護部委員会活動方針 各病棟プレゼンテーション 事務長挨拶
8/26, 27	高校生のインターンシップ受け入れ 内 容 : 車椅子乗車体験・浴室見学・遊びリテーション参加・患者さんとの会話 リハビリテーションの見学・機器による測定体験など 参加者 : 3名
11/27, 28	喫茶戸田リハ&シネマ戸田リハ 27日 14:00~16:00 喫茶とだりは 参加者 82名 28日 10:00~12:10: シネマ戸田リハ 「母べえ」上映 参加者43名

2. 主任副主任会議

3. 看護部教育委員会

➤ 人員構成（平成23年3月31日現在）

委員長：看護係長 兼本佐和子

委 員：2F病棟 日坂典子、平野真希

3F病棟 坂口信恵、本橋亜紀子

4F病棟 橋本祐子、加藤正美

顧 問：看護部長 竹田聖子

➤ 目的

ア) 看護の質の向上を図るため、自己の責任と役割を持ち、実践する自立した職員を育成する。

イ) 臨床指導者は教育的な関わりを持つことにより学生、患者、教育、病棟スタッフ間の良好な関係を持つことができる。

➤ 運営

毎月2回 計24回実施

➤ 開催報告

開催日	議事内容	参加人数
4/5, 26	顔合わせ、活動計画説明、研修担当者決定	7
		5
5/28	看護部教育計画修正及び更新、実習報告	7
6/7, 21	研修会計画、報告（脳血管疾患、FIM採点、基礎を固める研修～摂食・嚥下、～合併症予防、入職後3ヶ月研修、看護研究発表会、）、研究の進行状況確認	8
		6
7/5, 20	研修会計画、家族看護学検討(外部講師)、報告（ケーススタディ、障害者像とマネジメント、日常生活機能評価、基礎を固める（～高齢者看護～排泄ケア）、介護福祉士研修 ICF）、研究の進行状況確認、実習報告	7
		6
8/2, 16	研修会計画、報告（基礎を固める（～認知症看護））、研究の進行状況確認 研究進行、ふれあい看護体験報告、インターンシップについて	8
		7
9/6, 21	研修会計画後半期研修計画、報告（基礎を固める（～家族ケア～患者家族の心理）、TMG看護介護学会報告、研究の進行状況確認、インターンシップ報告、実習報告	7
		6
10/4, 18	研修会計画、報告（家族看護学1回目、ケーススタディ、研究の進行状況確認 実習報告	6
		7
11/1, 15	研修会計画、報告（介護福祉士②、口腔ケア）、戸田高看学生ケーススタディ報告、 実習報告、研究の進行状況確認	7
		8
12/6, 20	研修会計画、報告（家族看護学2回目、メンタルヘルス、基礎を固める～急変時の対応）ケーススタディ、研究の進行状況確認、実習報告、	8
		7
1/11, 17	研修会計画、報告（キャリア開発、急変時の対応、基礎を固める～まとめ1W目ICシミュレーション）研究の進行状況、実習報告	7
		8
2/7, 21	研修会計画、報告（基礎を固める～まとめ1W目ICシミュレーション、家族看護学、キャリア開発、MRM/感染合同研修、医療倫理）、研究発表報告(回復期病棟連絡協議会)、戸田蔵医師会看護専門学校との臨床指導者会	8
		8
3/28	研修会計画、報告（ケーススタディ、褥瘡研修）3/11の震災後研修の延期について1年間の活動の振り返り、実習報告	6

➤ 活動報告

開催日	議事内容	参加人数
4/2～6	新入職者研修（倫理、医療事故防止、感染、接遇、看護記録基準・手順）	13
4/21	急変時の対応	
5/6	FIMの採点の実際	33
5/21	脳血管疾患	39
5/25	プリセプティブ・プリセプターフォローアップ研修	5
6/5	基礎を固める～摂食・嚥下障害～	14

6/7	看護研究発表会	23
6/19	基礎を固める～合併症予防・異常の早期発見～	9
6/21	ケーススタディ発表会①	23
6/28	障害像とマネジメント	20
7/1	日常生活機能評価	4
7/3	基礎を固める～高齢者看護～	13
7/12	介護福祉士研修 ICF ①	13
7/17	基礎を固める～排泄ケア～	12
7/31	基礎を固める～認知症看護～	6
9/11	基礎を固める～患者・家族の心理～	12
9/29	家族看護学①	27
10/4	ケーススタディ発表会②	25
10/18	介護福祉士研修 ICF ②	13
11/1	口腔ケア	55
11/15	家族看護学②	25
12/6, 11	急変時の看護(NS用)	6
12/20	キャリア開発とキャリア発達	12
1/11	急変時の看護(補助者用)	6

➤ 戸田中央看護専門学校 実習生受け入れ状況

ア) 老年看護学実習Ⅱ

4月12日～30日(15日間) 12名
5月10日～28日(15日間) 6名
6月21日～7月9日(15日間) 12名
7月12日～30日(15日間) 6名
9月20日～10月8日(15日間) 12名
11月15日～12月2日(15日間) 5名

イ) 基礎看護学実習Ⅱ

8月30日～9月17日(15日間) 12名

➤ さいたま市立高等看護学院

ア) 成人看護学実習Ⅲ

5月31日～6月4日(5日間)
6月14日～18日(5日間)
7月5日～9日(5日間)

イ) 老年看護学実習

12月13日～17日(5日間)
1月10日～13日(4日間)

➤ 蕨戸田医師会看護専門学校

ア) 成人・老年看護学実習

9月13日～10月1日(15日間) 6名
10月11日～10月29日(15日間) 5名
11月1日～11月12日(10日間) 5名

➤ 研修の実績

No	開催日	主催	研修内容	参加者			
				2F	3F	4F	部長
1	5/15	国リハ	第21回公開研修会（アロマセラピー）				1
2	5/16	回りハ	日常生活機能評価者研修	2	1	1	
3	5/20	埼看協	新人看護師研修（全6回）	1	1		
4	5/22	埼看協	研究の取り組み講演会	1			
5	6/26	回りハ	病棟師長研修		1	1	
6	6/27	回りハ	看護介護研修	1	2	1	
7	6/1～	埼看協	看護学生実習指導者講習会（40日間）	1			
8	6/6	㈱ケーブ	褥瘡予防ケア最新情報	1	1		
9	6/12	家族ケア研究所	リハビリテーションにおける家族ケア		1		
10	6/18	TMG	介護リーダーシップ	1	1	1	
11	6/19	栃木N S T研究会	第10回埼玉栃木N S T研究会			1	
12	6/22	TMG	新人フォローアップ研修	1			
13	6/25	埼看協	体位排痰法			1	
14	6/27	㈱ネスレ	ネスレニュートリションセミナー			1	
15	6/28	埼看協	研究の基礎（3日間）	1			
16	7/10	埼看協	効果的な口腔ケア	1			
17	7/11	埼玉県摂食嚥下研究会	第11回講演会摂食・嚥下リハビリテーションの意識改革	2	2	1	
18	7/23～	埼看協	カウンセリング（5日間）		1		
19	8/18	TMG	新人記録研修	1			
20	8/26	埼看協	セカンドレベルフォローアップ研修				1
21	8/27,28	国リハ	2010 継続教育プログラム 摂食・嚥下	1	1	1	
22	9/3,4	日本摂食嚥下学会	日本摂食嚥下リハ学会研究大会				1
23	9/5	TMG	TMG看護介護学会	2	3	3	2
24	9/14,15	TMG	記録指導者研修	2	1	2	
25	9/30	埼看協	感染予防の基礎	1		1	
26	10/21	埼看協	家族看護			1	
27	10/30	埼看協	高次脳とリハビリテーション	1			
28	11/4	埼看協	高齢者の褥瘡ケア	1			
29	11/6	埼看協	キラリ看護	1			
30	11/6	埼看協	働き続けられる職場づくり			1	
31	11/9	埼看協	家庭看護		1		
32	11/12	埼看協	医療安全大会		1	1	
33	11/25	埼看協	摂食・嚥下障害患者の看護			1	
34	11/12	埼看協 7 支部	講演会 歯科医の立場から口腔ケアを考える			2	1
35	11/12,13	日リハ	第22回学術集会		1		1
36	1/18	埼看協	フィッシュ！哲学	1	1	1	
37	12/8	TMG	皮膚・排泄ケア研修	1		1	
38	12/22	TMG	医療安全管理講習会			1	1

39	1/24	埼看協	多剤耐性菌とその理解				1
40	2/5	埼看協	看護学生実習指導者フォローアップ研修	1			
41	2/8	埼看協	プリセプターシップ	1		1	
42	2/15	TMG	管理Ⅲ 労務管理	1			
43	2/18,19	回リハ	研究大会 IN 長崎	1		1	1
44	2/25	埼看協 7 支部	研究発表会				
45	3/2	日リハ	第 38 回看護研修会 (ICF、看護倫理)		1	1	
参加者数				29	21	27	10

埼看協：埼玉県看護協会、国リハ：国際リハビリテーション看護研究会

回リハ：全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会

➤ 院内看護・介護ケーススタディ発表演題

開催日	演題名	所属	発表者
6/21	介助量の多い患者・家族の看護を通して学び得たこと	2 階病棟 看護師	佐藤静香
	自宅退院への指導を通しての学び	3 階病棟 看護師	鈴木麻美子
	患者の価値観を尊重することの重要性 ～F氏との関わりから学んだこと～	4 階病棟 看護師	高橋奈緒
10/4	チームアプローチにより学んだ不穏行動の原因と対処 －チームと患者と家族への関わり、協力を得て学んだこと－	4 階病棟 看護師	行方信
	共依存の患者と家族への関わりを通して学び得た事	2 階病棟 介護福祉士	林美津江
	医療処置中に脳梗塞を発症した患者との関わりを振り返って	3 階病棟 看護師	佐藤絵馬
	失語症患者との関わりを振り返って	2 階病棟 看護師	松田美紀
2/21	排泄の自立が困難な患者のアプローチを振り返って	3 階病棟 看護師	松田裕美
	病院での介護福祉士の役割とは －排泄動作の課題を通して学んだこと－	4 階病棟 介護福祉士	井汲咲貴
	高次脳機能障害患者との関わりを通しての学び	2 階病棟 看護師	重田愛子
	1. 不穏患者とその家族との関わりを振り返って	2 階病棟 看護師	小池美由紀

➤ 学会研究会等の発表実績

開催日	学会・研究会名	発表演題	所属	発表者
9/5	TMG 看護・介護学会	退院後の内服自己管理を可能にした調剤薬局との連携 ～調剤薬局への情報提供書作成を試みて～	4 階病棟	加藤正美
2/18	回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 研究大会 IN 長崎	誤薬の要因分析による自己管理基準・手順の改訂	4 階病棟	今川寛海
2/18	回復期リハビリテー	チームアプローチと地域施設との連携強化	2 階病棟	笹野彩乃

	シオン病棟連絡協議会 研究大会 IN 長崎	の必要性 ～多職種による退院後訪問を行って～		
--	--------------------------	---------------------------	--	--

➤ 雑誌掲載

出版社	雑誌名	掲載名	所属	発表者
メディ カ出版	リハナース	家族のカルテ 「患者と妻との関係性が強かったケースへのかかわりを通して学んだこと」	2階病棟 介護福祉士	林美津江

4. 看護部記録委員会

➤ 人員構成（平成23年3月31日現在）

委員長 4F係長 橋本祐子

委員 2F 日坂典子 本橋枝里子

3F 佐藤絵馬

4F 橋本恵美子

顧問 看護部長 竹田聖子

➤ 目的

ア) 患者の姿が見える、全職種で活用できる記録が書ける

イ) 標準看護計画を整備し質の高い看護ケアが行えるよう支援する

ウ) 退院サマリーの充実

➤ 運営

第1木曜 15:30～16:30

➤ 開催報告

開催日	議事内容	参加人数
4/1	・顔合わせ ・今年度の活動方針の確認 ・FIMの研修企画、準備	6
5/6	・FIM研修会の打ち合わせ（研修を同日実施） ・データベースマニュアルの修正	6
6/3	・データベースマニュアルの修正 ・7/1実施の日常生活機能評価研修の企画・打ち合わせ ・前回のFIM研修会の結果報告	7
7/1	・日常生活機能評価研修の打ち合わせ（研修を同日実施） ・データベースマニュアルを各病棟に2部配布する	6
8/5	・データベースマニュアルを使用しての評価 ・H21年度10月以降入職したスタッフの記録監査実施を企画 ・7/1以降日常生活機能評価の研修を未受講者に適宜実施	6
9/3	・H21年度10月以降入職したスタッフの記録監査（自己評価） ・9/14 TMG本部による研修課題を実施し委員が情報共有する ・退院サマリーの見本作成希望について検討（電子カルテ版）	5
10/7	・H21年度10月以降入職したスタッフの記録監査（他社評価）が終了、結果報告 ・看護計画評価の入力方法について検討	4
11/4	・9/14実施のTMG本部による研修で気づいたことや変更した方が良い点により看護記録記載基準の見直し・検討	5
12/2	・看護記録記載基準の追加・変更	6

	・本部プロジェクトからのアンケート資料作成	
1/6	・看護記録記載基準の追加・変更 ・全スタッフの記録監査実施(自己監査) ・H23年度の記録委員会の目標設定	5
2/3	・看護記録記載基準の追加・変更 ・記録監査(他者監査)実施	5
3/3	・看護記録記載基準の追加・変更 ・1年間の反省会	5

- 活動内容(職員教育も含む)
 - ア) 記録監査 1回/人以上
 - イ) データベースマニュアル作成・実施・評価
 - ウ) FIM・日常生活機能評価の研修会実施
 - エ) 記録委員に対する勉強会
 - オ) 看護記録記載基準の見直し・変更

5. 看護部業務委員会

- 人員構成(平成23年3月31日現在)
 - 委員長 兼本佐和子
 - 委員 山本陽子 大野寛子 渡辺美智子
 - 顧問 竹田聖子(看護部長)
- 目的
 - 1、業務の標準化を図り、質を向上する
 - 2、摂食・嚥下障害へのケアをシステム化し、機能の向上を図る
 - 3、患者、家族への教育を効果的に行う
- 運営
 - 毎月1回 第2水曜 計12回実施
- 開催報告

開催日	議事内容	参加人数
4/14	今年度の活動方針の確認 入院時オリエンテーションについて 患者指導パンフレットについて	3
5/12	入院時オリエンテーションについて 入院のご案内の変更について 患者指導パンフレットについて	3
6/9	入院時オリエンテーションについて 看護手順見直し 患者指導パンフレットについて	4
7/14	入院時オリエンテーションについて 看護手順の見直し 患者指導パンフレットについて	4
8/11	入院時オリエンテーションチェックリストについて 看護手順の見直し 患者指導パンフレットについて	3
9/13	入院時オリエンテーションチェックリストについて 看護手順の見直し 経管栄養について 患者指導パンフレットについて	4
11/15	入院時オリエンテーションチェックリストについて 看護手順の見直し 患者指導パンフレットについて	4
12/7	看護手順の見直し 患者指導パンフレットについて 口腔内チェック表	7
1/12	看護手順の見直し 患者指導パンフレットについて 口腔内チェック表	5
2/9	看護手順の見直し 患者指導パンフレットについて 救急カート、包交車、薬剤チェック表の改訂について	5

3/9	今年度の評価・反省	3
-----	-----------	---

- 活動内容（職員教育も含む）
 - ア、看護手順の見直し適正化
 - イ、入院時オリエンテーションのマニュアル作成
 - ウ、摂食、嚥下障害へのアプローチの標準化
 - オ、患者、家族への指導の強化

6. セーフティーマネージメント対策委員会

- 人員構成（平成22年3月31日現在）
 - 委員長：4 F 副主任 清水 睦子
 - 委員 4 F 主任 今川 寛海
 - 2 F 副主任 松原 昌子
 - 3 F 鈴木 由美
 - 顧問 看護部長 竹田 聖子
- 目的

医療安全管理体制の充実を図り事故の未然防止活動を推進する。また、患者や医療従事者を感染から守るための対策を講じ遵守を推進する。
- 運営

第3木曜日 15:30～17:00
- 開催報告

開催日	議 事 内 容	参加人数
4/16	今年度の方針・活動内容について 3月のアクシデント報告・分析 要因分析について（KYT実施に向けて方法検討）勉強会について	4
5/21	勉強会について（MRM・感染、危険予知） 院内ラウンドについて 4月のアクシデント報告・分析	4
6/18	5月のアクシデント報告・分析 ラウンド結果・報告→ニュースレターで周知 勉強会（7/1実施）について	4
7/16	6月のアクシデント報告・分析 誤薬勉強会の結果・報告 KYTについて 危険予知の勉強会について 離棟・離院センサーの設置について 4段BOX導入について	5
8/20	7月のアクシデント報告・分析 アクシデントレポートの様式検討について 院内ラウンドについて 危険予知勉強会について	3
9/17	8月のアクシデント報告・分析 ラウンド実施結果	3
10/22	9月のアクシデント報告・分析 事故分析の現状と今後について ニュースレター発行	5
11/26	10月のアクシデント報告・分析 4段BOXのアンケート結果について 採血トレー・針ポイ購入	5
12/17	11月のアクシデント報告・分析 4段BOXについて 採血トレー・針ポイの使用状況について 入浴介助時の事故防止について	5

1/21	1 2月のインシデント報告・分析 収納BOXについて 採血トレー・針ポイについて 風呂技術チェック表について	5
2/18	1月のインシデント報告・報告 入院時4点柵について身体拘束廃止推進委員会との合同会議 収納BOX、風呂介助技術チェックについて 院内ラウンドについて PHS増台について	4
3/19	2月のインシデント報告・分析 院内ラウンド→ニュースレター発行 今年度の反省と来年度の課題	4

➤ 活動内容

ア) 医療事故防止対策について

転倒転落事故防止対策

- ・入院時4点柵実施→身体拘束廃止委員会との合同会議実施し今後の対策検討中
- ・KYTの勉強会実施 各病棟にレポート分析
- ・病棟ラウンドの時間再検討→16時・22時実施
- ・ベッド周囲の整理整頓目的のため病室に写真付きポスター表示、収納BOX設置については検討中

誤薬防止対策

- ・KYTによる確認法実施（指差し・声掛け）

採血時の事故防止対策

- ・採血時のマニュアル見直し
- ・針ポイ、個人用トレイ購入

離院 離棟防止対策

- ・エレベーター施錠時インターフォン使用しスタッフ確認とする。（各階分購入）

入浴時の事故防止対策

- ・入浴介助者の技術チェック実施→リーダー中心に入浴前カンファレンスする

イ) ニュースレターの発行（ラウンド結果報告、事故分析報告）2回

ウ) 医療安全に関する教育研修

- ①平成21年07月 誤薬についてグループワーク・KYTについて
- ②平成21年10月 危険予知研修（新入職者・介護職員対象）
 - ・高次脳機能障害患者の障害を理解しその周囲に潜む危険を考える
 - ・グループワーク

エ) 事故報告書の要因分析

オ) インフルエンザ対策

流行時受付にて来院者への説明・マスクの配布

4. 身体拘束廃止推進委員会

➤ 人員構成（平成22年3月31日現在）

委員長：3F主任 野口 亜紀子
委員：看護部長 竹田 聖子
2F 笹野 彩乃
4F 大和田 茂樹

➤ 目的

- ア) 患者の人権を尊重し、身体拘束「ゼロ」を目指し活動を行う。
- イ) 事故防止の観点から、身体拘束の考え方を看護部職員に教育・指導する。

ウ) 安全器具（センサー類）の管理。

➤ 運営

第4水曜日 15:30～16:30

➤ 開催報告

開催日	議事内容	参加人数
4/15	・今年度の目標・活動内容について ・身体拘束解除のためのカンファレンスシートの作成について	4
5/27	・安全器具管理状況確認、身体拘束者報告、各階ラウンド ・カンファレンス内容、カンファレンスシートの記載内容について	4
6/26	・安全器具管理状況確認、身体拘束者報告、各階ラウンド ・拘束解除に向けたカンファレンスシート使用状況の確認 ・勉強会について	4
7/22	・安全器具管理状況確認、身体拘束者報告、各階ラウンド ・8月の勉強会の内容について企画	4
8/26	・安全器具管理状況確認、身体拘束者報告、各階ラウンド ・勉強会の事前打ち合わせ、準備	4
9/16	・安全器具管理状況確認、身体拘束者報告、各階ラウンド ・勉強会の報告、反省 ・入院時4点柵評価のための、実態調査施行について	4
10/28	・安全器具管理状況確認、身体拘束者報告、各階ラウンド ・入院時4点柵の実施状況の確認 ・新しい安全器具購入の検討	4
11/25	・安全器具管理状況確認、身体拘束者報告 ・各階ラウンドのあり方について ・車椅子取り付けテーブルのデモについて ・入院時4点柵実施状況について	4
12/11	・安全器具管理状況確認、身体拘束者報告 ・新しい安全器具の購入、欠品についての検討	4
1/27	・安全器具管理状況確認、身体拘束者報告 ・入院時4点柵実施状況の検討 ・セーフティマネジメント委員会との合同カンファレンス実施について	4
2/11	・セーフティマネジメント委員会との合同カンファレンス（入院時4点柵施行の規定について） ・安全器具管理状況確認、身体拘束者報告	3
3/31	・今年度の反省と来年度の課題について ・安全器具管理状況確認、身体拘束者報告	4

➤ 活動内容

ア) 身体拘束解除のためのカンファレンスの内容、進め方の統一を徹底

イ) 身体拘束における規定・対応手順の改定

ウ) 安全器具の管理、身体拘束施行状況の実態調査

エ) 入院時4点柵施行基準にていての実態調査、改定に向けた取り組み

オ) 定期的な院内ラウンド

8. 療養委員会

➤ 人員構成（平成23年3月31日現在）

委員長 久保真美

委員 林美津江 川上幸子 細田智明 田代都子 井汲咲貴

顧問 看護部長 竹田聖子

➤ 目的

ア、快適な療養環境を整える

イ、療養生活に必要な物品を整える

- 成果目標
 - ア、季節の行事を取り入れ、潤いのある療養環境を目指す
 - イ、効果的な遊びリレーションが行えるよう支援する
 - ウ、患者に使用する寝具、オムツ、タオル類が適切に使われるよう定数の見直しやシステムの改善を行う
- 運営
 - 委員会 毎月1回 第3金曜日 15:30～
- 開催報告

開催日	議事内容	参加人数
4/17	・顔合わせ ・今年度の活動方針の確認	6
5/21	・リネン庫清掃・マットレスのクリーニングについて ・コンサート・年次交換について	7
6/18	・七夕について	7
7/16	・マットレスの管理方法	5
8/20	・コンサートについて ・来月の創作遊びりにについて	6
9/17	・秋のコンサート・ボランティアコンサートについての詳細	7
10/15	・創作遊びりの反省 ・マットレスの今後	6
11/19	・ボランティアコンサートとクリスマス会について ・ゆず湯、年次交換について	7
12/17	・クリスマスコンサートの進行について ・サンタクロースについて	6
1/25	・節分について	4
2/18	・ひな祭りについて	6
3/18	・今年度の反省 ・来年度に向けて	7

- 活動内容
 - ア、季節ごとの行事の実施
 - 年3回の音楽会（コンサート）の実施
 - イ、絵手紙教室 毎月1回第3日曜日14:00～
 - 退院後も継続して趣味にできるような遊びリレーションの提供
 - 牛乳パックを利用した箱作り
 - ウ、各病棟のリネン類の使用状況把握
 - スタッフがコスト意識を持つように情報提供
 - マットレス管理表を作成し、各病棟で情報共有
- 行事開催実績

開催日	内容	場所
5/4,5	端午の節句、菖蒲湯	各病棟浴室
6/13	あじさいコンサート コンセール・ルネッサ吹奏楽団	リハビリ室
7/7	七夕会	各病棟食堂談話室
10/31	秋のコンサート スタッフによるマリンバ、ピアノ演奏	各病棟食堂談話室
11/21,22	冬至 ゆず湯	各病棟浴室
12/23	クリスマスコンサート、クリスマス会	各病棟食堂談話室
2/3	節分会	各病棟食堂談話室
3/3	ひな祭り	各病棟食堂談話室

9. 介護教室推進委員会

➤ 人員構成（平成23年3月31日現在）

委員長 坂口信恵

委員 今川寛海 平野真希 大和田清香 壇智子 平野久子 小林里子 大森真由美
齋藤紘子

顧問 竹田聖子

➤ 目的

ア、家族に介護についての基本的な知識を学んでもらうことで、病棟においての個別指導の導入的役割を果たす

イ、長期的な介護生活の中で、介護者自信の健康を保つ方法を学んでもらう

ウ、集団で学ぶことで家族同士の交流、介護についての不安表出の場となる

➤ 目標

ア、年20回開催

イ、車いすの介助、入浴、着替えの介助、合併症の予防、退院に備えてを1クールとし、各クールの境は設けずに、4回受講で完了

ウ、介護教室と病棟の連携を強化する

介護教室での実施内容、家族の状況、病棟での様子等の情報を教室、病棟間で共有する

エ、新規参加者が、退院後の生活を知る機会とし退院患者との交流の場を作る

➤ 運営

毎月第4金曜日 15:30～

➤ 議題

介護教室開催、介護教室同窓会開催、フォローアップ教室開催について

➤ 開催実績 開催回数20回 延べ参加者数392名

クール	開催日	テーマ・内容	担当者	参加人数
1	5/30	退院に備えて～介護者の心構え～	坂口	30
	6/6	体験！車いすの介助	大森 齋藤 平野	20
	6/27	体験！入浴・着替えの介助	平野 大和田 壇	27
	7/11	合併症の予防	坂口 今川 小林	34
2	7/25	退院に備えて～介護者の心構え～	坂口	17
	8/8	体験！車いすの介助	大森 齋藤 平野	19
	8/22	体験！入浴・着替えの介助	平野 大和田 壇	12
	9/12	合併症の予防	坂口 今川 小林	17
3	9/26	退院に備えて～介護者の心構え～	坂口	11
	10/3	体験！車いすの介助	大森 齋藤 平野	16
	10/24	体験！入浴・着替えの介助	平野 大和田 壇	13
	11/14	合併症の予防	坂口 今川 小林	22
4	11/28	退院に備えて～介護者の心構え～	坂口	16
	12/5	体験！車いすの介助	大森 齋藤 平野	20
	12/19	体験！入浴・着替えの介助	平野 大和田 壇	15
	1/16	合併症の予防	坂口 今川 小林	15
5	1/30	退院に備えて～介護者の心構え～	坂口	19
	2/6	体験！車いすの介助	大森 齋藤 平野	23
	2/27	体験！入浴・着替えの介助	平野 大和田 壇	25
	3/13	合併症の予防	坂口 今川 小林	21

➤ 実施報告

休日リハビリテーション導入後、病棟の食堂での開催にも慣れ、家庭的雰囲気の中で行うことができている。毎回多くの参加人数があることから、前年度の反省点を活かして(参加人数が多く

なるにつれ、最後までフォローしきれなかった)入院期間中に参加できるように調節していった。参加する家族のニーズが高く、毎回家族のニーズに近づけた内容にし、介護する人される人の大変さを伝えるように工夫した教室を心掛けた。結果、充実感・達成感を得ることが出来た。

だが、あれもこれも教えたいという気持ちが強く、毎回教室は時間延長となった。もう一度基本に戻り内容の見直しと、病棟スタッフへのフィードバックを強化していくことを、来年度の課題と考えている。

平成 22 年 4 月 25 日に、第 1 回介護教室家族同窓会を開催。20 名(患者 5 名)の参加者があり、和やかに開催する事ができた。平成 23 年 4 月 24 日には第 2 回、平成 21 年度介護教室参加者の同窓会を開催予定。平成 23 年 5 月 15 日には、平成 22 年 5 月～2 月までの参加者を対象に、退院に向けての指導から、退院後の在宅生活に沿った指導とし、「無理をしない介護」をテーマに、介護技術を指導していくことを目的とした第 1 回フォローアップ教室の開催を予定している

9. 患者参加型プロジェクトリーダー会議

➤ 人員構成 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

委員長 橋本祐子

委員 佐藤静香 古市享子 中井浩美

顧問 竹田聖子

➤ 目的

ア) 患者・家族が入院中から退院後まで使用できるファイルを開発する

- ・患者と目標が共有できる

- ・退院後に疾病管理のための情報として地域医療機関と連携できる

➤ 開催報告

開催日	議 事 内 容	参加人数
4/06	・顔合わせ ・今年度の活動方針の確認 ・各階の患者参加型ファイル実施率調査	4
5/19	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・家族指導方法を検討する	4
6/02	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・7/5 実施予定の ICF 勉強会周知 ・患者参加型ファイルの購入を検討し、各病棟での購入を依頼。 ・各病棟でプロジェクト立ち上げを検討し、カンファレンスができるよう依頼。	4
7/07	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・ICF を導入し、リハビリテーション実施計画書への記入方法の勉強会実施 ・退院後にファイル内の用紙を配布する事を統一する。	4
8/04	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・IC 後の説明を担当ナースが実施していくためのマニュアルの検討 ・退院後のファイル用紙を配布が継続されているかを確認 ・家族に対しての介護指導の促進	4
9/10	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・ファイルの内容改善について	4
10/06	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・介護指導の必要患者のリストアップ	4
11/12	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・各階の IC 後の説明を担当ナースが実施状況報告 ・中間期の各病棟の結果報告 (書面にて提出)	4
12/01	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・介護福祉士による ICF シートの進捗状況確認	4

1/05	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・各階欠席者に対し、ICF、IC後のナースの説明・介護指導の進捗状況報告(書面にて提出)	2
2/02	・各階の患者参加型ファイル実施率調査 ・ICF、IC後のナースの説明・介護指導の進捗状況報告	2
3/02	・1年間の反省会 ・各階の患者参加型ファイル実施率調査(書面にて後日提出)	4

➤ 活動計画

- ア) 今年度は患者参加型ファイルをスタッフに周知・活用してもらうために、実施率を毎月発表とした。
- イ) 介護福祉士によるICFシートの導入
- ウ) 介護が必要な患者・家族に対する介護指導チェック表の開発・使用・評価
- エ) 担当ナースによるIC後の説明の実施・評価

4. 2F病棟

課長 日坂 典子

1. 病棟概要

➤ 患者概要

2階病棟は43床の回復期リハビリテーション病棟です。

疾患別では脳血管障害約70%、骨関節疾患約26%、廃用症候群約3%です。平均在院日数は79.7日と、脳血管障害の患者が減少した為か、昨年に比べやや短縮となっています。

自宅退院率は68.6%と昨年度を下回る数値になっています。入院患者の社会的背景の変化も影響していると考えられます。今後は在宅へ向けてのアプローチ

➤ スタッフ概要

1年間で中途入職者、退職者、異動が数名ありましたが、平成23年3月31日現在、常勤が看護師17名・介護福祉士6名・看護助手3名で、非常勤が看護師2名・准看護師1名・看護助手1名・看護クラーク1名で構成しケアにあたりました。

11月に主任1名が異動になり、4名の管理職体制となりました。また、臨床指導者も1名から3名に増えました。

※産休・育休職員を除く

職種	役職	氏名
看護師	課長	日坂典子
	主任	望月真理子
	副主任	平野真希(臨床指導者)、山本陽子(臨床指導者)
	臨床指導者	阿部正子
	スタッフ	堤克美、鴨志田恵美子、小池美由紀、笹野彩乃、佐藤静香、松田美紀、本橋枝里子、大島利世、土田恵理子、林奈央子、西本真那実、重田愛子、木皿みつる、世利圭子
准看護師	〃	鈴木揚子
介護福祉士	〃	大和田清香、久保真美、檀智子、林美津江、間宮宏樹、岩切かず美
看護助手	〃	橋本禮子、小玉則子、大沢由美子、陳露
クラーク	〃	東海林奈央

2. 病棟目標と経過

- 回復期リハビリ病棟スタッフとして、チームアプローチ力をアップする
 - ア) 自宅退院 80%以上
自宅退院率は 68.6%と目標に到達しなかった。今後も入院時から、自宅退院の可能性を検討し、介護教室への参加促進や早目の患者家族指導・多職種でのカンファレンスの充実を更に図っていく。
 - イ) 入院時から退院時の FIM が 25 点以上アップする。
FIM の差異は 23.9 点と目標達成できなかった。適時評価し、積極的に介入を行っていく。
 - ウ) 自宅退院患者の外泊推進
リハカンファレンスとモジュールカンファレンス時に検討し、促しを行った。
 - エ) リハカンファレンスへの看護介護スタッフの参加
リハカンファレンスへの参加は担当看護師が必ず参加しているが、介護士は参加できていない。今後は介護職が参加できるよう調整を行っていく。
 - オ) 各 IC 後担当 Ns と患者、家族でカンファレンスの実施・参加型計画の見直し
IC 後のカンファレンスは実施できている。今後は参加型計画の見直しの充実を図っていく。
 - カ) 退院後訪問 1 件/月以上
退院後訪問は看護研究で 1 件実施したが、それ以外は実施されていない。多職種と事例検討し、必要時に今後は訪問をしていく。
- 回復期リハビリ病棟スタッフとして、ケアの質・量ともにアップする
 - ア) 摂食嚥下療法 300 件/月
摂食嚥下療法は平均 272.2 と目標に達することは出来なかった。今後はチーム内でのカンファレンスを充実させていきたい。
 - イ) 要介助者のケアの徹底（チェック表サイン実施率 100%）
チェック表の見直しは介護職により毎日更新し、毎週金曜日にカンファレンスで見直しを実施した。実施サインもスタッフが意識することにより体着することが出来た。
 - ウ) 身体拘束患者「0」目標
常時 2 名以下を目標に挙げていたが、実現には至らなかった。今後も拘束ゼロの視点を常に持ち続け、検討を継続していく。
 - エ) 誤配膳「0 件」
今年度誤配膳は 3 件。人為的なインシデントだったため、KYT の徹底を行っていく。
- 回復期リハビリ病棟スタッフとして、看護人・組織人としての成長
 - ア) 全員ラダーレベル 1 ランクアップ
全員がクリニカルラダーを 1 ランクアップすることは出来なかった。クリニカルラダーの目標を各スタッフが持ち続けられるような工夫をしていく。
 - イ) ラダーレベル別研修参加 90%以上
90%以上を達成することは出来なかったので、出席できるような勤務の配慮を継続していく。
 - ウ) 毎月病棟会での勉強会の実施
毎月実施することは出来なかったため、来年度は病棟会担当者がテーマを決定し実施できる体制作りをしていく。

4. 3 F 病棟

課長 坂口 信恵

1. 病棟概要

➤ 患者概要

平成 22 年度の入院患者の疾患別割合は、脳血管疾患 69.5%、整形疾患 23.8%、廃用症候群 5.4%と、昨年度と大きな変動はありませんでした。脳血管疾患・整形疾患が極端に多い月がありましたが、平均在院日数は 91.9 日でした。重症患者を 56.3%受け入れ、78.3%と高い改善率をだしています。患者背景として、高齢者の独居や独身者が多く、また家族の介護力の低下がみられましたが、自宅退院率は 77.4%と、昨年と大きな変動はありませんでした。

➤ スタッフ概要

一年間の動態は、中途入職者・退職者・異動の転出が数名ありましたが、人員の補充もあり、平成 23 年 3 月 31 日現在、看護師 10 名、准看護師 9 名、介護福祉士 7 名、看護助手 1 名、計 27 名で患者ケアにあたりました。それぞれのライフスタイルで産休、育休及び介護休暇と一年を通して頻繁にありましたが、既存のスタッフと病棟を越えての協力で乗り越えることができました。

看護課長 1 名、副主任 1 名昇進、介護福祉士 1 名取得しました。

※産休・育休職員を除く

職種	役職	氏名
看護師	課長	坂口信恵
	主任	
	副主任	清水睦子、井関和江、佐藤絵馬
	臨床指導者	井関和江、本橋亜紀子
		松田裕美、本橋亜紀子、広瀬里恵子 丹野琴枝、山田千恵子、車田理保
准看護師		吉井愛子、中野和子、吉池典子、佐藤純子 永井和也、鈴木淑江、有路さつき、大野寛子 牧野杏子
介護福祉士		小林里子、川上幸子、平野久子、細田智明 青木智恵、秋山力也、加藤多賀子
看護助手		春山泰子

2. 病棟目標と経過

➤ 患者・家族の望む生活を支援するために、患者の思いに寄り添い、家族ケアを重視した看護・介護が提供できる。

- ① 前年度からの継続で、3つのプロジェクトから障害別看護アプローチをしてきました。それぞれのプロジェクト活動は、前年度からの継続で実施できていましたが、新たな取り組みはなく、ややマンネリ化が目立ってしまった印象があります。申し送りも混乱することなく廃止でき、ケア時間の確保はできています。来年度に向けてのプロジェクトの課題と、看護師・介護福祉士として当たり前のことが、当たり前に行える看護・介護の基礎固めを強化し、ケアの質の向上を目指します。
- ② 患者・家族の思いが表出できる場の設定と、自己決定ができるような環境を整えるように、

積極的に働きかけをしてきましたが、IC後の家族への声かけが不足しており、患者・家族の思いの表出までには至りませんでした。退院時CFは、全患者に実施できましたが、説明時期が退院当日になることが多くみられ、質問が受けられない状況でしたので、来年度の課題とします。

- ③ 患者・家族の思いに寄り添う姿勢がもてるように、患者・家族の心理、看護倫理研修参加を促すことで、ほぼ全員参加することができました。スタッフの時間の許す限り患者に寄り添う姿や、家族来院時には、積極的に声かけする姿が見られました。

今年度の介護教室への参加者は392名と、前年よりは下回りましたが、介護教室推進委員会との連携はできました。来年度は更なる連携を目指し、介護教室を土曜日を実施し、多くのスタッフに見学してもらい、協力を呼びかけたいと考えています。

➤ 専門性の発揮と主体的な活動をもって、生活に密着したリハビリテーションの提供と、安全・安心・安楽な癒しのある療養環境を整えることができる

- ① 患者一人一人が、無理なくリハビリ時間が確保できるように、スケジュールの調整や入浴・食事時間の調整、体調管理を含めそのつどリハビリスタッフとの連携がとれました。来年度も、疾病から予測できるリスクをも含め調整ができるようにしていきます。
- ② 認知症・高次脳機能障害患者の対応は、病棟を超えての協力体制をとり実施することができましたが、人員不足もありタイムリーに対応することが困難な状況でした。リハビリ拒否の患者へは、自主トレメニューでできる範囲での実施はできました。今後も、対応困難な患者対応は、病棟を超えての協力体制を、整えていきたいと考えています。
- ③ 転倒、転落、誤薬、約束違反によるインシデント・アクシデント件数の減少に向け、リスクCFの活性化、事例分析、具体的対策の検討と周知、リスクの高い時間への人員配置、患者・家族へリスクの指導を視野にいれMRM委員、身体拘束推進委員、リハビリスタッフと連携をとりました。特に、セーフティマネージメント委員によるKYT(危険予知トレーニング)を導入したことで、レベルⅢアクシデント1件ありましたが、前年度よりは減少しました。

➤ 在宅復帰が安心してできるように、地域を含めたチームアプローチができる

- ① 休日リハビリ体制がとられるようになり、外出・外泊する機会が減ってくることを考慮し、クリニカルパスにFIM点数をもとに外出、外泊を視点に入れた他職種とのCFの充実を試みました。クリニカルパス上は、患者のFIM点数が到達せず実施例はありませんでしたが、他職種との家族指導の実施はでき、安心して外出・外泊をさせることができました。また、介護福祉士による介護指導で、要介護5の患者を自宅退院させることができました。来年度は、退院時には看護・介護の両面から患者をみるような、介護サマリーを作成したいと考えています。レベルⅢ以上の看護師による退院後の調査実施はできませんでしたが、来年度は退院後の状況把握と廃用症候群予防の一環として、介護教室推進委員会と連携して、フォーローアップ教室を開催していきたいと考えています。

➤ 看護師として、組織人として成長できるための職場づくり

- ① 外研究発表は未着手で終わりました。クリニカルラダーのレベルが、全員一段階アップすることはできませんでしたが、ラダー表を基に、自分のできていないところを面接で確認し、必ず達成するように目標にあげることにしました。院内・院外研修参加の希望もなく、消極的な面が目立ってしまいました。有給休暇取得率は100%。職員満足度・やりがい感65%と低く、達成感が得られないスタッフが多く感じます。来年度は、フィッシュ！哲学を導入しやりがいのある、楽しい職場づくりをしていきたいと考えています。

6. 4 F 病棟

係長 橋本 祐子

1. 病棟概要

➤ 患者概要

平成 22 年度の入院患者の疾患別内訳は、脳血管疾患 73.0%、整形疾患 20.5%

廃用症候群 5.4%の割合で、昨年度同様脳血管疾患患者が大きな割合を占めていましたが、廃用症候群の患者も増えてきました。昨夏の暑い日が続いた為、秋から冬にかけて脳血管疾患の患者が多く見られました。

また、外出・外泊は月 11 件(平均)と多く、自宅復帰率が 77.1%という良い結果につながりました。

➤ スタッフ概要

平成 23 年 3 月 31 日現在の職員は看護師 14 名、准看護師 4 名、介護福祉士 5 名、看護助手 5 名、看護クラーク 1 名で構成されています。

今年度も新卒の入職はなく、中途入職者が 3 名、他病棟と系列病院からの異動で 22 名、計 5 名が加わりました。中途入職者へは急性期とは違い、障害を持った患者の心理・患者・家族を含めた関係作りを中心に病棟全体で支援してきました。

また、全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会による回復期リハ認定看護師を 1 人取得しました。

患者へのケアを安全に行うようにするため、KYT を取り入れました。主な活動としてナースコールが常に押しただけのように、洗濯バサミ(色は青)を使ったラウンド「青ラン」を実施しベッドサイドでの転倒が減少しました。

係長 1 名、副主任 1 名に昇進しています。

※産休・育休職員を除く

職種	役職	氏名
看護師	係長	橋本祐子、
	主任	今川寛海
	副主任	加藤正美
	臨床指導者	今川寛海、石田陽子、加藤正美
		岩塚裕子、渡辺美智子、橋本恵美子、土屋美乃、盛田和恵、町田瑠夏 滝本弥生、行方信、清水美里、佐藤秀美
准看護師		中井浩美、土川純子、檜山禅、関根美佐緒
介護福祉士		大森真由美、大和田茂樹、斎藤紘子、井汲咲貴、高田たず子
看護助手		霜川由紀子、田代都子、渡邊恵、野島幹子、土屋彩乃
クラーク		榊原薫

2. 病棟目標と経過

➤ 患者・家族の思いに寄り添い、安心できる環境を提供する。

昨年同様、患者参加型ファイルの実施率 70~80%を保つことができました。

そして、看護計画の更新率も 50%と上昇し、患者参加型プロジェクトの活動が良かったと考えられます。退院前にカンファレンスを実施することで患者のできる・できない部分を理

解してもらうことができ、最終的な準備もすることが出来ており効果的だったと聞いております。

介護教室への参加を勧め、介護指導を行うことで重症患者 2 例が自宅退院することが出来ました。来年度も実施、継続していきたいと思っております。

➤ リハビリ充実に向け、リハビリに集中できる環境を作る。

急性期に比べ、回復期の平均在院日数は長くストレスを感じる環境を軽減する為に患者との対話時間を多くするように心がけました。居室ではなくカンファレンス室の使用で現状での不安や悩みを聞くことができ、患者と担当ナースとの信頼関係を築くことが出来たとスタッフより聞いております。

また、入浴時間の拡大や夜間の入浴を検討していましたが、実施には至りませんでした。来年度、計画・検討していきたいと考えています。

今年度は中途入職者の介護福祉士を迎え、積極的に遊びリテーションを増やすことが出来ました。棒体操・大判カルタ・カーリングの内容を増やしたことで毎日の参加者が増え、笑い声が多く聞かれるようになりました。

また、朝、夕の申し送りを廃止したことで環境整備や、患者のモーニングケア時間を確保することが出来ました。

➤ 生活の場をリハビリテーションの場として再確認し、自宅退院に向けてスタッフ全員が積極的活動をする。

外出・外泊を入院早期に導入し、自宅で出来なかった部分をリハビリや介護指導を行ってきました。外泊が月平均 11 件行うことができ、介護福祉士による指導を行い困難例も 1 例外泊することができました。患者、家族共に自信が付いたとの良い意見を頂くことができました。

摂食嚥下プロジェクトにより、口腔内チェックを行うことで口腔内の異常を見つけることができました。

➤ 看護人としての成長・研鑽する。

看護人として成長する為に、研修会の参加を促した。積極的に参加することが少なく、今後自主的に参加することができるように定期的に面接をして確認をしていきたいと思っております。中途入職者には、プリセプターをつけ、回復期での患者・家族への接し方、考え方を説明していきましました。

スタッフのモチベーションを上げる為に、フィッシュ！哲学！を導入しようと研修には参加しましたが、実施には至らず終わってしまいました。来年度には実施できるよう行動していきたいと思っております。

介護福祉士の患者担当制は常時 1 名体勢が可能であったため、来年度も継続していきたいと思っております。



醫療支援部門



1. リハビリテーション科

係長 土屋 喜隆

1. 年次報告

リハビリテーション科では回復期リハビリテーションにおいて、患者さんの心身の障害像を適切に分析し、社会復帰へのスムーズな移行を目指して業務を行っております。

22年度に入り新たに新入職員を迎え、スタッフ数、PT36名、OT27名、ST13名合計76名と多くのスタッフで365日体制の業務に取り組んでまいりました。昨年度に引き続き今年度も、休日リハビリテーション提携加算（休日を含め週7日間のリハビリテーションの提供）とリハビリテーション充実加算（一人一日あたり6単位以上のリハビリテーションの提供）共に取得の継続と更なる質の高いリハビリテーションを提供できるようスタッフ一丸となって勤めてまいりました。

教育体制については、例年同様週2～3回の科内勉強会を実施し個々の知識・技術の向上に努めると共に「プリセプター・クラスター制度」を継続しております。また、クラスター内での後輩・先輩セラピストと共同治療を行うなど、より臨床の場面での意見交換・指導を行いより一貫したリハビリを提供しております。また、中堅スタッフが指導する機会が増えたことで指導する側としてのスキルアップ、意識改革にもつながっており双方に相乗効果をもたらしていると考えています。

業務内容の充実・効率化として、電子カルテ・オーダーリングシステムを用いてリハビリテーションに必要な情報をリアルタイムに引き出し、多職種間の情報交換ツールとして活用しております。また、紙ベースカルテと異なり必要なデータをすぐに検索でき、サマリーや総合実施計画書など文書作成にかかる時間が大きく短縮することにつながっております。また、経過記録や評価記録を経時的に確認することができ、後輩指導の場面においても、患者さんの情報を画面上で確認しながら指導を行うなど有効的に活用しております。今後もシステムを有効活用することで、患者さんへのサービス内容を充実し提供していきたいと考えています。

また、新規事業として平成23年7月1日開院を目標に、当施設から外来医療機関として戸田公園駅前に外来クリニックを開院する予定となっております。コンセプトとしては戸田地域リハビリテーションにおける基幹病院としての役割を担うと共に、当院退院患者を中心とした戸田地域住民の皆さまが継続してリハビリを受けたいというニーズに応えられるよう積極的に取り組むことです。より皆さまのニーズに応えられるよう開院へ向けて積極的に話し合いを行います。また、今年度以上に地域医療におけるリハビリテーション部門の充実を図るため、外来リハビリテーション、在宅リハビリテーションも視野に入れた人員育成として技術・知識面、精神面を充実できるよう積極的に取り組んでいきたいと考えています。

2. 人員構成（平成22年3月31日現在）

役職	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
部長	野宮一志 (TMGリハビリ部部長)		
係長		土屋喜隆	
主任	湯浅晃史、小峰隆弘		
副主任	鈴木敦子、島拓也 天沼基子	中川崇之、高見あさ子	森智美、一木友徳

科 員	森岡由美、竹林淳子 大島まゆ、小野育子 水野光、清水達也 早川麻美、白崎隆二 本多直道、池田優典 鈴木由喜枝、岩村高志 愛澤泰之、栗城大輔 佐藤香織、鈴木勝年 関正利、白井秀忠 廣瀬利彦、真嶋奈穂 矢萩有映、森田悠太 吉池史雄、神田一樹 高英玉、小林賢司 下日向健太、鳴海真悠子 丸山英樹、山田結香子 吉井亮太	吉田優子、野武尚子 米沢真理、櫛田来実 井口佳美、中村実、 田村耕、石井美帆 岩波千咲、臼井理乃 宇田川亮、久下沼薫 滝沢宏和、甫仮拓郎 小倉春香、赤羽良介 松永郁美、鈴木麻未 梁川統史、長谷川雄一 深井祥、柏木智絵 須藤由佳、鈴木茜	小森綾子、吉光麻由子 吉岡やよい、津田美和 池澤玲奈、中村友香 渡邊有希子、奥山みゆき 郷麻衣子、堀口紗智 中村悠輝
-----	--	--	---

3. 運営方針

① リハビリテーション科理念

“心 技 体で心を救う”

② 理念の実行方法

ア、出会った人々を大切にし、尊重し、自らの人間形成につなげる

イ、患者さんのため、そして自分のため積極的に専門的知識・技術を豊にする機会を作る

ウ、自らの健康管理に留意し、常に最高の状態で患者さんに接する

③ 目標とするセラピスト像

ア、患者様の QOL 向上を最大目標とし、それにつながる ADL、つまり患者さんが意識をせず生活の一部となるような心地よい ADL を提供できるセラピスト

イ、その実現のために OT、ST、PT の専門知識・技術の向上に努め、更に所属施設の特徴に対応できるセラピスト

ウ、既存の専門知識・技術を基に高次の認知情報処理、すなわち想像力と創造力を働かせ、治療の仮説モデルを作ることができるセラピスト

エ、そしてリハビリテーションプログラムの過程において他の専門職とのチームアプローチすなわち学際領域における協働を実現できるセラピスト

④ 方針

当科の主な対象疾患は、脳血管障害・廃用症候群・運動器疾患などの亜急性期、回復期であります。患者さんが、日常生活の中で「ただ動ける、ただ出来る」というのではなく、「より楽に、より心地よく、より様々な場面で自由度が高く、より機能的に動ける」というように、つまり、本当の意味で生活の一部となるような行為動作の治療を施行しています。

患者さんを中心としたチームが、共通理解の得られた目標に向かうチームアプローチのコンセプトを基本と考えています。そのためにも、PT/OT の治療スペースは同リハビリテーション室内に設定しており、ST 室も隣接した設定としています。

また、当院から社会復帰へとスムーズに橋渡すために、他の医療機関、老健、在宅リハビリテーション機関との連携をとり情報交換をすると共に、カンファレンスや家屋調査を、患者さんの必要度に合わせて行っています。

また、電子カルテ・オーダーリングシステムをより効率的に使用することにより、増加する新入職員への教育体制を強化、「質の高いマンパワー」を育成すること、それにより患者さん一人一人に必要なリハビリテーションサービス・時間をしっかりと提供できる環境を整えていきたいと考えています。

4. 実績

① 22年度疾患別

内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
脳血管疾患等	算定人員	127	121	107	112	104	113	125
	単位数	17,929	18,304	20,111	20,646	21,365	20,880	21,756
廃用症候群	算定人員	6	7	8	7	9	12	10
	単位数	359	728	687	1,099	1,472	1,807	1,420
運動器疾患	算定人員	49	51	49	50	53	41	35
	単位数	3,763	4,265	6,955	7,481	6,688	4,838	4,714
早期加算	算定人員	19	25	12	19	18	16	29
	単位数	488	885	454	869	772	662	1,172
摂食機能療法	算定人員	47	45	38	33	40	43	44
	単位数	943	807	695	698	655	731	694
リハ総合計画評価料		129	136	123	133	122	124	125
退院時指導		1	0	0	0	0	0	0
内容		11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
脳血管疾患等	算定人員	125	120	120	124	126	1,424	118.7
	単位数	21,620	23,002	22,387	20,724	23,086	251,810	20,984
廃用症候群	算定人員	11	8	10	10	7	105	8.8
	単位数	1,281	1,337	1,164	1,083	901	13,338	1,111.5
運動器疾患	算定人員	41	37	36	41	40	523	43.6
	単位数	4,733	4,754	4,375	4,365	4,488	61,419	5,118.3
早期加算	算定人員	28	14	21	14	13	228	19.0
	単位数	1,313	608	812	388	196	8,619	718.3
摂食機能療法	算定人員	42	38	41	47	45	503	41.9
	単位数	694	766	787	733	771	8,974	747.8
リハ総合計画評価料		132	133	126	136	133	1,552	129.3
退院時指導		0	0	0	0	0	1	0.1

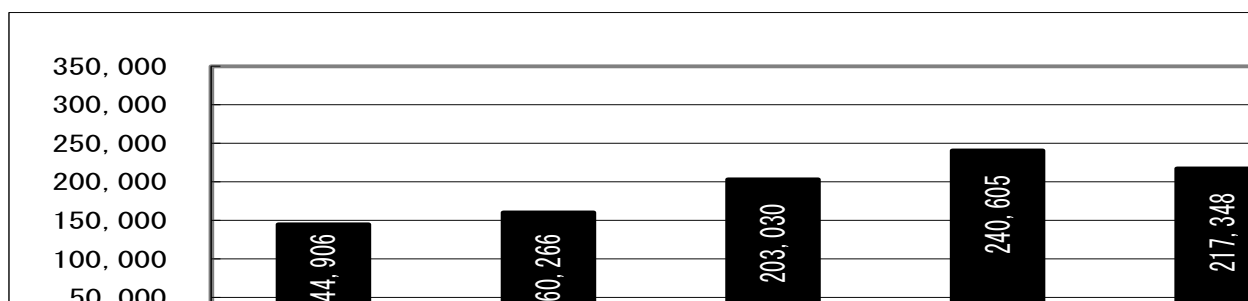
② 平成22年度疾患別リハビリテーションの算定状況平均値（月別にて集計）

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
脳血管疾患等	6.6	6.8	7.8	8.0	8.3	7.9	7.8	7.8	7.9	7.6	7.9	7.8
廃用症候群	3.8	4.4	5.4	7.5	7.9	6.7	6.5	6.1	6.5	5.5	5.8	6.6
運動器疾患	3.7	4.0	6.0	6.1	5.8	5.2	5.4	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4
合計	5.7	5.9	7.2	7.4	7.5	7.2	7.2	7.2	7.3	7.1	7.2	7.3

③ 年度別推移

内容	単位	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
a.理学療法	回	50,529	61,214	-	-	-	-	-
b.作業療法	回	41,521	35,115	-	-	-	-	-
c.言語聴覚療法	回	12,269	15,526	-	-	-	-	-
d.脳血管疾患等	単位	-	-	153,196	182,452	188,555	189,487	251,810

e. 廃用症候群	単位	—	—					13,338
f. 運動器	単位	—	—	13,880	24,355	22,635	28,896	61,419
g. 早期加算	単位	40,072	45,219	—	—	4,089	7,241	8,619
h. ADL加算	単位	486	3,143	34,572	33,110	—	-	-
i. 摂食機能療法	回	1	24	548	681	1,238	7,167	8,974
j. 入院生活リハビリテーション管理指導料	件	0	0	—	—	—	-	-
k. 退院時リハビリテーション指導料	件	28	25	37	7	2	3	1
l. リハビリテーション総合計画評価料	件	—	—	797	—	829	1132	1,552
合計		131,765	144,906	160,266	203,030	240,605	217,348	345,713



5. 実習生受入れ

① 目的

養成校で修得した知識と技術を、臨床で確認し、患者の評価・目標設定・プログラム・治療・リスク管理等を、実践的に学習させ、スペシャリストとしての知識、技術を習得させる。

② 実績

ア、理学療法

No.	期間(開始～終了)	養成校	内容	学科
1	4/5～5/29	横浜リハビリテーション専門学校	臨床	PT
2	6/7～7/31	日本リハビリテーション専門学校	臨床	PT
3	7/20～8/28	国際医療福祉大学	臨床	PT
4	8/2～7	社会医学技術学院	見学	PT
5	8/30～10/23	医学アカデミー	臨床	PT
6	9/27～10/2	社会医学技術学院	見学	PT
7	10/25～12/17	了徳寺学園リハビリテーション専門学校	臨床	PT
8	2/14～3/4	埼玉県立大学	評価	PT

イ、作業療法

No.	期間(開始～終了)	養成校	内容	学科
1	4.12～6.5	目白大学	臨床(8W)	OT
2	22.6.7～7.30	健康科学大学	臨床(8W)	OT
3	22.6.7～7.30	日本リハビリテーション専門学校	臨床(8W)	OT
4	22.8.4～8.5	目白大学	見学(2日)	OT
5	22.8.9～8.21	横浜リハビリテーション専門学校	評価(2W)	OT

6	22.8.23～9.17	国際医療福祉大学	評価(4W)	OT
7	22.10.25～12.18	昭和大学	臨床(8W)	OT
8	22.10.25～12.18	早稲田医療技術専門学校	臨床(8W)	OT
9	23.1.11～1.28	日本リハビリテーション専門学校	評価(3W)	OT
10	23.2.21～3.11	埼玉県立大学	評価(3W)	OT

6. 外部学会・研修会参加記録

No	月日	研修名	内容	参加者
1	4.24～25	明日から役立つ!! OTのための運動器治療学	機能解剖学、運動学、生理学	渡辺
2	5.12	口腔・咽頭・嚥下の嚥下障害の治療についてわれわれが知っていることは何か	嚥下機能	森、寺内、田島、池澤、渡邊、堀口、奥山
3	5.22～23	第22回 活動分析研究大会	Activity	土屋、栗原
4	5.30	高次機能障害の画像所見と評価・治療の進め方	画像診断、高次脳機能障害	中川
5	6.20	sos「activity」	動作分析、症例発表	柏木、小倉、永井、甫仮、中村
6	6.27	現職者共通研修「日本と世界の作業療法の動向」	その他	赤羽、白井、小倉
7	6.27	成人片麻痺の上肢機能へのアプローチ	中枢、上肢機能訓練	赤羽、白井、小倉
8	6.27	新人オリエンテーション「職業倫理・管理運営」「協会組織と生涯学習システム」	その他	下日向、小林、山田、神田、吉井、丸山、鳴海、高
9	7.25	高次脳機能障害のリハビリテーション～PT,OT,STの質的な連携を学ぶ～	中枢	吉岡、森田
10	7.25	H22年度7月勉強会 ケーススタディー	中枢、症例報告	竹林
11	8.28	はじめての嚥下障害 評価と治療 下障害のメカニズムとリハビリテーション	嚥下のメカニズムと評価	赤羽
12	9.26	臨床でみられる行動の神経心理学的解釈	中枢	甫仮
13	6.19～23 7.24～28	IPNFA Basic Cours	徒手療法	島
14	8.29	人工骨頭置換術後の理学療法	整形	竹林・小林
15	9.05	第一回「運動・認知・行動研究会」	高次脳機能障害について	吉岡、吉光
16	9.19	認知症の最新の医学的トピックスと介護予防	認知症について	赤羽、岩波、石井、永井
17	10.02	現職者共通研修「事例検討方法論」	事例検討	赤羽、石井、小倉

18	10.02	現職者共通研修「作業療法における協業・後輩育成」	その他	赤羽、石井、小倉
19	11.07	手を診る力を鍛える ～手のかたち・手の動き、診断 の手ほどき～	手の解剖・評価・治療	吉田、長塚
20	10.10～11	FOCUS 上肢	上肢の解剖・評価・治療	宇田川
21	10.21	車いす等の作製時注意点～制度説明から理学療法評価まで～	車椅子の種類と保険分類	小峰、栗城
22	11.18	症例検討	症例検討	水野、丸山、神田、小林、矢萩
23	11.20～21	心臓血管外科術後の早期離床	循環器疾患	亀井
24	1.30	OTのコミュニケーションスキルを磨く会	その他	赤羽
25	2.06	第14回関東嚥下訓練技術者講習会	嚥下	池澤、小森
26	2.08～09	呼吸療法認定士の認定更新のための講習会	呼吸の機能と評価	小峰 鈴木敦子
27	2.11	アスケルクリニックインフォメーションセミナー	足の機能解剖と評価	小峰 小林
28	2.13	理学療法の考え方と運動学習の理学療法への適応	運動療法	天沼、島、森岡、小野、水野、田中、廣瀬、関、佐藤、真嶋、矢萩、高
29	2.12～13 2.26～27	成人片麻痺における環境適応講習会<in 山梨>	環境適応	吉田
30	3.05	臨床動作分析ー生態心理学的視点を加えてー	生態心理学	赤羽、岩波、甫仮

7. TMG 内研修参加記録

No	日程	研修会名	講師等
1	22.5.8	『リハビリテーション対象となった際押さえておきたい検査データ値』	戸田中央リハビリテーション病院 TMG 検査部 臨床検査技師 4名
2	22.2.19	『リハビリテーションにおけるリーズニング・意思決定過程』	臨床福祉専門学校 講堂 杏林大学保健学部 潮見 泰藏 氏
3	22.7.10、11	PT 部会『呼吸リハビリテーション』	臨床福祉専門学校/戸田中央総合病院 愛知医科大学病院 岸川 典明 氏
4	23.1.15.	PT 部会『倫理運動療法』	富士リハビリテーション専門学校 三田 久載 氏
5	22.7.17	OT 部会『各施設取組とワークショップ』	東所沢病院・茂原中央病院 各スタッフ
6	22.12.4	OT 部会『手の動作学～ボールの把握から箸の操作まで』	埼玉県立大学 中田 眞由美 氏
7	22.7.19、20	ST 部会『単語と文の処理メカニズムとその障害』	新潟医療福祉大学 渡辺眞澄 氏 LD・Dyslexia センター 辰巳 格 氏
8	23.1.29	ST 部会『症例検討・各施設取組とワークショップ』	茂原中央病院・小平中央リハビリテーション病院 各スタッフ

9	22.1.19	『症例検討』	戸田中央リハビリテーション病院
10	22.12.11	『肩関節の評価と治療』	昭和大藤が丘リハ病院 千葉 慎一氏

2. 医療福祉科

係長 山中 寛子

1. 年次報告

平成 22 年度の医療福祉科では、人員交代もなく 5 人体制の業務を確立できた 1 年となりました。総相談件数は年々増えており、昨年度より約 1600 件増え 11729 件となっております。また、入院相談件数も前年度の 863 件から 909 件と増え、その内の 60.3%である 549 人の患者さんが入院されました。

22 年度で注目していきたい点は、当院の判定会議に通り、一度予約になってからキャンセルされた患者さんの人数です。予約後のキャンセル件数は、前年度の 70 件より 91 件に増えております。入院患者さん自体の人数が増えていますので、それに伴いキャンセル患者さんが増えるのは当たり前ではありますが、「他病院への転院」というキャンセル理由が 30 件から 46 件と増えており、割合で見ても、42%から 50%に上昇しております。

数年前より、地域に、同機能の病院は確実に増えていますが、「他病院への転院」というキャンセル理由について、どこに理由があるのかを調査していくことで、入院相談窓口である医療福祉科の向上や、より選んで頂ける病院になるヒントを得ていくことができるのではないかと考えております。

退院先につきましては、自宅へ退院された患者さんが 67%と昨年度とほとんど変わらない数字になっております。この数字だけで全てをはかることはできませんが、変わらないことをよしとするのか、それとももっと高い数字を目指すのか、病院全体で、考え取り組むことで、今後の患者さんへの支援により役立てる取り組みができればと思います。

来年度は、とうとう待望の外来リハクリニックがオープンとなります。対象患者さんをどうするのか等、まだまだ不明な点が多い状況ではあります。しかし、近隣の医療機関の方々との連携をより強化し、地域にとって本当に必要なことは何かということを模索しながら前進できる医療福祉科でありたいと思っています。

2. 人員構成（平成 23 年 3 月 31 日現在）

係長：山中 寛子
主任：荻原 亜由美
科員：古川 珠美、小川 留美子、津田 唯

3. 直接援助業務

(1) 件数

① 診療科目別総相談件数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
回復期	1,012	912	977	1,025	1,024	914	836	952
療養	6	1	3	2	1	1	0	0
その他	5	2	8	4	7	7	2	8
合計	1,023	915	988	1,031	1,032	922	838	960
区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	割合	前年度
回復期	920	1,041	1,004	1,022	11,639	970	99.2%	99.5%
療養	0	0	0	5	19	1.6	0.2%	0.2%
その他	10	13	3	2	71	5.9	0.6%	0.3%
合計	930	1,054	1,007	1,029	11,729	977.4	100%	100%

② 援助内容別件数

No.	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	入院援助	354	322	303	320	321	250	335	386
2	退院援助	615	551	642	669	685	636	544	518
3	他病院・他施設紹介	1	2	2	2	2	2	0	1
4	経済的問題	1	3	0	3	0	1	4	1
5	制度活用支援	19	28	23	22	17	21	17	7
6	療養上の問題調整	39	35	23	45	39	22	24	61
7	ケースカンファレンス	76	68	72	53	64	67	61	67
8	I C 同席	53	60	62	44	40	51	53	49
9	心理的支持	1	0	0	0	0	0	0	0
10	その他	15	8	12	9	10	6	5	13
合計		1,174	1,077	1,139	1,167	1,178	1,056	1,043	1,103
No.	区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	割合	前年度
1	入院援助	286	407	375	359	4,018	334.8	29.6%	30.3%
2	退院援助	596	600	603	624	7,283	606.9	53.6%	50.4%
3	他病院・他施設紹介	3	7	2	1	25	2.1	0.2%	1.1%
4	経済的問題	1	3	2	1	20	1.7	0.1%	0.2%
5	制度活用支援	18	19	20	16	227	18.9	1.7%	3.0%
6	療養上の問題調整	55	42	26	27	438	36.5	3.2%	2.3%
7	ケースカンファレンス	82	64	68	68	810	67.5	5.9%	7.2%
8	I C 同席	63	59	56	59	649	54.1	4.8%	5.0%
9	心理的支持	0	0	0	0	1	0.1	0.0%	0.0%
10	その他	14	15	4	6	117	9.8	0.9%	0.6%
合計		1,118	1,216	1,156	1,161	13,588	1,132.3	100%	100%

③ 援助手段別件数

No.	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	面接	311	286	310	308	305	310	297	279
2	協議・調整	493	421	550	600	547	458	454	518
3	電話	989	863	878	985	943	787	814	864
4	文書	10	16	18	19	16	15	12	5
5	家屋調査	5	4	6	6	11	10	7	7
6	訪問・外出	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1,808	1,590	1,764	1,918	1,822	1,580	1,584	1,673
No.	区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	割合	前年度
1	面接	290	318	312	291	3,617	301.4	17.4%	17.9%
2	協議・調整	530	525	531	584	6,213	517.8	29.8%	26.5%
3	電話	836	960	897	942	10,758	896.5	51.6%	54.2%
4	文書	15	13	18	20	177	14.8	0.9%	1.0%
5	家屋調査	3	3	7	0	69	5.8	0.3%	0.4%
6	訪問・外出	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
合計		1,674	1,819	1,765	1,837	20,834	1736.3	100%	100%

④ 相談対象者別件数

No.	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	本人	104	96	93	89	89	90	88	72
2	家族	522	458	483	517	526	475	459	448
3	医師	225	174	174	207	204	154	168	193
4	看護師	277	258	316	325	298	232	257	321

5	リハビリスタッフ	203	160	218	235	298	232	257	321
6	その他院内職員	10	19	31	30	28	30	33	28
7	病院・施設	615	566	551	607	538	471	470	521
8	ケアマネージャー	111	75	110	132	141	129	106	112
9	行政機関	4	2	2	5	8	10	7	10
10	職場・学校	0	1	0	0	0	0	0	0
11	その他	28	26	20	15	20	32	15	24
合計		2,099	1,835	1,998	2,162	2,062	1,822	1,819	1,945
No	区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	割合	前年度
1	本人	71	61	80	58	991	82.6	4.2	4.2%
2	家族	476	524	495	497	5,880	490	24.8	26.9%
3	医師	173	178	177	203	2,230	185.8	9.4	10.1%
4	看護師	297	320	309	321	3,531	294.3	14.9	13.9%
5	リハビリスタッフ	178	225	218	204	2,446	203.8	10.3	10.4%
6	その他院内職員	25	36	28	26	324	27	1.4	1.1%
7	病院・施設	495	618	542	594	6,588	549	27.7	25.9%
8	ケアマネージャー	123	114	119	117	1,389	115.8	5.8	5.9%
9	行政機関	5	14	12	10	89	7.4	0.4	0.6%
10	職場・学校	0	0	1	0	2	0.2	0.0	0.0%
11	その他	12	7	17	15	267	22.3	1.1	1.0%
合計		1,855	2,097	1,998	2,045	23,737	1978.2	100%	100%

(2) 入院相談業務

① 入院相談件数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
回復期病棟	84	72	69	81	71	61	75	93
療養病棟	0	0	1	0	0	0	0	0
合計	84	72	70	81	71	61	75	93
区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	前年度	前年比
回復期病棟	58	97	73	73	907	75.6	71.3	+4.3
療養病棟	0	0	0	1	2	0.2	0.5	▲0.3
合計	58	97	73	74	909	75.8	71.8	+4.0

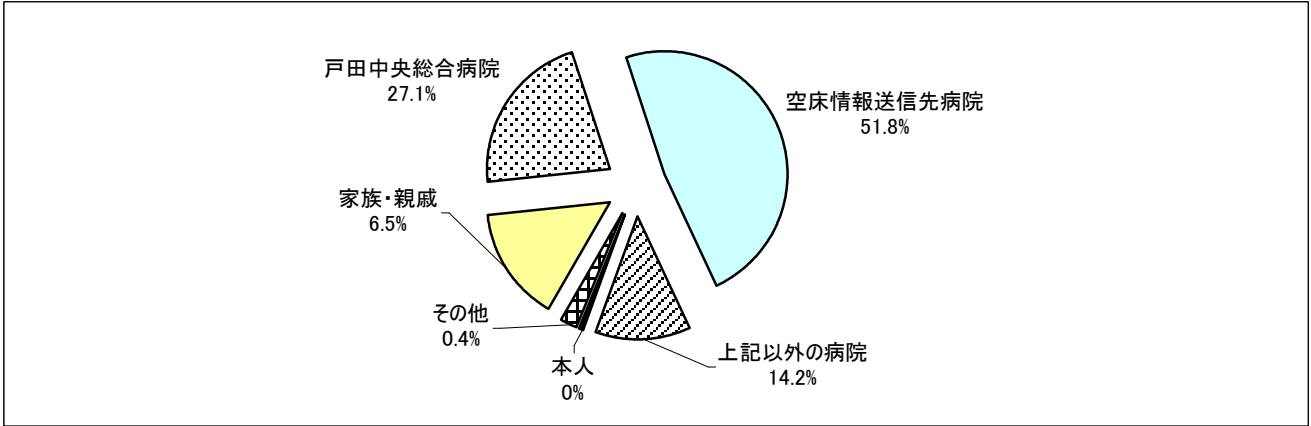
② 紹介者

No	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	本人	0	0	0	0	0	0	0	0
2	家族・親戚	3	8	6	5	6	4	3	1
3	戸田中央総合病院	21	23	28	21	24	13	20	31
4	空床情報送信先病院	45	36	23	46	34	34	42	49
5	上記以外の病院	15	5	13	8	7	10	10	11
6	ケアマネージャー	0	0	0	0	0	0	0	0
7	その他	0	0	0	1	0	0	0	1
合計		84	72	70	81	71	61	75	93

No	区分	12月	1月	2月	3月	合計	平均	前年度	前年比
1	本人	0	0	0	0	0	0.0	0.1	▲0.1
2	家族・親戚	3	10	7	3	59	4.9	6.5	▲1.6
3	戸田中央総合病院	8	18	23	16	246	20.5	17.3	+3.2
4	空床情報送信先病院	38	52	29	43	471	39.2	37.8	+1.4

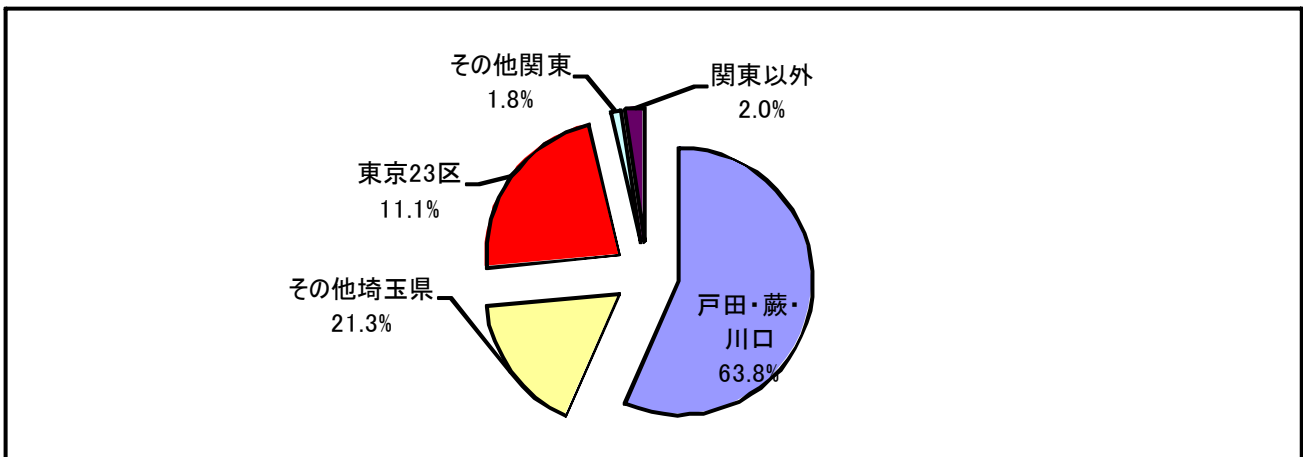
5	上記以外の病院	9	15	14	12	129	10.7	9.5	+1.2
6	ケアマネジャー	0	1	0	0	1	0.1	0.0	+0.1
7	その他	0	1	0	0	3	0.3	0.8	▲0.5
合計		58	97	73	74	909	75.8	72.0	+3.8

※空床・待機状況等についての情報を毎週月・木曜日に52病院に送信しています!!



③ 紹介元病院（地域別）

地域	人数	施設数	割合
戸田・蕨・川口	350	12	63.8%
その他埼玉県	117	19	21.3%
東京23区	61	32	11.1%
その他関東	10	10	1.8%
関東以外	11	11	2.0%
合計	549	84	100%



④ 紹介元病院（全 84 病院 紹介件数順）

No	病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	戸田中央総合病院	16	25	20	20	17	11	12	23	13	13	13	22	205
2	川口市立医療センター	6	6	4	3	5	5	2	4	3	5	7	2	52
3	済生会川口総合病院	4	6	1	1	2	4	5	4	6	4	3	4	44
4	秋葉病院	4	4	1	2		1	4	7	4	4	4	2	37
5	三愛病院		2	1	1	4	3	5	2	2	2	2	1	25
6	川口工業総合病院		3	3	2	2	1	2	2	3	1	1		20
7	さいたま赤十字病院	2		2		2	2	2	1	1	2	3	1	18
8	さいたま市立病院			2	1	2	2		2		2	1		12
9	中島病院	1		1	3	1	1	1	1	1				10
10	公平病院	2	1	2	2		1	2						10
11	埼玉社会保険病院	2					2		1			1	2	8
12	東京北社会保険病院		1			2						2	1	6
13	東京医科大学病院	2	1		1	1	1							6
14	博慈会記念総合病院			1	1			1	2					5
15	目白病院	1								1			2	4
16	帝京大学病院		1				1			1		1		4
17	東川口病院	1			1						1			3
18	聖路加国際病院	1					1				1			3
19	草加市立病院						1				1		1	3
20	順天堂大学附属練馬病院	1					1							2
21	東京慈恵会医科大学附属青戸病院	1										1		2
22	河合病院	1					1							2
23	朝霞厚生病院									1			1	2
24	せんぼ東京高輪病院									1	1			2
25	慶応義塾大学病院										1	1		2
26	苑田第一病院										1	1		2
27	板橋中央総合病院											1	1	2
28	東京慈恵医科大学附属病院							1	1					2
29	川久保病院	1												1
30	東邦大学医療センター大橋病院	1												1
31	日本大学医学部附属板橋病院	1												1

No	病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
32	熱海所記念病院	1												1
33	武南病院		1											1
34	NTT 東日本関東病院		1											1
35	市立札幌病院			1										1
36	蕨市立病院			1										1
37	明理会中央総合病院			1										1
38	星総合病院			1										1
39	高梨医院				1									1
40	順天堂医院				1									1
41	湘南中央病院				1									1
42	那須脳神経外科病院				1									1
43	佐久市立浅間総合病院				1									1
44	仙北総合組合病院				1									1
45	東鷲宮病院				1									1
46	佐々総合病院				1									1
47	多摩北部医療センター					1								1
48	日本赤十字医療センター					1								1
49	東海大学八王子病院					1								1
50	新座志木中央総合病院						1							1
51	大宮中央総合病院						1							1
52	独協医科大学越谷病院							1						1
53	保谷厚生病院							1						1
54	横浜労災病院							1						1
55	中部労災病院							1						1
56	沼田脳神経外科循環器科病院							1						1
57	丸山記念総合病院							1						1
58	山梨赤十字病院							1						1
59	東京医科歯科大学医学部附属病院							1						1
60	埼玉脳神経外科病院								1					1
61	青森慈恵会病院								1					1
62	成田赤十字病院								1					1
63	千葉外科内科病院								1					1
64	越谷ハートフルクリニック								1					1
65	鹿児島市立病院								1					1

No	病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
66	坂戸中央病院								1					1
67	東京警察病院								1					1
68	国立病院機構埼玉病院									1				1
69	青梅市立総合病院									1				1
70	東京都健康長寿医療センター										1			1
71	済生会栗橋病院										1			1
72	立川深川病院										1			1
73	田園調布総合病院											1		1
74	益子病院											1		1
75	愛里病院											1		1
76	昭和伊南病院											1		1
77	練馬総合病院											1		1
78	奥沢病院												1	1
79	赤羽中央総合病院												1	1
80	春山外科病院												1	1
81	東和病院												1	1
82	三宿病院												1	1
83	国立国際医療研究センター病院												1	1
84	三春町立三春病院												1	1
	合計	49	52	42	46	41	41	45	58	39	42	47	47	549

⑤ 入院待機日数（入院予約となつてから入院当日までの日数）

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度	前年比
回復期病棟	男性	17.6	16.1	19.4	16.3	14.3	9.8	5.2	4.8	9.1	4.4	15.8	17.5	12.5	10.4	+2.1
	女性	12.4	8.6	10.9	10.9	4.6	10.5	6.9	9.2	20.4	12.5	13.4	20.2	11.7	11.1	+0.6
療養病棟	男性	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11.0	2.0	+9.0
	女性	7	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	7.5	0	+7.5

⑥ 予約後キャンセル件数

キャンセル理由	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
自宅退院のため	2	1	2	3	3	0	1	2	3	0	1	6	24	26.4%

他病院転院のため	2	1	8	1	3	3	1	0	8	4	7	8	46	50.5%
病状変化のため	1	0	0	2	1	3	2	2	0	2	3	2	18	19.8%
その他	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	3.3%
合計	5	3	10	6	7	6	4	4	12	6	11	17	91	100%

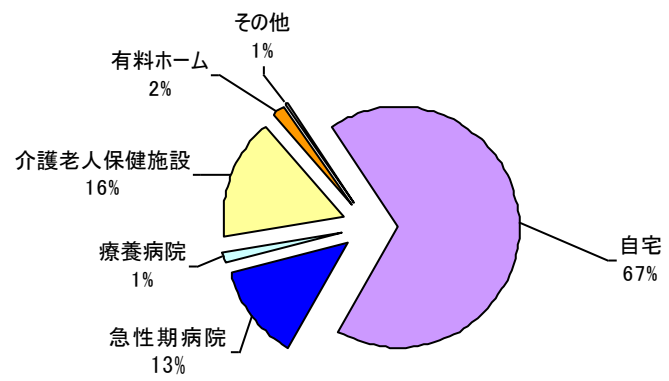
(3) 退院援助業務

① 退院数と退院先その内訳

区分	病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
急性期病院	1 戸田中央総合病院	3	2	9	5	1	2	6	5	3	3	1	5	45	
	2 三愛病院			1		1				1		1	1	5	
	3 川口市立医療センター		1			2			1					4	
	4 秋葉病院		1				1		1			1		4	
	5 川口工業総合病院			1		1						1		3	
	6 済生会川口総合病院									1	2			3	
	7 東京都健康長寿医療センター	1													1
	8 東京北社会保険病院		1												1
	9 武南病院								1						1
	10 中島病院									1					1
	11 埼玉脳神経外科病院									1					1
	12 板橋中央総合病院									1					1
	13 慈恵医科大学病院											1			1
小計		4	5	11	5	5	3	7	10	5	7	3	6	71	
療養病院	1 浅野胃腸病院				1		1							2	
	2 戸田病院	1					1							2	
	3 安東病院						1							1	
	4 慈誠会前野病院							1						1	
	5 竹川病院											1		1	
	6 富士温泉病院			1										1	
	7														
	8														
	9														
小計		1	0	1	1	0	3	1	0	0	0	1	0	8	

区分	病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
施設 介護老人保 健施設	1 グリーンビレッジ蕨	2	6	1	2	1	2	1	1	1	1	5	3	26	
	2 かわぐちナーシングホーム	2			2	1				1			2	8	
	3 ミレニアムマッシーランド			1		1			2	1	1	1	1	8	
	4 ファインハイム		2		2		1				1		1	7	
	5 グリーンビレッジ安行	2		1				1					1	5	
	6 あさがお	1	1								1		1	4	
	7 コスモス苑		1									1	2	4	
	8 ねぎしケアセンター	2		1				1						4	
	9 うらわの里	2							1					3	
	10 サンビュー埼玉			2										2	
	11 板橋ナーシングホーム								1			1		2	
	12 旭丘	1												1	
	13 清風荘	1												1	
	14 板橋ロイヤルケアセンター	1												1	
	15 プラチナビラ青葉台	1												1	
	16 池袋えびすの郷					1								1	
	17 ホスピア東和						1							1	
	18 尚和園アンシャンテ						1							1	
	19 アクア東糞谷						1							1	
	20 すずらん							1						1	
	21 六花							1						1	
	22 けんちの苑すみだ川							1						1	
	23 葵の園熊谷									1				1	
	24 シルバーケアセンターパル													1	1
	25 グリーンビレッジ朝霞台													1	1
	26 練馬ゆめの木		1												1
	27														
	28														
	小計	15	11	6	7	6	7	2	6	3	5	7	13	89	

区分	病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
施設	有 料 ホ ー ム	1 安心ホーム浦和芝原							2					2	
		2 サニーライフ					1							1	
		3 未来倶楽部					1							1	
		4 グランダ武蔵浦和							1					1	
		5 手と手と手							1					1	
		6 すこや家・東浦和								1				1	
		7 セカンドハウス											1		1
		8 まどか蔵											1		1
	小計		0	0	0	0	2	0	2	3	0	0	2	0	9
	特別養護 ホ ー ム	1 くすのき											1		1
小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
高 齢 者 宅 高 住	1 こもれび武蔵浦和				1									1	
	2 ウェルハウス「安行領家」									1				1	
	小計		0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
そ の 他	1 ショートステイ「イリーゼ川口」				1	1								2	
	2 ショートステイ「アイリングサポート」		1											1	
小計		0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	
自宅退院		34	32	24	31	27	29	33	37	33	29	32	32	373	
死亡退院		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計		54	49	42	46	40	42	45	56	42	40	48	51	555	



(4) 間接援助業務

① 地域連携・紹介元挨拶

No	月日	病院名（会議名）	担当者
1	04/21	帝京大学医学部付属病院（紹介元挨拶）	桜井 川嶋 津田
2	04/21	東京北社会保険病院（紹介元挨拶）	桜井 川嶋 津田
3	04/21	公平病院（紹介元挨拶）	桜井 川嶋 津田
4	06/24	第8回済生会川口総合病院 地域連携の会	古川 津田
5	07/20	第1回脳卒中地域連携診療計画「情報交換のための会」	山中
6	09/07	第10回さいたま脳卒中地域連携研究会	山中 小川 津田
7	10/27	埼玉県回復期リハビリテーション・ソーシャルワーカー連絡協議会	山中
8	11/04	第9回連携施設懇談会	山中 川嶋
9	11/18	第9回済生会川口総合病院 地域連携の会	山中 川嶋
10	11/26	第2回脳卒中地域医療連携診療計画「情報交換のための会」	山中
11	12/15	第2回医療と介護の連携研修会	古川 津田

② 社会資源開拓（見学等）

No	月日	病院名（会議名）	担当者
1	06/30	東京都心身障害者福祉センター	山中 古川
2	07/23	福祉用具勉強会	川嶋
3	08/24	福祉住宅・デイサービスにりん草	川嶋 小川
4	09/13	有料老人ホーム メディカルホームまどか川口	小川

③ 教育・見学者へのオリエンテーション・PR

No	月日	内容
1	04/03	新人職員研修
2	05/31～06/14	東京福祉大学 実習生
3	12月号	広報誌「smile」12月号「医療福祉相談室より」

④ 学会・院外研修会への参加

No	月日	内容	参加者
1	05/20～02/10	東京都医療社会事業協会主催 グループスーパービジョン	古川
2	07/12～07/16	日本医療社会事業協会主催 2010年度 医療ソーシャルワーカー基幹研修 I	古川
3	07/17～07/18	全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 第9回 ソーシャルワーカー研修会	川嶋
4	09/13	第2回医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修	山中

⑤ TMG 医療福祉科研修などへの参加

No	月日	内容
1	04/24	TMG 医療福祉部定例会
2	09/11	TMG 医療福祉部全体研修 ソーシャルワーカーとは～ソーシャルワーカーという専門職の再認識～

3	06/09、08/13 10/13、12/08	TMG 医療福祉部 A グループ研修
4	06/24、08/26 10/21、12/16	TMG 医療福祉部 C グループ研修
5	06/22、08/24 10/24、12/21	TMG 医療福祉部 D グループ研修
6	06/28、08/03 10/05、12/07	TMG 医療福祉部 E グループ研修
7	02/26	TMG 医療福祉部 「実践報告会」
8	06/03、09/30	戸田地区医療福祉科勉強会

3. 薬剤科

係長 古賀 雅恵

1. 年次報告

平成 22 年度は中途採用の薬剤師を迎え、4 人体制で業務に取り組むことができた一年でした。錠剤・散剤分包機を新しく購入し、錠剤の自動分包をシステムに取り入れたことで、業務内容の効率化に一步踏み出せたと感じられます。

研鑽については、昨年度から引き続いて 1 ヶ月に 1 回、薬剤科内での発表会を実施しました。更にチーム医療の一員として、薬剤師から薬の情報をわかりやすく提供することを目的とし、当院の職員を対象とした「おくすり通信」を 1 ヶ月に 1 回発行しました。薬剤師以外の職種へ薬の説明を行うことで文章力や表現力が磨かれ、結果的には患者さんへの薬剤指導に役立つ知識であると学べたため、今後も継続して行く予定です。

病棟業務では『カンファレンスへの参加』ができず、満足のゆく内容が得られませんでした。

平成 23 年度は薬剤師の顔ぶれも変わり、再度基本を重視しつつ、更なる業務の効率化と病棟業務の充実に力を入れて行こうと思います。日頃より勉学に励む事を忘れず、薬剤師としての専門性を向上させて幅広い視点で物事に取り組めるよう、努力していく考えです。

2. 人員構成（平成 23 年 3 月 31 日現在）

係長：古賀 雅恵
科員：門岡 久美子、寺内 邦彦、池田 淳子

3. 発行物

- ① 院内採用医薬品集 2 回
- ② 薬効順医薬品集 2 回
- ③ DI ニュース 5 回 (No99～No103)
- ④ おくすり通信 11 回 (No1～No11)

4. 薬剤の種類（平成 23 年 3 月 31 日現在）

採用薬品種類	218 種類
新規採用薬品種類	1 種類
使用削除薬品種類	7 種類

5. 院内副作用報告

No	報告日	副作用等の症状・異常所見	報告	
			厚生労働省	製薬会社
1	22.06.03	血小板減少症	×	×
2	22.09.06	肝機能異常 (GOT、GPT、 γ -GTP)	×	×

6. 実績

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
処方箋発行枚数	966	802	977	979	891	828	918	875	904	875	915	948	10878	906.5
入院	951	791	969	970	883	824	910	870	894	868	911	938	10779	898.25
外来（院内）	15	11	8	9	8	4	8	5	10	7	4	10	99	8.25
注射箋	46	52	39	53	27	26	40	69	34	31	11	36	464	38.6
調剤件数	1971	1509	2004	1898	1808	1818	1894	1634	1809	1800	1959	2051	22155	1846.3
入院	1947	1489	1990	1884	1790	1813	1874	1626	1797	1786	1949	2031	21976	1831.3
外来	24	20	14	14	18	5	20	8	12	14	10	20	179	14.9
服薬指導件数	(算定可)	0	3	4	4	1	0	4	4	1	0	0	21	1.75
	(算定不可)	146	143	186	151	145	130	142	148	169	164	192	1879	156.6
退院時加算	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0.17

7. 実績（D I室）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
医薬品疑義回答	14	14	15	6	14	11	11	13	17	9	21	19	164	13.7
1 薬剤鑑定	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	6	0.5
2 用法用量	2	3	2	1	2	2	0	0	0	0	2	2	16	1.33
3 性状	6	4	2	1	2	0	2	1	2	1	4	1	26	2.17
4 副作用	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0.17
5 薬効・薬理	0	1	2	0	3	1	2	5	2	1	5	6	28	2.33
6 相互作用	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0.25
7 在庫確認	3	5	7	3	5	5	4	5	11	7	5	6	66	5.5
8 その他	1	0	0	1	1	2	3	1	2	0	5	1	17	1.42

8. 学会・研修会参加

No	学会・研修会名	講師等	会場	日程
1	2010年度明治薬科大学薬剤師生涯学習講座 「セルフメディケーションの概念と現状」 「カウンセリングの基本」	客員教授 村田正弘 健康医療部 薬剤師・保健学 修士 佐野幸子	明治薬科大学	04/04
2	3施設合同薬剤科研修会 「ヒューマログ注製剤について」	(株)日本イーライリリー 学術 担当	戸田中央総合病院 第二会議室	04/14
3	薬剤科内発表会 「脳・神経疾患による障害と主な症状」	古賀雅恵	戸田中央リハビリ テーション病院	04/15
4	3施設合同薬剤科研修会 「新しいフェノバル製剤」	アルフレッサファーマ(株) 学 術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	04/21
5	薬剤科内発表会 「婦人科疾患と漢方薬」	門岡久美子	戸田中央リハビリ テーション病院	05/12
6	3施設合同薬剤科研修会 「レニンについて」	ノバルティスファーマ(株) 学 術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	05/26
7	2010年度明治薬科大学薬剤師生涯学習講座 「セルフメディケーション」 「OTC医薬品と販売制度」 「予防・健康運動」	客員教授 村田正弘 (有)健康創研 健康運動指導士 菅野隆	明治薬科大学	06/06
8	3施設合同薬剤科研修会 「大腸がん」	中外製薬(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	06/09
9	TMG 栄養部全体研修会 「摂食・嚥下障害チームについて」	小田原市立病院 小澤公人	戸田中央看護専門 学校	06/12
10	第72回東京薬科大学卒業後教育講座 「ニーズの高まりつつある医療トピックス と薬物療法」 「心血管病の発症予防と治療効果判定にお ける脈波記録の意義」	東京医科大学八王子医療セン ター長 循環器内科教授 高 沢謙二	東京医科大学病院 講堂	06/13
11	漢方・生薬認定薬剤師 試問		昭和大学	06/13
12	薬剤科内発表会 「アンチドーピング」	寺内邦彦	戸田中央リハビリ テーション病院	06/16
13	3施設合同薬剤科研修会 「ミリプラ、リプレガル」	大日本住友製薬(株)	戸田中央総合病院 第二会議室	06/23
14	第231回病院薬学研修会 「固形がん治療におけるタキサン系抗がん 剤の位置づけ」	防衛医科大学校 腫瘍化学療 法部 准教授 市川度	パレスホテル大宮	06/24
15	TMG 薬剤部地域別研修会 「医薬品安全性情報管理体制加算」～各病院 の医薬品安全性情報管理体制加算算定の	戸田中央総合病院 齊藤俊夫	戸田中央総合病院 第二会議室	06/30

	現状報告～			
16	第30回新都心脂質・動脈硬化研究会 「糖尿病医療学入門」	天理よろづ相談所病院 副院長 石井均	東京医科大学病院 教育棟	07/02
17	2010年度明治薬科大学薬剤師生涯学習講座 「セルフメディケーション」 「トクホ・サプリメント」 「病院薬剤師の業務」	客員教授 村田正弘 永寿総合病院 薬剤科科长 原澤秀樹	明治薬科大学	07/04
18	薬剤科内発表会 「更年期障害について」	池田淳子	戸田中央リハビリ テーション病院	07/13
19	3施設合同薬剤科研修会 「透析そう痒症」	鳥居薬品(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	07/14
20	3施設合同薬剤科研修会 「アバプロ錠について」	大日本住友製薬(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	07/21
21	第232回病院薬学研修会 「関節リウマチの最近の治療」	埼玉医科大学リウマチ膠原病 科教授 三村俊英	パレスホテル大宮	07/22
22	3施設合同薬剤科研修会 「ビクトーザ皮下注 18 mgについて～GLP-1 製剤～」	ノボ・ノルディスクファーマ (株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	07/28
23	薬剤科内発表会 「胃瘻について」	古賀雅恵	戸田中央リハビリ テーション病院	08/17
24	3施設合同薬剤科研修会 「DICについて」	旭化成ファーマ(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	08/18
25	3施設合同薬剤科研修会 「腎性貧血について」	協和発酵キリン(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	08/25
26	日本病院薬剤師会関東ブロック第40回学術 大会 「集え薬剤師～大いなる飛躍に向けて～」		東京ファッション タウンビル・OTC有 明コンベンション ホール	08/28 08/29
27	2010年度明治薬科大学薬剤師生涯学習講座 「セルフメディケーション」 「ジェネリック医薬品」 「バイタルサインの基本」	客員教授 村田正弘 日本医科大学武蔵小杉病院 内科学教室 助教 網谷賢一	明治薬科大学	09/05
28	3施設合同薬剤科研修会 「アフィニトール錠 5 mg」	ノバルティスファーマ(株) 学 術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	09/08
29	戸田地区・薬剤師のためのコミュニケーション スキルアップ講座 「裁判例から学ぶ！薬剤師と医療コミュニ ケーション」	東邦大学薬学部医療薬学教育 センター 薬学法医学研究室 准教授 秋本義雄	戸田市文化会館 会議室	09/11

30	3施設合同薬剤科研修会 「イメンドカプセル」	小野薬品(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	09/22
31	薬剤科内発表会 「生活習慣病と漢方製剤」	門岡久美子	戸田中央リハビリ テーション病院	09/24
32	3施設合同薬剤科研修会 「アロキシン静注」	大鵬薬品工業(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	09/29
33	2010年度明治薬科大学薬剤師生涯学習講座 「プライマリケア薬剤師に必要な歯科臨床 からの服薬指導～口腔と全身の健康・病院 歯科口腔外科と栄養摂取・摂食嚥下機能障 害と口腔リハビリテーション～」	東京都府中療育センター訓練 科 言語聴覚士 山本弘子	明治薬科大学	10/03
34	3施設合同薬剤科研修 「骨粗鬆症治療薬」	イーライリリー(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	10/13
35	3施設合同薬剤科研修 「CSPSⅡ～プレタール OD錠～」	大塚製薬(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	10/20
36	薬剤科内発表会 「薬剤性肝障害について」	寺内邦彦	戸田中央リハビリ テーション病院	10/21
37	2010年度明治薬科大学薬剤師生涯学習講座 「プライマリケア薬剤師に必要な歯科臨床 からの服薬指導～口腔と全身の健康・病院 歯科口腔外科と栄養摂取・摂食嚥下機能障 害と口腔リハビリテーション～」 「地域 NST における薬剤師との協働（病院 歯科口腔外科と栄養摂取）」	東京歯科大学オーラルメディ シン・口腔外科学講座 歯科 医師 渡邊裕	明治薬科大学	11/7
38	3施設合同薬剤科研修会 「慢性疼痛について～デュロテップMTパッ チ」	ヤンセンファーマ(株) 学術担 当	戸田中央総合病院 第二会議室	11/17
39	3施設合同薬剤科研修会 「食後過血糖について～セイブル錠」	三和化学(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	11/24
40	薬剤科内発表会 「片頭痛について」	池田淳子	戸田中央リハビリ テーション病院	11/25
41	2010年度明治薬科大学薬剤師生涯学習講座 「プライマリケア薬剤師に必要な歯科臨床 からの服薬指導～口腔と全身の健康・病院 歯科口腔外科と栄養摂取・摂食嚥下機能障 害と口腔リハビリテーション～」 「口腔と全身の健康」	こだま歯科医院 歯学博士・ 歯科医師 小玉剛	明治薬科大学	12/05
42	3施設合同薬剤科研修会 「大腸がんの化学療法について」	(株)ヤクルト 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	12/15

43	薬剤科内発表会 「大腿骨の骨折について」	古賀雅恵	戸田中央リハビリ テーション病院	12/20
44	3施設合同薬剤科研修会 「TPNについて」	味の素ファルマ(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	01/12
45	薬剤科内発表会 「漢方の流通について」	門岡久美子	戸田中央リハビリ テーション病院	01/13

46	3施設合同薬剤科研修会 「レミケードについて」	田辺三菱(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	01/19
47	3施設合同薬剤科研修会 「心電図・不整脈について」	トーアエイヨー(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	01/26
48	日本病院薬剤師会 平成22年度医薬品安全管理責任者講習会 「処方箋記載変更への対応－医薬品安全管理責任者の果たすべき役割－」	国際医療福祉大学付属病院 土屋文人 他計5人	ベルサール渋谷 ファースト	01/27
49	3施設合同薬剤科研修会 「腎がんについて」	ファイザー(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	02/09
50	3施設合同薬剤科研修会 「降圧剤の配合剤」	日本ベーリンガーインゲルハ イム(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	02/16
51	薬剤科内発表会 「スポーツファーマシストについて」	寺内邦彦	戸田中央リハビリ テーション病院	02/17
52	3施設合同薬剤科研修会 「超速効型インスリン～アピドラ注」	サノフィ・アベンティス(株) 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	02/23
53	3施設合同薬剤科研修会 「NSFについて」	(株)テルモ 学術担当	戸田中央総合病院 第二会議室	03/09

5. 栄養科

係長 藤本 美穂

1. 年次報告

平成 22 年度は、嚥下食の見直しと栄養管理の充実を図りました。

嚥下食については、多職種で試食会を重ね、形態や提供方法を変更し、より嚥下に配慮した食べやすい食事に近づけたと考えています。また VE 検査の回数が増え、摂食嚥下機能推進委員会も立ち上がり、その一員となることで、嚥下食への理解も深まったように思います。

栄養管理については、栄養状態が悪い、喫食量が少ない等の患者さんを栄養科でリストアップし、NST 委員会で検討し、院内に周知する機会を設けました。今後も継続的に患者さんの栄養状態を把握・評価し、患者さんひとりひとりに合わせた栄養管理が行えるよう取り組んでいきます。

一方で、責任者の異動があり、例年に比べ病棟訪問の機会が減ってしまい、実際の患者さんの声を聴き、状態を見に行くことが思うように出来ませんでした。

来年度は患者さんのもとに多く足を運び、多職種で連携を取ることを意識し、チームの一員として『食』を通して、患者さんの回復に貢献していきたいと考えています。

2. 基本理念

“衛生的で効率的な食事提供”

- ① クックチルによる温かく安全な食事提供
- ② 喫食率向上のための取り組み
 1. 患者さんひとりひとりに合った食事の提供
 2. 全ての患者さんに食事の楽しさを

3. 人員構成 (23.3.31 現在)

係 長： 藤本美穂

科 員： 管理栄養士 増田彩

その他 委託側 (日清医療食品株)

4. 栄養指導

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
栄養指導件数	3	7	7	8	7	10	7
外 来	0	0	0	0	0	0	0
入 院	3	7	7	8	7	10	7
区 分	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	平均
栄養指導件数	12	14	11	5	7	98	8.2

外 来	0	0	0	0	0	0	0
入 院	12	14	11	5	7	98	8.2

5. 栄養指導の内訳

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳 疾 患	1	3	2	4	1	4	3	7	6	4	1	2	38
高 血 圧 症	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	0	5
糖 尿 病	1	3	5	2	6	5	2	4	5	7	3	4	47
そ の 他	1	1	0	1	0	0	1	1	2	0	0	1	8
合 計	3	7	7	8	7	10	7	12	14	11	5	7	98

6. 実施給食数

月	実 施 給 食 数					エネルギー (kcal)	蛋白 (g)	材料費 (円/食)
	常食	軟食	流動食	治療食	計			
4月	4713	3461	424	2617	11215	1683	67.1	831
5月	4638	2846	657	3304	11445	1698	66.4	772
6月	4624	2800	614	3283	11321	1696	68.8	810
7月	5019	2940	558	2998	11515	1695	67.2	828
8月	5164	3076	722	2557	11519	1725	69.2	753
9月	5354	2915	602	2398	11269	1733	68.5	781
10月	5975	2460	516	2415	11366	1774	69.7	819
11月	5230	2490	343	2928	10991	1787	69.4	782
12月	4689	3219	240	3364	11512	1778	69.6	790
1月	4614	3202	194	3350	11360	1768	69.5	760
2月	4439	3202	279	2657	10577	1761	68.8	765
3月	5042	3113	308	2982	11445	1736	68.5	826
合 計	59501	35724	5457	34853	135535	-	-	9517
月平均	4958	2977	455	2904	11295	1736	68.6	793

7. 治療食の内訳 (年間数/月平均)

No	治療食	年間食数	月平均食数
1	胃・十二指腸潰瘍食	146	12
2	糖尿食 I	3041	253
3	糖尿食 II	9710	809
4	糖尿食 III	11542	962
5	心臓高血圧食	5840	487
6	腎臓食	3071	256
7	透析食	0	0

8	経管栄養	5008	417
合計		38358	3196

8. セレクト食 (回数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
13	14	12	14	13	11	15	12	11	12	12	12	151回	12.6回

9. 行事食他

月	行事食		その他
	日	内容	
4月	22	お造り	
5月	5	端午の節句	5/11・18・25、6/1・8・15 実習生見学
	20	お造り	
6月	21	はも・金銀豆腐	(東京家政大学短期大学部)
7月	7	七夕	
	26	土用の丑の日	
8月	23	茶碗蒸し	
9月	10	栗ごはん	9/28・10/5・12・19・26 実習生見学
	23	秋分の日	
10月	25	お造り	(東京家政大学)
11月	22	お造り	
12月	24	クリスマス	
	31	大晦日	
1月	1	おせち	
2月	3	節分	
3月	3	ひな祭り	
	21	春分の日 (彼岸)	
	28	お花見献立	

10. 学会・研修会参加（外部）

No	学会・研修会名	主催・講師等	会 場	日程
1	2型糖尿病の治療 食事・運動・薬のアンサンブル	東京都栄養士会	東京医科大学	5/14
2	第18回栄養士のためのプライベートセミナー 現場に生かせる摂食・嚥下食を学ぶ	浜松大学健康プロデュース学部 准教授 金谷節子 他	こだまホール	5/29
3	給食施設における衛生管理	川口保健所管内給食研究会	川口保健所	6/18
4	NSTに必要な嚥下障害の基礎知識	埼玉栃木 NST 研究会	ラフレさいたま	6/19
5				
5	太陽化学（株）臨床栄養セミナー NSTの現状とNST加算について	久留米大学 准教授 田中芳明	文京シビック ホール	8/5
6	第16回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 学術大会	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会	朱鷺メッセ	9/3.4
7	第9回栄養治療を考える会 経腸から経口栄養へ 消化器疾患術後栄養管理の実際	秀和総合病院 院長 五関謹秀 他	埼玉県勤労者福祉センター	11/6
8	第38回糖尿病センターと医療連携の会	杏林大学医学部第三内科学 教授 石田均 他	京王プラザホテル	11/11
9	第4回栄養士・管理栄養士研修会	全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会	住友スカイルーム	11/21
10	第20回栄養士のためのプライベートセミナー テーラーメイドの糖尿病教育指標の読み解き方を考えるワークショップセミナー	緑風病院健康推進部 栄養室主任 管理栄養士 西村一弘	厨BO!SHO DOME	12/10
11	第8回認定更新者用講習会	日本糖尿病療養指導士認定機構	パシフィコ横浜	12/11.12
12	川口保健所管内栄養関係者全体研究会	川口保健所管内給食研究会	川口保健所	12/16
13	第14回日本病態栄養学会年次学術集会	日本病態栄養学会	パシフィコ横浜	1/15.16
14	第9回病態栄養セミナー	東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 大野敦 他	ベルサール三田	2/26

11. 学会・研修会参加（内部）

No	学会・研修会名	会 場	日程
1	TMG 学会	戸田文化会館	5/16
2	TMG 栄養部全体勉強会	戸田中央看護専門学校	6/12

3	CMS 学会	東京国際フォーラム	9/26
4	TMG 栄養部エリア別勉強会	戸田中央臨床検査研究所	10/26
5	TMG 栄養部事例発表会	戸田文化会館	12/4
6	TMG 栄養部全体勉強会	戸田中央総合病院第二会議室	3/4

12. 勉強会開催（栄養科内）

No	内容	出席者数	日程
1	清掃について	10名	9/4.5
2	嚥下食提供方法（とろみあんについて）	11名	12/13.14
3	衛生管理（ノロウイルスについて）	11名	2/14.15
4	嚥下障害について	11名	3/29.30

7. 地域医療連携

医事課主任 桜井 孝

1. 年次報告

平成 22 年度は入院件数では前年実績を 25 件上回る件数となりました。また、地域別にみた紹介元医療機関では埼玉県内の医療機関の割合が 2.6%増（戸田市 4.2%増、さいたま市 1.2%増）でした。

今後の地域連携強化策としては、連携パス（脳卒中・大腿骨）実施病院の拡充、また紹介元医療機関への訪問を通じ信頼関係の構築、更に地域医療機関や施設を対象としたリハビリテーション研究会を継続すること。これらを通して、地域に根ざした期待される病院として、より信頼度を高められるような活動をする事を平成 23 年度の重点課題としています。

2. 実績（紹介率）

（単位：％）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
57.1	46.6	46.5	46.2	52.3	63.0	68.8	60.3	57.8	59.2	62.3	41.8	55.0

3. 実績（紹介元地域別）

地域		入院件数	構成比	地域		入院件数	構成比
埼玉県	戸田市	226	41.2%	県外	板橋区	8	1.5%
	川口市	123	22.4%		北区	7	1.3%
	さいたま市	106	19.3%		足立区	8	1.5%
	草加市	3	0.5%		新宿区	13	2.4%
	蕨市	1	0.2%		文京区	3	0.5%
	その他県内	10	1.8%		その他都内	25	4.6%
	小計	469	85.4%		その他全国	16	2.9%
				小計	80	14.6%	
				合計	549	100%	

4. 実績（紹介元の施設別・地域）

① 戸田市 226 件

No	医療機関名	件数
1	戸田中央総合病院	208
2	中島病院	9
3	公平病院	9

② 川口市 123 件

No	医療機関名	件数	No	医療機関名	件数
1	川口市立医療センター	51	6	武南病院	1
2	済生会川口総合病院	44	7	益子病院	1
3	川口工業総合病院	20	8	千葉外科内科病院	1
4	東川口病院	3			
5	河合病院	2			

③ さいたま市 106 件

No	医療機関名	件数	No	医療機関名	件数
1	秋葉病院	37	6	丸山記念病院	1
2	三愛病院	25	7	高梨病院	1
3	さいたま赤十字病院	19	8	川久保病院	1
4	さいたま市立病院	12	9	大宮中央総合病院	1
5	埼玉社会保険病院	8	10	東和病院	1

④ 草加市 3 件

No	医療機関名	件数
1	草加市立病院	3

⑤ 蕨市 1 件

No	医療機関名	件数
1	蕨市立病院	1

⑥ その他県内 10 件

No	医療機関名	件数	No	医療機関名	件数
1	朝霞厚生病院	2	7	東鷲宮病院	1
2	新座志木中央総合病院	1	8	埼玉脳神経外科病院	1
3	国立病院機構さいたま病院	1	9	坂戸中央病院	1
4	獨協医科大学越谷病院	1			
5	越谷ハートフルクリニック	1			
6	済生会埼玉県済生会栗橋病院	1			

⑦ 板橋区 8 件

No	医療機関名	件数
1	帝京大学医学部附属病院	4
2	板橋中央総合病院	2
3	東京都健康長寿医療センター	1
4	日本大学医学部附属板橋病院	1

⑧ 北区 7件

No	医療機関名	件数
1	東京北社会保険病院	5
2	赤羽中央総合病院	1
3	明理会中央総合病院	1

⑨ 足立区 8件

No	医療機関名	件数
1	博慈会記念総合病院	5
2	苑田第一病院	2
3	愛里病院	1

⑩ 新宿区 13件

No	医療機関名	件数
1	東京医科大学病院	6
2	目白病院	3
3	慶応義塾大学病院	2
4	国立国際医療研究センター病院	1
5	春山外科病院	1

⑪ 文京区 3件

No	医療機関名	件数
1	東京医科歯科大学医学部附属病院	2
2	順天堂大学医学部附属順天堂病院	1

⑫ その他都内 25件

No	医療機関名	件数	No	医療機関名	件数
1	聖路加国際病院	3	11	保谷厚生病院	1
2	東京慈恵会医科大学附属病院	3	12	青梅市立総合病院	1
3	順天堂大学医学部附属練馬病院	2	13	東京警察病院	1
4	せんぼ東京高輪病院	2	14	多摩北部医療センター	1
5	佐々総合病院	1	15	東海大学八王子病院	1
6	奥沢病院	1	16	NTT 東日本関東病院	1
7	田園調布中央病院	1	17	国家公務員共済組合連合会三宿病院	1
8	東京慈恵会医科大学附属青戸病院	1	18	東邦大学医療センター大橋病院	1
9	日本赤十字社医療センター	1	19	練馬総合病院	1
10	深川立川病院	1			

⑬ その他全国 16件

No	医療機関名	件数
1	その他	16

5. 放射線部門

医事課係長 桜井 孝

1. 実績（撮影件数）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
単 純 撮 影	70	76	56	56	70	53	53
入 院 時	47	50	35	44	38	40	43
入 院 中	23	26	21	12	32	13	10
区 分	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
単 純 撮 影	67	52	52	59	53	717	60
入 院 時	55	37	41	47	45	522	44
入 院 中	12	15	11	12	8	195	16

2. 実績（フィルム使用枚数）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
半 切	125	135	100	117	117	104	102
大 四 切	11	22	8	9	13	3	1
計	136	157	108	126	130	107	103
区 分	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
半 切	126	89	95	117	101	1,328	111
大 四 切	7	6	8	2	4	94	8
計	133	95	103	119	105	1,422	119

3. 実績（撮影件数・委託分）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
C T 撮 影 件 数	5	10	6	8	6	8	3
頭 部	4	10	5	8	6	8	3
軀 幹	1	0	1	0	0	0	0
四 肢	0	0	0	0	0	0	0
M R I 撮 影 件 数	1	0	0	0	0	0	0
頭 部	0	0	0	0	0	0	0
軀 幹	1	0	0	0	0	0	0
四 肢	0	0	0	0	0	0	0
区 分	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
C T 撮 影 件 数	13	9	7	7	8	90	8

	頭 部	12	9	6	7	8	86	7
	軀 幹	1	0	1	0	0	4	0
	四 肢	0	0	0	0	0	0	0
M R I 撮 影 件 数		2	0	0	1	2	6	0
	頭 部	2	0	0	1	2	5	0
	軀 幹	0	0	0	0	0	1	0
	四 肢	0	0	0	0	0	0	0

6. 検査部門

医事課係長 桜井 孝

1. 年次報告

入院時に検体検査で血液学的検査・生化学的検査・免疫学的検査、生理検査で心電図を実施し、入院中に関しては適宜、主治医の判断で検査を実施しています。検査は(株)戸田中央臨床検査研究所に委託しています。

至急の判定を要する検査に関してはFAXにて随時情報提供をしていただいております。

2. 人員構成（平成23年3月31日現在）

責任医師：佐藤 信也（院長）

3. 実績（検体検査）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
尿・糞便検査	184	179	158	185	160	174	165
血液学的検査	1,031	988	996	1,044	1,087	981	1,004
生化学的検査Ⅰ	2,151	2,007	1,983	2,098	2,214	2,106	2,075
生化学的検査Ⅱ	1	1	1	2	0	1	12
免疫学的検査	252	255	208	248	247	273	263
微生物学的検査	64	53	89	88	97	63	39
病理学的検査	0	0	0	0	0	0	0
区分	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
尿・糞便検査	174	164	135	179	161	2,018	168
血液学的検査	1,018	1,022	1,107	1,097	1,152	12,527	1,044
生化学的検査Ⅰ	1,997	2,207	2,221	2,227	2,367	25,653	2,138
生化学的検査Ⅱ	3	2	7	5	6	41	3
免疫学的検査	225	286	243	286	276	3,062	255
微生物学的検査	43	67	71	66	65	805	67
病理学的検査	0	0	0	0	2	2	0

4. 実績（生理検査）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
心電図	55	52	41	46	44	45	45
区分	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
心電図	59	43	45	50	50	575	48



事務部門



1. 事務管理

事務長 吉井 政昭

平成 22 年度は 2 年に 1 度実施される診療報酬改正の年であり、回復期リハビリテーション領域においてはプラス要素も多く、職員の増員もあいまって、開院以来最高の収益を上げることが出来ました。新設された加算項目の休日リハビリテーションの提供に関しては前年より既に取り組みを開始しており、理学療法・作業療法が毎週、言語聴覚療法が隔週での訓練体制を整え、「毎日リハビリの出来る病院」をいち早く実践しました。充実した訓練数の確保によるリハビリテーション充実加算も 7 月より算定開始となり、増収の大きな要素になりました。

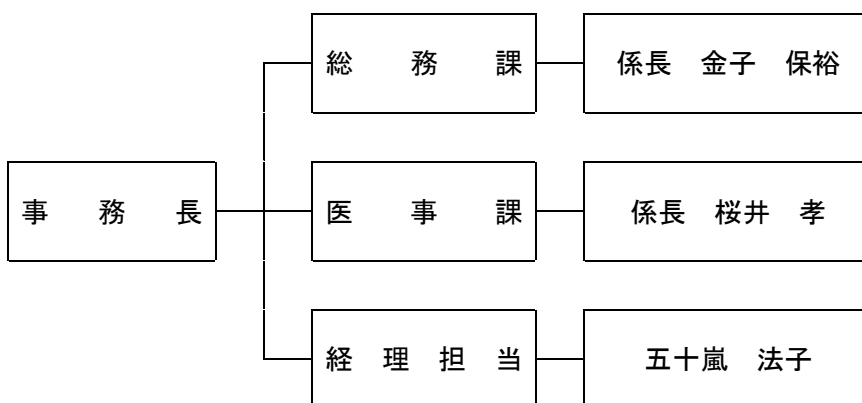
職員数の増加による訓練室をはじめとする共用スペースの確保、アメニティー設備の更なる充実は今後も課題として残りましたが、患者さんやご家族は勿論、職員からも常に選ばれる病院であり続けたいと願い、事務職員の誰もが病院全体を見渡せる広い視野を持って業務に取り組んでいます。

平成 23 年 7 月には近隣に「戸田中央リハクリニック」がオープンし、当院を退院された患者さんが継続して訓練を受けられる施設としての位置づけと、今まで実施できなかった外来リハビリに取り組み、更に地域に開かれた病院作りを実践して行きます。

1. 人員構成（平成 23 年 3 月 31 日現在）

事務長：吉井 政昭

2. 組織図（平成 23 年 3 月 31 日現在）



3. 動態（平成 22 年 3 月 31 日現在 () 内パート) ※院内での職種変更も含

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
採用 転入 異動	事務長												1	1
	医事課									1				1
	総務課													
	経理担当			1									1	2
合 計				1						1			2	4
退職 転出 異動	事務長												1	1
	医事課									1				1
	総務課													
	経理担当				1									1
合 計					1					1			1	3

4. 事務部会議

①関連施設経営管理会議

- 目的 各院（施設）長より運営状況・課題等を報告し、情報と方向性の共有を図る
- 開催日 第2水曜日 8:30～
- 出席者 理事長、各施設（4施設）院長・施設長・所長・事務長他

②関連施設報告会

- 目的 各施設の運営状況・課題等を報告し、情報と方向性の共有を図る
- 開催日 第1・3水曜日 9:00～
- 出席者 理事長、各施設（7施設）事務長他

5. 事務朝礼

- ①毎週火曜日 8:25～ 医事課内において

6. 会議・委員会

病院の運営において、会議・各委員会が活発で意義あるものにすることは活性化に繋がります。そこでの事務部の役割をしっかりと明確にして責任を果たすべく努力しています。

2. 医事課

係長 桜井 孝

1. 年次報告

22年度は4月に実施された診療報酬改定に対応し、改定内容の把握、医事知識の獲得を目標としました。改定内容は、回復期リハビリテーション病棟入院料の増点、休日・充実加算の新設、更に疾患別リハビリテーション料の増点などがあり、当院においては、各部署の協力により、「回復期リハビリテーション病棟入院料1」及び「重症患者回復病棟加算」の維持、休日加算・充実加算の取得をすることができました。

また、22年度は課員の入職・異動があり医事課の質を落とさぬよう努めてきました。

23年度は、診療報酬を維持していくように医事統計・情報を速やかに収集し、各部署と連携を密にすること、更に24年度の保険改定に向け、改定情報に対応し、届出可能な施設基準に向けての準備に着手することを目標としています。

2. 人事

(1) 人員構成（平成23年3月31日現在）

主任：桜井 孝

主任：若林 珠美

課員：金田 綾乃、玉田 歩、辻 夕香、藤田 奈央

(2) 異動

- ▶ 河野 有加里 ……01月16日付 戸塚共立第1病院へ
- ▶ 渡辺 瞳 ……01月21日付 戸田中央臨床検査研究所へ
- ▶ 藤田 奈央 ……01月21日付 戸田中央総合病院本部看護局より
- ▶ 金田 綾乃 ……03月21日付 戸田中央総合病院より

3. 実績（取扱レセプト枚数）

保険別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
社 保	34	38	32	37	37	41	47
生 保	4	7	8	8	7	7	6
社 保 公 費 併 用	1	0	0	0	0	0	0
国 保	153	145	131	136	128	127	124
国 保 公 費 併 用	0	0	1	1	1	2	2
労 災 保 険	3	4	6	5	3	3	3
交 通 事 故	1	0	0	0	1	1	0

計	196	194	178	187	177	181	182
---	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

保険別	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
社保	44	51	45	39	49	494	41.2
生保	7	6	6	9	7	82	6.8
社保公費併用	0	0	0	1	1	3	0.3
国保	139	125	127	131	129	1,595	132.9
国保公費併用	1	0	0	0	1	9	0.8
労災保険	4	1	0	2	1	35	2.9
交通事故	0	0	0	3	3	9	0.8
計	195	183	178	185	191	2,227	185.6

4. 実績（公衛生相関係）

単位：件

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
介護保険意見書	16	25	29	25	24	19	26
インフルエンザ予防接種	0	0	0	0	0	0	0
区分	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
介護保険意見書	26	26	16	33	22	287	23.9
インフルエンザ予防接種	64	17	5	1	0	87	7.3

5. 実績（レセプト査定率）

単位：点数

保険別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
社保	8	0	0	0	0	0	0
国保	300	0	0	0	0	0	0
計	308	0	0	0	0	0	0
査定率	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
保険別	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
社保	840	0	0	0	0	848	71
国保	0	0	0	0	0	300	25
計	840	0	0	0	0	1,148	96
査定率	0.01%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	—

6. 実績（レセプト返戻率）

単位：点数

保険別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
社 保	0	0	0	0	0	0	307,055
国 保	97,904	98,261	25,297	187,378	121,160	0	124,299
計	97,904	98,261	25,297	187,378	121,160	0	431,354
返 戻 率	0.79%	0.78%	0.19%	1.34%	0.86%	0.00%	3.06%
保険別	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
社 保	103,738	0	355,836	113,333	354	880,316	73,360
国 保	38,395	0	0	0	118,641	811,335	67,611
計	142,133	0	355,836	113,333	118,995	1,691,651	140,971
返 戻 率	1.04%	0.00%	2.40%	0.86%	0.83%	1.03%	—

7. 実績（デビットカード使用者数）

区	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
患者数	6	6	7	4	3	3	3	3	3	6	4	4	52
使用率	3.8%	3.4%	4.1%	2.3%	1.8%	1.8%	1.8%	1.6%	1.8%	4.0%	2.3%	2.3%	2.5%

8. 学会・研修会参加

No.	学会・研修会名	内容・講師等	会 場	参加者	日程
1	医事研究会	全体会：活動計画	新座志木中央総合病院	桜井	04/23
2	TMG学会	特別講演・学術発表	戸田市文化会館	桜井・若林	05/16
3	医事研究会	療養分科会：出来算定・未収	世田谷神経内科病院	桜井	05/27
4	医事研究会	療養分科会：出来算定・未収	小平中央リハビリテーション病院	桜井	06/24
5	医事研究会	療養分科会：出来算定・未収	東所沢病院	桜井	07/22
6	医事研究会	療養分科会：出来算定・未収	戸田中央リハビリテーション病院	桜井	08/26
7	CMS学会	特別講演・学術発表	東京国際フォーラム	桜井・玉田 河野	09/26
8	医事課新入職員フォローアップ研修	接遇・事前アンケート報告	戸田中央看護専門学校	桜井	10/30
9	医事研究会	エリア分科会：実務担当者会	戸田中央総合病院	桜井・若林	11/24
10	医事研究会	療養分科会：出来算定・未収	戸田中央リハビリテーション病院	桜井	12/21
11	医事研究会	全体会：分科会報告	戸田中央総合病院	桜井	01/28
12	医事研究会	療養分科会：出来算定・未収	小平中央リハビリテーション病院	桜井	02/24
13	保険審査の最新事情 2011	電レセ時代の返戻・査定対策	大宮ソニックシティ	桜井	03/19

3. 総務課

係長 金子 保裕

1. 年次報告

平成22年度は、開院より8年が経過し設備、備品の劣化故障が多く修理対応が非常に多く感じました。今後計画的に交換・メンテナンスを組むことで患者さんのみならず職員のアメニティーの質低下につながらぬよう対応したいと考えます。

また、4月に実施された診療報酬改定では各科（課）の協力により「回復期リハビリテーション病棟入院基本料1」、「休日リハビリテーション提供体制加算」、「リハビリテーション充実加算」の取得をすることができました。

最後に、なんといっても年度末に発生した東北沖地震です。誰もが経験したことのない非常事態に、日頃の防災意識の低さを痛感しました。東海沖地震の発生率は80%以上といわれています。患者さんを守り、職員を守るのが我々の仕事です。再度マニュアルの見直しや整備、周知徹底することで、非常事態に耐えうる力を備えたいと思います。

平成23年度につきましては、東日本大震災の影響により節電に関して逼迫した状況が続いたため、患者さまにとっての療養環境、スタッフにとっての職場環境は大変息苦しいものであったと思われま

す。その反面、無駄と思われるものに対し互いにチェックし合うといった一人ひとりが節約意識を高め、その結果、光熱費の大幅なコストダウンを図るに至りました。

また、取得基準維持による大幅なスタッフ増員があり、訓練スペース等を確保するための総務課の別棟への移動が行われ、現在では屋上庭園の造成も完成間近となっております。

次年度に向けましては、リハビリ病院として恥じぬよう常に最上位の基準取得、研究会などによる情報の発信源として、また新規リハ事業への取り組みなど円滑に行えるような環境づくりを目指してまいります。

2. 人事

(1) 人員構成（平成23年3月31日現在）

①総務課

係長：金子 保裕

主任：太田 朋美

五十嵐 法子（経理担当）

塚田 真美

3. 実績（官公庁手続き等）

①保健所

ア. 病院報告（患者票） 1件

- イ. 病院報告（従事者票） 1件
- ウ. 麻薬施用者免許申請書（更新） 1件
- エ. 麻薬管理者年間届 1件
- オ. 特殊診療病床数に関する調査票 1件
- カ. 医療法第25条に基づく立ち入り検査事前提出書類 1件

②関東信越厚生局

- ア. 入院基本料及び施設基準に係る届出 7件
- イ. 入院基本料及び施設基準に係る届出（現状報告） 1件
- ウ. 酸素の購入価格に関する届出書 1件

③消防署

- ア. 消防訓練実施計画報告書 2件
- イ. 消防訓練実施結果報告書 2件
- ウ. 消防用設備等点検結果報告書 1件

④労働基準監督署

- ア. 定期健康診断結果報告書 1件
- イ. 定期健康診断結果報告書（夜勤従事者） 1件
- ウ. 電離放射線健康診断結果報告書 1件
- エ. 時間外労働・休日労働に関する協定書 1件

⑤中央環境管理事務所

- ア. 特別管理産業廃棄物処理実績報告書 1件

⑥埼玉県庁

- ア. 建築基準法第12条第1項の規定による定期検査結果報告 1件

4. 実績（各種保険手続き）

①健康保険、厚生年金保険

- ア. 被保険者資格取得 53件
- イ. 被保険者資格喪失 34件
- ウ. 健康保険者被扶養者異動届 15件
- エ. 被保険者氏名変更届 6件
- オ. 健康保険出産手当金請求書 11件
- カ. 健康保険出産育児一時金請求書 0件
- キ. 健康保険傷病手当金請求書 8件
- ク. 育児休業保険料免除申出書 11件
- ケ. 傷病手当金請求書 13件

②雇用保険

- ア. 被保険者資格取得 53件
- イ. 被保険者資格喪失 34件
- ウ. 氏名変更 9件

エ. 雇用保険被保険者離職証明書 13件

オ. 育児休業給付申請書 8件

カ. 育児休業者職場復帰給付申請書

5. 職員数（平成23年3月31日現在） ※人員数は勤務の実人数

職 種	常勤	非常勤	計	職 種	常勤	非常勤	計
医 師	4	5	9	診療放射線技師	0	1	1
看 護 師	46	5	51	管 理 栄 養 士	2	0	2
准 看 護 師	8	1	9	理 学 療 法 士	37	0	37
高 看 学 生	0	5	5	作 業 療 法 士	27	0	27
准 看 学 生	0	0	0	言 語 聴 覚 士	14	0	14
介 護 福 祉 士	17	2	19	医 療 福 祉 科	5	0	5
看 護 助 手	8	3	11	事 務 職 員	11	0	11
看 護 ク ラ ー ク	2	1	3	そ の 他 職 員	0	0	0
薬 剤 師	4	0	4	合 計	185	23	208

6. 入職・退職の報告（平成22年04月01日～平成23年03月31日） ※転入・転出も含

職 種	入職数		退職数		職 種	入職数		退職数	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤		常勤	非常勤	常勤	非常勤
医 師					診療放射線技師		1		
看 護 師	5	4	4	2	管 理 栄 養 士				
准 看 護 師	2	2	1	3	理 学 療 法 士	12		5	
高 看 学 生					作 業 療 法 士	11		7	
准 看 学 生					言 語 聴 覚 士	6		2	
介 護 福 祉 士	2	5	6	1	医 療 福 祉 科				
看 護 助 手		1	1	3	事 務 職 員	4		2	1
看 護 ク ラ ー ク		1			そ の 他 職 員				
薬 剤 師	1		1		合 計	43	14	29	10

7. 動態（平成23年3月31日現在 () 内パート） ※院内での職種変更も含

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
採用 転入 異動	事 務 長													
	医 事 課								1		1		1	3
	総 務 課	1												1
	経 理 担 当													
合 計		1							1		1		1	4
退職 転出	事 務 長													
	医 事 課										2			2

異動	総務課												
	経理担当			(1)									(1)
合計			(1)							2			3

8. 報告

①月平均労働時間数

平均労働時間数	職 種	22年度	21年度
	医 師	161.25	158.8
	看護 師 ・ 准 看護 師	164.56	162.8
	介 護 福 祉 士 ・ 看護 助 手	160.75	159.8
	病 棟 ク ラ ー ク	167.23	164.7
	薬 剤 師	172.48	174.7
	管 理 栄 養 士	164.73	160.7
	医 療 福 祉 科	172.81	170.1
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	170.63	165.4
	事 務 部	175.17	169.5

②有給休暇消化率

年間有給休暇消化率	職 種	22年度	21年度
	医 師	20%	20%
	看 護 要 員	55%	43%
	薬 剤 師	28%	20%
	管 理 栄 養 士	19%	45%
	医 療 福 祉 科	26%	25%
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	54%	70%
	診 療 放 射 線 技 師	—	—
事 務 部	18%	30%	

③水光熱費

No.	区 分	22 年度		21 年度		増減	
		使用量	金額	使用量	金額	使用量	金額
1	電 気	557,820	7,695,211	555,192	7,233,789	+2,628	+461,422
2	水 道	上 水	8,784,629	22,713	8,860,307	▲182	▲75,678
		下 水		22,713		▲182	
3	ガ ス	134,534	8,055,638	123,079	7,137,373	+11,455	+918,265

4. 年間行事報告

1. 平成 22 年度 TMG 新入職員入職式

日 時： 4 月 1 日（木） 10：00～

会 場：戸田市文化会館

出席者数：17名

職 種	男性	女性	計
看護師		1	1
理学療法士	5	3	8
作業療法士	3	2	5
言語聴覚士		2	2
事務		1	1
計	8	9	17

2. 平成 22 年度 昇格式

日 時： 4 月 1 9 日（月） 17：00～

会 場：戸田市文化会館

昇 格 者：4名

氏名	所属	新役職
竹田 聖子	看護部	看護副部長
荻原 亜由美	医療福祉科	主任
若林 珠美	医事課	主任
太田 朋美	総務課	主任

3. 第 48 回 TMG ソフトボール大会

日 時： 4月11日（日） 8：00～

会 場：戸田市道満ソフトボール球場

参加数：110名

結 果：2部リーグ降格

一回戦 ●戸田リハ 5－9 ○戸塚連合

二回戦 ●戸田リハ 0－11 ○朝霞連合

5位決定戦 ●戸田リハ 0－8 ○本部連合

4. 第48回 TMG学会

日 時：5月16日（日） 9：40～15：00

会 場：戸田市文化会館ホール

参加数：57名

学 会 長：新座病院 院長 四條 隆幸

永年勤続：対象者なし

5. TMG定時総会

日 時： 5月26日（水） 18：00～

会 場：京王プラザホテル

6. 院内旅行

日 時： 6月12日（土）～13日（日）

旅 程：群馬県 伊香保温泉 ホテル小暮

参加数：113名

7. 消防訓練

日 時： 6月17日（木） 13：10～14：00

参加人員：男性 27名 女性 78名 計 105名

訓練内容：消火訓練・通報訓練・避難訓練

8. 慰霊祭（戸田中央総合病院合同）

日 時： 8月 5日（金） 13：00～14：00

会 場：戸田中央総合病院 本館屋上

9. 納涼祭

日 時： 8月 5日（金） 18：45～21：00

会 場：ふれあい広場（戸田市本町1-21）

10. 第18回 TMG医局症例検討会

日 時：9月 25日（土） 15：00～

会 場：戸田中央看護専門学校 視聴覚教室

11. 第31回 CMS学会

日時：9月26日（日） 12:00～17:00

会場：東京国際フォーラム

参加数：56名

学会長：戸塚共立第2病院 院長 福島 元彦

12. 第48回 TMG大運動会

日時：10月17日（日） 8:45～

会場：戸田市スポーツセンター

参加数：83名

成績：Bブロック 2位（7チーム中）

ブロック	施設名	障害物リレー	トンネル	綱引き	玉入れ	ムカデ競争	担送リレー	最強リレー	合計点	順位
A	戸田中央総合病院	1	2	1	2	4	1	1	600	1
	戸塚連合	5	5		4	1	2	2	400	4
	朝霞連合	2	4		1	2	5	3	450	2
	新座志木中央総合病院	3	1	2	3	3	4	4	440	3
	西東京中央総合病院	4	3		5	5	3	5	290	5
B	八王子山王病院	2	6		1	2	4	2	460	1
	狭山神経内科病院	7	1	2	7	7	2	3	350	4
	牧野連合	5	5	1	6	3	1	1	440	3
	戸田中央臨床検査研究所	3	7		4	6	7	5	225	7
	小平中央リハビリテーション病院	6	3		4	4	6	6	235	6
	一橋病院	4	4		2	5	3	7	300	5
	戸田中央リハビリテーション病院	1	2		3	1	5	4	450	2
C	世田谷神経内科病院	3	3		7	2	5	3	340	5
	茂原中央病院	5	1	1	1	3	3	2	530	1
	本部連合	7	5		4	6	1	1	340	4
	戸田中央産院	2	4	2	5	1	4	5	395	2
	熱海所記念病院	4	2		3	5	2	4	390	3
	北総船橋連合	1	7		5	4	6	7	245	6
	グリーンビレッジ安行	6	6		2	7	7	6	220	7
D	奥沢病院	2	5	1	2	2	1	5	500	1
	東所沢病院	1	4		7	7	4	3	320	4
	新座病院	4	1		1	4	5	2	430	3

田園調布中央病院	6	2		4	1	2	1	450	2
松井病院	7	3		4	5	3	7	260	6
戸塚共立リハビリテーション病院	5	7	2	4	6	7	4	220	7
佐々総合病院	3	6		3	3	6	6	280	5

13. 消防訓練

日 時：11月24日（水） 13：10～14：00

参加人員：男性 28名 女性 78名 計 106名

訓練内容：消火訓練・通報訓練・避難訓練

14. 病院忘年会

日 時：12月8日（水） 19：30～

会 場：ホテルブリランテ武蔵野

参加人員：141名

15. CMS新春観劇会

日 時：1月8日（土） 16：00～20：30

会 場：明治座

内 容：「いかん どっかん あっけらかん」

16. 第19回 TMG医局症例検討会

日 時：1月15日（土） 15：30～

会 場：京王プラザホテル

17. 新年医局交礼会

日 時：1月15日（土） 18：20～21：00

会 場：京王プラザホテル

18. CMS事務認定試験

日 時：2月19日（土） 15：00～

会 場：戸田中央看護専門学校

結 果：

医事初級		医事上級		経理上級		合計	
受験	合格	受験	合格	受験	合格	受験	合格
2	2	1	0	1	0	4	2
100%		0%		0%		50%	



會議・委員會報告

No.	名 称	開催日	構成員	開催回数
1	管理会議	毎週月曜日 14:00～	院長、事務長、看護部長	44
2	医局合同会議	第3月曜日 12:00～	院長、事務長、看護部長、医局員、各科（課）所属長	10
3	所属長連絡会議	第1月曜日 12:00～	院長、事務長、看護部長、各科（課）所属長	12
4	入院判定会議	毎週月・木曜日 12:00～	院長、看護部長、各病棟看護師、医療福祉科員 リハビリ科員	93

1. 定例会議開催報告

1. 管理会議

- 目 的：病院の運営管理に関する院長の諮問機関として管理会議をおく
- 諮問内容：

ア、組織、委員会からの事項を決裁する予算、重要な事業計画等の管理運営の基幹に関する事項、病院の将来構想に関する事項等について調査・審議・決定する

- イ、人事に関する事及び諸費用として総額 10 万円以上を要するものについては、稟議書をもって管理会議にて決裁する
- ウ、管理会議は（ア）の達成に向けて指導力を発揮する
- エ、各会議・委員会からの上申事項等を決裁する
- 報 告：議事録に記載

2、医局合同会議

- 目 的：診療業務を円滑に運営するため医局合同会議をおく
- 内 容：
 - ア、管理会議等での決定事項を各診療科・各部署に周知する
 - イ、各診療科・委員会からの意見の検討。病院の診療統計資料に基づき評価・改善を行う
- 報 告：議事録に記載

3、所属長連絡会議

- 目 的：病院業務を円滑に運営するため所属長連絡会議をおく
- 内 容：
 - ア、病院業務を円滑に運営するため各科（課）所属長間の検討・調整を行う
 - イ、医療界の最新の情報や医療問題についてディスカッションを行い、病院運営に役立てる
 - ウ、管理会議等の決定事項を周知する
 - エ、職員からの意見を基に話し合い、意見・要望事項を管理会議に提出する。
 - オ、各診療科・委員会からの意見の検討。病院の診療統計資料に基づき評価・改善を行う
- 報 告：議事録に記載

4. 入院判定会議

- 目 的：入院の可否を決定する
- 構 成：院長、看護部長、各病棟看護師、リハビリテーション科、ソーシャルワーカー
- 開催日時：週 2 回（月・木） 12：00～
- 開催場所：医療福祉相談室
- 報告

ア、会議結果

月	回数	入院予約		入院不可		入院決定率	
		(回復期)	(療養)	(回復期)	(療養)	(回復期)	(療養)
4 月	8	46	0	23	1	66.7%	0%
5 月	8	43	1	14	0	75.4%	100%
6 月	7	45	0	11	0	80.4%	-
7 月	7	41	0	20	0	67.2%	-
8 月	8	45	0	10	1	81.8%	0%
9 月	8	39	1	10	0	79.6%	100%
10 月	7	54	0	11	0	83.1%	-
11 月	9	61	0	13	1	82.4%	0%
12 月	7	12	0	16	0	42.9%	-
1 月	7	71	0	11	0	86.6%	-

2月	8	51	0	15	0	77.3%	-
3月	7	40	0	15	1	72.7%	0%
合計	91回	548件	2件	169件	4件	76.4%	33.3%

イ、入院不可理由

No.	理由	件数	比率
1	回復期病棟でのリハビリ適応に乏しいため	58	33.5%
2	病状管理不可	44	25.4%
3	認知症がありリハビリ継続・対応が難しいため	26	15.0%
4	高次脳機能障害が著名で、対応が難しいため	11	6.4%
5	自立度が高いため入院の適応に乏しいため	9	5.2%
6	リハビリゴールと思われるため	7	4.0%
7	回復期病棟非該当	6	3.4%
8	四肢麻痺でADL全介助、リハビリ適応に乏しいため	3	1.7%
9	アルツハイマーがあり回復期の適応ではないため	2	1.2%
10	自宅退院が全く見込めないため	2	1.2%
11	退院先の目処が全くつかないため	2	1.2%
12	キーパーソンが不在	1	0.5%
13	年齢が若く対応が難しいため	1	0.5%
14	廃用症候群のため	1	0.5%
合計		173件	100%

2. 委員会報告

No	委員会名称	開催日	回数
1	安全衛生委員会	第3月曜日 12:30～	12
2	感染症対策委員会	第2水曜日 15:00～	12
3	褥瘡対策・NST委員会	第4火曜日 15:30～	12
4	医療ガス安全管理委員会	適宜	3
5	栄養管理委員会	奇数月第3水曜日 16:00～	6
6	放射線安全管理委員会	適宜	1
7	防災対策委員会	適宜	6
8	医療安全管理委員会	第4木曜日 14:00～	12
9	環境整備委員会	第2月曜日 16:00～	12
10	レクリエーション委員会	適宜	0
11	医療情報システム管理委員会	第3木曜日 15:00～	6
12	薬事委員会	3ヶ月に1回	4
13	広報委員会	第4月曜日 16:00～	12

14	教育委員会	第3火曜日 12:30～	12
15	電子カルテ運用検討委員会	隔月第4木曜日 15:00～	6
16	摂食嚥下推進委員会		
17	地域リハビリテーション研究会運営委員会	開催月の前月第1平日	2
18	倫理委員会	適宜	0

3. 安全衛生委員会

1. 目的：労働基準法18条に基づき、下記事項について調査審議する
- ア、労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること
 - イ、健康の保持促進を図るための基本となるべき対策に関すること
 - ウ、労働災害の原因及び再発防止対策で衛生にかかるものに関すること
 - エ、労働者の健康障害の防止及び健康の保持促進に関する重要事項について

2. 構成：平成23年3月31日現在

委員長	露口 都子	医師
委員	吉井 政昭	事務長
〃	竹田 聖子	看護部長
〃	中川 崇之	リハビリテーション科副主任
〃	桜井 孝	医事課係長
事務局	金子 保裕	総務課係長

3. 報 告：

ア、雇入時健康診断

- 19年度中途入職者を対象に実施
- 実施医療機関：戸田中央総合健康管理センター

イ、定期健康診断

- 全職員対象
平成22年5月17日（月）～19日（水）184名実施（受診率95.3%）
- 夜勤従事者対象
平成22年12月7日（火）～8（水）60名実施（受診率100%）

4. 感染症対策委員会

1. 目 的：委員会は院内感染予防に関する事項について調査審議すると共に院内感染予防管理に有効な意見を進言していく

2. 構 成：平成23年3月31日現在

委 員 長	佐藤 信也	院長
副 委 員 長	露口 郁子	医師
委 員	竹田 聖子	看護部長
〃	吉井 政昭	事務長
〃	門岡 久美子	薬剤師
〃	前田 基子	リハビリテーション科副主任
〃	藤本 美穂	栄養科係長
〃	松原 昌子	2階病棟副主任
〃	清水 睦子	3階病棟副主任

〃	土屋 美乃	4階病棟看護師
事務局	松原 昌子	2階病棟看護師

3. 委員会開催

月日	議事内容	出席人数
4月	・感染状況報告 ・抗菌薬使用状況 ・針刺し事故について ・流行性角結膜炎疑い患者について	10
4月臨時	・流行性角結膜炎疑い患者発生に付き対応検討	10
5月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 ・流行性角結膜炎疑いについて ・近隣施設での疥癬について	10
6月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 ・7月の勉強会の内容について	7
7月	・抗菌薬使用状況 ・8月勉強会について ・ツ反実施について ・インフルエンザ対応 ・外泊貸し出し物品の消毒について	11
8月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 ・院内ラウンド ・ゴミ捨て場前のゴミの散乱について	11
9月	・抗菌薬使用状況 ・8月勉強会報告 ・ツ反実施について ・感染状況報告 ・ニュースレター発行	9
10月	・感染状況報告 ・抗菌薬使用状況 ・多剤耐性菌研修報告 ・ツ反結果報告 ・手指消毒剤ゴージョーについて ・インフルエンザワクチン実施予定内容	10
11月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 ・ハンドローションについて ・インフルエンザ予防接種について ・手指消毒剤ゴージョーについて ・保健所の医療監査結果報告 ・ノロウイルス対策について ・ピューラックスについて	9
12月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 ・インフルエンザ予防接種について ・感染予防対策マニュアル変更について(ノロ対策・留置針期限・ アルコール手指消毒剤・針刺し事故フローチャート) ・ハンドローションについて ・1月の勉強会について	9
1月	・感染状況報告 ・抗菌薬使用状況 ・1月勉強会について ・リキャップ防止について(シリンジ「オーツカ」の採用)	10
2月	・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 ・職員のインフルエンザ罹患対応に ついて ・1月勉強会報告会 ・栄養科スタッフのノロウイルス感染の対 応について	10
3月	・ラウンド実施 ・抗菌薬使用状況 ・感染状況報告 今年度の反省 ・環境整備の雑巾のディスポ化について ・漂白剤について	11

4. 院内感染の発生状況についての記録・分析

ア、MRSA検出状況

月	2 階病棟	3 階病棟	4 階病棟	計
4 月	1	0	0	1
5 月	3	0	0	3
6 月	1	1	1	3
7 月				報告なし
8 月	2	1	0	3
9 月	1	3	0	4
10 月	2	0	1	3
11 月				報告なし
12 月				報告なし
1 月	0	2	1	3
2 月				報告なし
3 月	1	2	0	3
計	11	9	3	23

イ、緑膿菌検出状況

月	2 階病棟	3 階病棟	4 階病棟	計
4 月	0	0	0	0
5 月	1	0	0	1
6 月	0	1	1	2
7 月				報告なし
8 月	0	1	1	2
9 月	0	0	2	2
10 月	1	2	1	4
11 月				報告なし
12 月				報告なし
1 月	0	1	1	2
2 月				報告なし
3 月	0	0	0	0
計	2	5	6	13

ウ、インフルエンザ検出状況（22 年 11 月 01 日～23 年 03 月 31 日）

- インフルエンザ A 陽性 0 名
- インフルエンザ B 陽性 0 名
- スタッフインフルエンザ罹患 7 名

エ、職員インフルエンザ予防接種

接種日 11 月 8 日（月）～10 日（木）（12 月 31 日までは個別接種）

対象者 全職員(委託業者も含む)

接種者／接種率 病院職員 194名中 185名／接種率 95%

委託業者 ダスキン 9名中 9名／接種率 100%

日清 8名中 6名／接種率 75%

オ、針刺し事故状況（平成 21 年 04 月～平成 22 年 03 月）

針刺し事故者 0 名

カ、院内感染教育に関する事項

No.	月日	内 容
1	04/05	新人研修 スタンダードプリコーション ・防護用具の使用 方法 ・手洗い・消毒薬
2	08/19	・手洗い方法（実践）
3	01/20	・マニュアルの変更内容の周知（ノロウイルス対策・針刺し事故フロー チャート(HIV 対応)・EKC)

キ、院内感染の調査及び対策有効性の評価

➤ 院内ラウンドの実施（年 3 回）

➤ 実施日：平成 22 年 8 月 11 日、10 月 13 日 3 月 9 日

➤ 調査部署：各病棟・リハビリ室・栄養科（厨房）

➤ 評価：

ウエルパスの日付未記入多い ウロバッグが床に接地

経管栄養物品の取り扱い、洗浄方法の再周知・徹底が必要。

ゴミの分別が不十分という状況が例年続いており、全体の勉強会だけでは、徹底ができないのか。部署単位で委員が指導していくことが有効と推測する。

ク、院内感染による発生患者の増減等により対策の有効性の評価

ケ、院内感染に関する技術及び医療器具の改善、指導、監督

➤ ゴージョー使用の遵守

➤ スタンダードプリコーションの推奨・実施

➤ ノロウイルス発生に備えてのマニュアル調整・物品の管理

5. 褥瘡対策・NST委員会

1、目的：

- ア、褥瘡発生の予防と対策について組織的に取り組む
- イ、全職員が褥瘡に関しての認識を深められるよう教育環境を整える
- ウ、褥瘡発生の予防と対策について組織的な取り組みを行う為の推進役となる

2、構成：平成23年3月31日現在

委員長	露口都子 並木祐樹	医師
副委員長	石田陽子	4階病棟看護師
委員	竹田聖子	看護部長
〃	藤本美穂 増田彩	栄養科係長
〃	松田美紀	2階病棟看護師
〃	佐藤純子 松田裕美	3階病棟看護師
〃	石田陽子	4階病棟准看護師
〃	小峰隆弘	リハビリテーション科

	森智美	
事務局	石田陽子	4階病棟看護師

運営

毎月1回（計12回）

開催報告

開催日	議事内容	参加人数
4/26	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討 NST 活動の反省と課題、今年度の方針	8
5/24	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討 予防物品について資料作成	8
6/27	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討	9
7/26	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討 体圧分散用具の資料作成	9
8/23	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、 体圧分散用具の使用状況と使用基準について検討	11
9/27	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況	12
10/25	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況	9
11/22	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況	12
12/27	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況	11
1/24	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況	12
2/28	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況 褥瘡委員会からの院内勉強会、反省会	10
3/28	褥瘡ラウンド・結果報告、NST ケース検討、体圧分散用具の使用状況 今年度の反省と来年度の目標	10

活動内容（職員教育も含む）

- ア、褥瘡ラウンド・カンファレンスの定例実施
- イ、体圧分散用具の使用状況
- ウ、各病棟での勉強会（資料配布）

6. 医療ガス安全管理委員会

- 1、目的：医療ガス施設の安全管理を図り、患者の安全を確保するために、医療ガスに

関する各種の事項について審議する。

2、構 成：平成23年3月31日現在

委員長	佐藤信也	院長
委員	吉井政昭	事務長
〃	竹田聖子	看護部長
〃	金子保裕	総務課係長
〃	古賀雅恵	薬剤科係長
オブザーバー	今井敏彦	戸田中央総合病院施設課課長
〃	東京エア・ウォーター(株)	
事務局	金子保裕	総務課係長

3、報 告：

ア、委員会

日 時：①月日（水）12:45～ ②8月12日（水）12:45～
③3月17日（水）12:45～

会 場：会議室

イ、勉強会

日 時：5月13日 13:20～

会 場：リハビリテーション室

参加者：51名

ウ、医療ガス配管設備の安全点検

日 時：①平成21年7月27日（月） ②平成22年1月08日（金）

結 果：①異常なし ②異常なし

7. 栄養管理委員会

1. 主 旨：栄養・給食業務の改善等に関する重要事項を審議し、かつ関係部門との連絡調整の円滑化を図る。

2. 目 的：審議事項は、食事基準・献立・栄養指導・各種調査等、栄養・給食業務の改善及び患者サービスの向上等に関するものとする。

3. 構 成：：平成23年3月31日現在

委員長	佐藤 信也（医師）
副委員長	藤本 美穂（栄養科係長）

委員	吉井 政昭 (事務長)
〃	竹田 聖子 (看護部長)
〃	日坂 典子 (2F 看護課長)
〃	中野 和子 (3F 看護師)
〃	土川 純子 (4F 看護師)
〃	吉岡 やよい (リハビリ科 ST)
〃	増田 彩 (管理栄養士)
オブザーバー	稲垣 めぐみ (委託会社責任者・栄養士)

4. 報告：議事録による

8. 放射線安全管理委員会

1、目的：放射線障害予防規定の適正で効率的運用を図るために予防規定第 10 条に定める放射線安全委員会を定める

2、審議事項：

- ア、放射線障害の発生の防止に係ること
- イ、放射線障害の防止のための管理区域に係ること
- ウ、放射線発生装置の維持・管理に係ること
- エ、放射線発生装置の使用に係ること
- オ、測定に係ること
 - 使用施設、管理区域境界及び病院境界の漏洩線量の測定
 - 個人被ばく線量の測定
- カ、放射線障害の発生を防止するために必要な教育に係ること
- キ、訓練業務従事者に対する健康診断に係ること
- ク、使用、保管、自主点検並びに教育及び訓練にかかる記録に係ること
- ケ、放射線発生装置に危険時（地震、火災等の災害）が起こったことに係るこ

3、構成：平成 23 年 3 月 31 日現在

委員長	佐藤信也	院長
委員	竹田聖子	看護部長
〃	吉井政昭	事務長
〃	高橋正徳	戸田中放射線科長

事務局	金子保裕	総務課係長
-----	------	-------

4、報告：議事録による

9. 防災対策委員会

1. 目的：法令に基づき設置し、併せて院内の特定事項に関する院長の諮問機関として設置する。

2. 審議事項

- ア、防火、防災に関する院長からの指示事項
- イ、消防計画の立案と変更
- ウ、その他病院の防火、防災に必要な事項
- エ、年度重点項目
- オ、各部署訓練計画の策定
- カ、防災倉庫の設置と非常食等防災用品の充実

3. 構成：平成23年3月31日現在

委員長	吉井政昭	事務長・防火管理者
委員	兼本佐和子	2階病棟係長
〃	坂口信恵	3階病棟係長
〃	橋本祐子	4階病棟主任
〃	中川崇之	リハビリテーション科副主任
〃	小川留美子	医療福祉科
〃	増田彩	栄養科
事務局	金子保裕	総務課係長

4. 報告

ア、消防訓練

○日時：6月17日（水）13：10～14：00

天候：晴れ

内容：昼間の火災発生を想定し、火災発生からいかに素早く通報及び避難誘導が行えるかを訓練する。また、水消火器を使用し初期消火の訓練を行うと共に消火器の取扱説明会を行う。

参加数：計105名（男性：27名、女性：78名）

○日 時：11月24日（木）13：10～14：00

天 候：晴れ

内 容：夜間の火災発生を想定し、火災発生からいかに素早く通報及び避難誘導が行えるかを訓練する。また、水消火器を使用し初期消火の訓練を行う。その後、担架の組立説明会を行う。

参加数：計106名（男性：28名、女性：78名）

イ、消防用設備等点検

○日 時：8月31日（火）

点 検 者：能美防災㈱

点検設備：○自動火災報知設備 ○非常用放送設備 ○ガス漏れ火災警報設備
○消防水利 ○消火器設備 ○防火・防排煙設備 ○誘導灯設備
○スプリンクラー設備 ○避難器具設備 ○自家発電設備
○火災通報装置

○日 時：2月12日（土）

点 検 者：能美防災㈱

点検設備：○自動火災報知設備 ○非常用放送設備 ○ガス漏れ火災警報設備
○消防水利 ○消火器設備 ○防火・防排煙設備 ○誘導灯設備
○スプリンクラー設備 ○避難器具設備 ○自家発電設備
○火災通報装置

ウ、防災実施点検報告書の作成・管理

エ、年末年始、ゴールデンウィーク防災管理体制

オ、各種マニュアル・規程の作成・配布・遵守の指導

○消防計画 ○大規模災害マニュアル ○新入職員への防災心得

カ、災害時登院時間調査

キ、備蓄品の管理

○備蓄配置一覧

品名	数量	保管場所
ク ラ ッ カ ー	1,200	戸田中央総合病院物品倉庫
シ チ ュ ー	1,200	〃
デ ィ ス ポ 食 器	1,000	〃
紙 コ ッ プ	400	〃

割	り	箸	1,000	〃
プラスチック	フォーク		200	〃
水	(2 ℓ ボトル)		96	〃
携帯ラジオ・拡声器			各 1 台	物品倉庫
メガホン・ロープ			50m2 本、20m3 本	〃
救急担架			3	各病棟
その他			救急箱、院内図面 職員名簿、病院旗	総務課・看護部長室

10. 医療安全管理委員会

1、目的：患者と職員の安全と安心の確保を通じ組織に与える損失を最小に抑える

2、構成：(平成22年3月31日現在)

委員長	幡谷史子	医師
副委員長	今川寛海	4階病棟主任
〃	中川宗之	リハビリテーション科
委員	吉井政昭	事務長
〃	竹田聖子	看護部長
〃	桜井孝	医事課係長
〃	古賀雅恵	薬剤科係長
〃	藤本美穂	栄養科
〃	松原昌子	2階病棟副主任
〃	廣瀬里恵子	3階病棟
〃	荻原亜由美	医療福祉科

3、活動内容：

- インシデント・アクシデントの集計・分析・検討
- 院内全体研修実施 2回/年(7月及び22年1月)
- 安全器具(コールマット等)の増大
- 月/1件以上レポート分析実施
- KYT勉強会、各科で導入
- 入浴カンファレンス・入浴リーダー制の導入
- 院内暴力・暴言マニュアル改定

- 採血マニュアル改正
- 針刺し事故についてニュースレター

1 1. 環境整備委員会

- 1、目的：患者さんの立場に立ち、より良い入院環境を目指す。
 患者さんが満足し、安心して医療・看護を受けられるよう接遇教育を実施する。
 病院環境の整備・美化につとめ、快適な療養環境を整え、患者サービス向上に努める。

- 2、構成：平成23年3月31日現在

委員長	竹田聖子	看護部長
副委員長	古賀雅恵	薬剤科係長
委員	大島まゆ	リハビリテーション科
〃	金子保裕	総務課係長
〃	津田唯	医療ソーシャルワーカー
〃	清水美里	4階病棟看護師
〃	吉井愛子	3階病棟准看護師
〃	重田愛子	2階病棟看護師
事務局	古賀雅恵	薬剤科係長

- 3、報告

- 開催日：1ヶ月に1回（合計12回）開催

ア、職員の接遇教育：3ヶ月に1回、接遇に関する院内統一のテーマを決めて各部署で実施

04月13日～07月12日：電話対応月間

07月13日～10月12日：あいさつ・言葉遣い月間

10月05日～01月11日：身だしなみ月間

01月13日～04月11日：片付け月間

イ、屋上でのガーデニングの実施

ゴーヤとミニトマト：05月12日(水)に植え付け ⇒ 07月11日に収穫

小松菜と大根：11月05日(金)に植え付け ⇒ 12月13日と03月31日に収穫

ウ、病院敷地内の草刈り：06月05日(土)、10月23日(土)、03月19日(土)に実施

エ、近隣施設の清掃：06月05日(土)、10月23日(土)、03月19日(土)に実施

オ、病院周辺の美化(清掃)：各部署2週間交代で、毎朝実施

カ、玄関と中庭のプランターの管理：各部署2週間交代で水やりを実施

キ、院内巡視：月1回、委員会の時に実施

ク、『みなさまの声』への返答

ケ、患者満足度調査の実施・集計：07月18日(日)～08月07日(土)に実施、その後集計

コ、職員満足度調査の実施・集計：08月15日(日)～08月31日(火)に実施、その後集計

サ、院内環境の改善

6月より日勤帯に外掃除当番の部署が自転車置き場の整頓を実施

業者による院内の窓清掃：12月26日(日)

業者による院内ワックス清掃：06月19日(土)、06月27日(日)、07月16日(金)、
07月25日(日)、11月16日(火)、11月21日(日)

クリスマスツリーの設置

シ、接遇研修会：09月10日(金)と09月24日(金)に実施

TMG本部 人事部 箕輪さん

ス、医療倫理研修会：02月16日(木)に実施

早稲田大学人間科学部 教授 小野充一先生

12. レクリエーション委員会

1、目的：職員の健康の増進と福利厚生に関し、必要な審議及び企画の業務を行う。

2、構成：平成23年3月31日現在

委員長	金子 保裕	総務課係長
委員	今川寛海	4階病棟主任
〃	吉池 史雄	リハビリテーション科
〃	小川 留美子	医療福祉科
〃	太田朋美	総務課主任

3、内容報告：開催なし

13. 医療情報システム管理委員会

1、目的：診療情報が適切に提供できるよう基準・手順の整備、記録の標準化、医療支援システム（電子カルテ）の運用、クリニカルパスの適正化、地域連携パス大腿骨の活用

2、構成：平成23年3月31日現在

委員長	松村敦	医師
副委員長	竹田聖子	看護部長
委員	古賀雅恵	薬剤科係長
〃	本橋 枝里子	2 F 病棟看護師
〃	佐藤 絵馬	3 F 病棟看護師副主任
〃	橋本 祐子	4 F 病棟看護師
〃	山中 寛子	医療福祉科係長
〃	小峰 隆弘	リハビリテーション科主任
〃	桜井 孝	医事課係長
事務局	兼本佐和子	看護係長

3、報告：

▶ 毎月第3木曜日1回開催

- ア、 地域連携パス大腿骨作成
- イ、 電子カルテ導入後問題検討
- ウ、 院内記録物の標準化
- エ、 委員会議事内容

開催月	議事内容	参加人数
4月	平成21年度方針（地域連携パス活用、院内パス適正化、電子カルテの適正運用など） ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・電子カルテについて ・院内脳卒中パスについて	10
5月	・院内脳卒中パスについて ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・電子カルテについて	10
6月	・院内脳卒中パスについて ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・電子カルテについて	9
7月	・院内脳卒中パスについて ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・電子カルテについて	10
8月	・院内脳卒中パスについて ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・電子カルテについて	11
9月	・院内脳卒中パスについて ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・電子カルテについて	10
10月	・院内脳卒中パスについて ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・電子カルテについて	9
11月	・院内脳卒中パスについて ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・電子カルテについて ・口腔内チェック表	10
12月	・院内脳卒中パスについて ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・車椅子除圧クッション運用規定と借用書について	10

1月	・院内脳卒中パスについて ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・	10
2月	・院内脳卒中パスについて ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・医療情報システム運用規定について ・VE 検査同意書について	11
3月	・院内脳卒中パスについて ・地域連携パスについて(脳卒中・大腿骨骨折) ・医療情報システム運用規定について ・今年度の反省	11

14. 薬事委員会

1、目的：病院における使用薬品の評価及び新規薬品の採用、その他業務の合理化に資する事項を検討し、病院運営の効率化を図ることを目的とする。

2、構成：平成23年3月31日現在

委員長	佐藤信也	院長
委員	松村敦	医師
〃	吉井政昭	事務長
〃	竹田聖子	看護部長
〃	古賀雅恵	薬剤科係長

3、報告：

➤ 3ヶ月に1回（6月10日、8月26日、11月18日、3月10日）開催

ア、新規採用薬

No.	薬剤名
1	アリセプトD錠 5 mg

イ、口座末梢薬剤

No.	薬剤名	No.	薬剤名
1	ドセル錠	5	シベノール錠 100 mg
2	アモキシシリンカプセル 250 mg 「トーワ」	6	グラケーカプセル 15 mg
3	トニール錠	7	バザロイン錠 5 mg
4	ノイオミール錠 25 mg		

ウ、薬剤の切り替え

No.	薬剤名	No.	薬剤名
1	ピペラシリンナトリウム注射用 1g (←タイペラシリン注射用 1g)	6	アレロオフ錠 20 (←アレロック錠 5)
2	パセトクール静注用 1g (←セピドナリン静注用)	7	生食注シリンジ「オーツカ」 10ml (←生理食塩水 MP(20ml))
3	ゴージョーMHS (←ウエルパス)	8	グリメピリド錠 1mg 「杏林」 (←アマリール錠)
4	メプチン吸入液ユニット 0.3ml (←アロテック吸入液 2%)	9	レボチロキシリン Na 錠 50 μ g 「サンド」 (←チラーヂン S 錠 50)
5	注射用水 (20ml) [日新] (←注射用水 (20ml) [アイロム])		

エ、要時採用薬

No.	薬剤名	No.	薬剤名
1	エスポー皮下用 6000	15	ツムラ大建中湯エキス顆粒
2	プレドニゾロン錠 1mg	16	アンカロン錠 100
3	カリメート散	17	ファンミルR錠 150mg
4	アシロバック錠 400mg	18	ベゲタミン錠-A
5	本草加味逍遥散エキス顆粒	19	テオドールドライシロップ 20%
6	ツムラ抑肝散エキス顆粒	20	ロヒプノール錠 1
7	ベプリコール錠 50mg	21	デトルシトールカプセル 4mg
8	サルボグレラート塩酸塩錠 100mg 「日医工」	22	スピリーバ 2.5 μ g レスピマット 60 吸入用
9	アザルフェジン EN 錠 500mg	23	インデラル錠 10mg
10	ビ・シフロール錠 0.5mg	24	エンシュアリキッド
11	プロドナー錠 20	25	セロクエル 25mg錠
12	プラビックス錠 25mg	26	ユリーフ錠 4mg
13	エビスタ錠 60mg	27	アドナ錠 30mg
14	アナフラニール錠 10mg、25mg	28	メトロック錠 10

15. 広報委員会

- 1、目的：「病院と地域社会双方向のコミュニケーション」を円滑にするために、病院事業を「広く報じる」ことを実施し、患者さん・地域社会と良好な関係を保ち、「多くの戸田中央リハビリテーション病院のファン」を作ることとする。

2、審議事項：

- ア、病院広報に関する事項
- イ、病院ホームページに関する事項
- ウ、その他広報全般に関する事項
- エ、年度重点項目
 - 年4回の定期的な病院広報誌の発行と及び充実
 - ホームページの内容充実と定期的な更新

3、構成：平成23年3月31日現在

委員長	吉井政昭	事務長
副委員長	山中寛子	医療福祉科係長
委員	竹田聖子	看護部長
〃	桜井孝	医事課主任
〃	森岡由美	リハビリテーション科
事務局	桜井孝	医事課主任

① 報告：議事録による

② 活動報告

ア、広報誌『smile』の発刊

発行号	発刊月	発刊部数	TOPICS
第23号	22年10月	100	◇院長だより ◇栄養科～秋の旬を食べましょう～ ◇退院に向けて（各職種によるアプローチ） ◇インフルエンザ予防接種について ◇戸田中央総合病院市民公開講座
第24号	22年12月	165	◇院長だより ◇戸田リハマラソン部紹介 ◇看護部通信～摂食・嚥下への取り組み～ ◇リハビリテーション科より～休日リハについて～ ◇医療福祉相談室より
第25号	23年3月	100	◇院長だより ◇計画停電及び節電について ◇平成22年度新入職員～1年間を振り返って～
			◇看護部通信 ◇リハビリテーション科より～シーティングについて～ 薬剤科より～花粉症について～

■ 院長だよりの紹介

➤ 第23号

今の常識明日の非常識と言いますが、医学の世界でも同様なことが多々あります。10年以上前には心不全（心臓が悪くなる病気）には使ってはいけないと言われた薬が、今では使うのが当たり前になっているものとか、最近ではコレステロールを下げるのが良しとする今の常

識に、高い方が長生きするのでは？と対極の意見が出てきました。古くは天動説の時代の 17 世紀に地動説を支持したガリレオ・ガリレイの宗教裁判は有名です。この過ちに関しては 300 年以上経過した 1992 年に、ローマ法王が正式に間違いを認め謝罪したことなど記憶に新しく、正しいことを認めるこの難しさを示しています。何事にも「永遠」が存在しないのだということでしょうか？命のように。

➤ 第 24 号

2010 年 7 月に米調査会社ギャロップ社による「世界で最も幸福な国」調査の結果が発表されました。155 ヶ国中ランキング上位 5 カ国はデンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、オランダと北欧諸国が占めました。その中で日本はなんと 81 位です。ちなみにアメリカは 14 位で、経済発展途上のブラジルは 12 位でメキシコは 18 位など、驚きの結果です。更に過去にいくつか行われた日本の幸福度ランキングをご紹介しますと、

HDI (Human Development Index) : 10 位 (2007 年) 国際開発計画 (UNDP) 2009 年発表、550 カ国以上調査

WVS の幸福度ランキング : 43 位 / 97 カ国 (2008 年) スウェーデン調査機関 WVS (World Values Survey)

HPI (The Happy Planet Index 2.0) : 75 位 / 143 カ国 (2009 年) 英国調査機関 NEF (The New Economics Foundation)

レスター大学の幸福度ランキング : 90 位 / 178 カ国 (2006 年) 英国レスター大学、NEF と 100 種以上公表データを分析

多かれ少なかれ日本は余り幸福な国ではないようです。

ここで鉄鋼王として有名なデール・カーネギーの名言をご紹介します！

忘れてはいけない。

幸せはあなたが何者であるか、

あるいは、何を持っているかによって決まるのではない。

何を考えるかによって決まるのだ。

皆さんは幸せですか？

➤ 第 25 号

この広報誌の発刊原稿締め切り間際の頃でしたが、この大震災が発生して、その被害の全貌が明らかになりつつあります。何か気の利いたことでも書こうと思っていましたが、とてもそんな気分にはなれません。犠牲になられた方々に心から冥福をお祈り申し上げます。更に被災された方々にお見舞い申し上げますと共に、被災されてお困りの方々に当院としてできることを提供して

ゆきたいと思います。

16. 教育委員会

1、目的：職員の質の向上を図るために、知識、技術、接遇に関する教育と教育環境の整備を行う。

2、構成：

委員長	竹田聖子	看護部長
委員	兼本佐和子	看護部係長
〃	土屋義隆	リハビリテーション科主任
〃	桜井孝	医事課主任
〃	荻原亜由美	医療福祉課副主任
〃	寺内	薬剤科
〃	平野真希	2階病棟副主任
〃	本橋亜紀子	3階病棟看護師
〃	加藤正美	4階病棟看護師

3、報告：

回数	開催日	議題他
第01回	04/20	新入職研修報告、今年度の研修計画について
第02回	05/19	・接遇研修について・院内図書充実について
第03回	06/1	・院内図書整備について・脳血管疾患研修報告
第04回	07/15	・接遇研修について・公開講座について
第05回	08/17	・感染MRM研修について・後半期の研修について
第06回	09/21	・研修状況報告・公開講座について
第07回	10/26	・研修状況報告・後半期の研修について
第08回	11/26	・研修レポートの提出方法、ルート、期限の確認
第09回	12/15	・職場のメンタルヘルス研修報告 ・医療倫理研修報告

第10回	01/18	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全・感染研修について ・医療倫理研修について・来年度の研修について
第11回	02/15	<ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡委員会主催の研修について ・来年度の研修について
第12回	03/15	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理研修報告・褥瘡委員会主催研修報告 ・来年度の研修について

4、活動内容

ア、 新入職員オリエンテーション 参加者 33名

4月2日～3日、4月25日

就業規則

医療安全・感染症予防対策

チームアプローチについて

身体拘束ゼロに向けた取り組みについて

職業倫理、個人情報保護

接遇

電子カルテ操作指導

イ、 院内研修の実施

05月21日 脳血管疾患 帝京大医学部リハビリテーション科 山本昌義氏 09月10日、24日 接
遇研修 TMG本部 人事部 箕輪由紀子氏

11月29日 職場のメンタルヘルス 講師TMGカウンセラー黒沢真澄氏

02月2日 医療倫理 講師 早稲田大学人間科学部 教授小野充一氏

ウ、 市民公開講座開催（全1回）

戸田中央総合病院と共催

11月20日(土)

「回復期リハビリテーション病棟について」

講師 佐藤信也院長

17. 電子カルテ運用検討委員会

1、目的：電子カルテ本稼動後の適正かつ効率的運用を図るために電子カルテ運用検討委員会を定める。

2、構成：平成23年3月31日現在

委員長	松村敦	医師
委員	竹田聖子	看護部長
〃	兼本佐和子	2階病棟係長
〃	小峰隆弘	リハビリテーション科副主任
〃	山中寛子	医療福祉科係長
〃	古賀雅恵	薬剤科係長
〃	藤本美穂	栄養科係長
〃	細山英紀	(株)エムビーテック
事務局	桜井孝	医事課主任

3、内容報告：議事録による

18. 摂食・嚥下推進委員会

1、目的：嚥下障害患者の機能及びQOLの向上のため、また安全かつ適切な食事提供のため、多職種でのチームアプローチを効果的に推進する。

2、構成：平成23年3月31日現在

委員長	西野 誠一	医師
副委員長	竹田聖子	看護部長
委員	藤本 美穂	栄養科係長
〃	増田 彩	栄養科
〃	松田 美紀	2F病棟看護師
〃	丹野 琴枝	3F病棟看護師
〃	渡辺美智子	4F病棟看護師
〃	一木 友徳	リハビリテーション科副主任
〃	小峰 隆弘	リハビリテーション科主任
〃	米沢 真理	リハビリテーション科 OT
〃	桜井 孝	医事課係長
事務局	兼本佐和子	看護係長

3、報告：

- 平成23年1月新規に立ち上げ(前身は、看護部業務委員会の摂食・嚥下プロジェクト)
- 毎月第4木曜日1回開催

➤ 役割

- (1) 摂食・嚥下障害に関するアプローチの標準化
- (2) 摂食・嚥下カンファレンスの実施、他職種によるチーム医療の徹底
- (3) 院内及び院外の関連部署との連携に関すること
- (4) 職員の教育に関すること
- (5) 研究の推進

開催月	議事内容	参加人数
1月	・委員メンバー顔合わせ ・委員会目標、内規について ・関連学会等について ・リゾットプロジェクトについて	11
2月	・チームアプローチの標準化について ・嚥下の評価について ・リゾットプロジェクトについて	10
3月	・定例開催日について ・各職種での嚥下に関わる評価について ・摂食機能療法算定基準について ・リゾットプロジェクトについて ・口腔内チェック表について	13

18. 地域リハビリテーション研究会運営委員会

1、目的：地域リハビリテーション研究会の企画から運営を行なう

2、構成：平成23年3月31日現在

委員長	佐藤信也	院長
副委員長	吉井政昭	事務長
〃	島拓也	リハビリテーション科
〃	寺内孝江	リハビリテーション科
〃	稲垣達也	戸田中リハビリテーション科
オブザーバー	野宮一志	TMG本部リハビリ部長
事務局	金子保裕	総務課 係長

3、内容報告：地域リハビリテーション研究会開催報告による

19. 倫理委員会

1、目的：病院において行う医療、医学研究及び医学教育等が、倫理的配慮のもとに行われ
もって患者等の人権及び生命が十分に擁護されるよう審議する

2、審議事項：

ア、医療倫理（臨床現場における倫理）

- 特定の臨床上の事例において生ずる問題
- 患者のケアの事例において生ずる問題
- 医師患者関係（説明義務、守秘義務、善感注意義務など）
- 最先端医療（研究的側面、不足の危険性を伴う）

イ、医学研究倫理

- 戸田中央リハビリテーション病院で行われる研究等に関し、研究者から申請された実施計画及びその成果の出版公表予定の内容

3、構成：平成23年3月31日現在

委員長	松村敦	医師
委員	露口都子	医師
	竹田聖子	看護部長
〃	吉井政昭	事務長
〃	外部有識者	民生委員、町会長
〃	外部有識者	顧問弁護士

4、報告：開催実績なし



地域との交流

1. 地域リハビリテーション研究会

1. 第11回地域リハビリテーション研究会

ア、日 時 7月28日(水) 18:00～

イ、場 所 戸田中央リハビリテーション病院リハビリテーション室

ウ、内 容 「失語症患者とかかわる」

「障害者像とマネジメントⅣ～起き上がりから歩行まで2～」

エ、講 師 戸田中央総合病院 言語聴覚士 赤沼賢吾

戸田中央医科グループ リハビリテーション部部長 野宮一志

オ、参加者 73名(32施設)

カ、アンケートご意見(抜粋)

- ・短い時間の中で、実技までと内容が濃い、在宅の高齢者は拘縮が強い方が多く、今回の基本の応用範囲が広く、もう少し条件を入れて実技が必要では。
- ・大変勉強になりました、ありがとうございました。
- ・基本を思い出せた、新しい知識の取得もでき勉強になった。次回も是非参加したい。
- ・「ゆらし」を体験できてよかった。
- ・仕事の疲れを忘れるぐらい、楽しく学べた。コミュニケーションでのリラックスを心掛けていましたが、「ゆらし」でリラックスさせる方法、実践したい。

2. 第12回地域リハビリテーション研究会

ア、日時 11月24日(水) 18:00～

イ、場所 戸田中央リハビリテーション病院リハビリテーション室

ウ、内容 「脳卒中のリハビリテーションと装具」

エ、講師 帝京大学医学部附属病院 リハビリテーション科名誉教授 三上真弘

オ、参加者 68名(31施設)

カ、アンケートご意見(抜粋)

- ・顔が見えるだけでなく、交流できる場にして欲しい。
- ・症例などを交えて説明いただけると嬉しいです。
- ・装具という分野の話聞いて大変勉強になりました。
- ・個別の相談コーナーなど設けていただけると嬉しい。
- ・いつも興味深い勉強会をありがとうございます。これからも引き続き開催をお願いします。

2. 介護教室

1. 開催実績

ア、開催回数 20回

イ、参加人数 492名

クール	開催日	テーマ	担当者	参加人数
第1	05/24	体験！車椅子の介助	大森・斎藤・平野	23
	06/07	体験！入浴・着替えの介助	阿部・鷺巣	31
	06/14	合併症の予防	今川・小林・坂口	27
	07/05	退院に備えて～介護者の心構え	坂口	32
第2	07/26	体験！車椅子の介助	大森・斎藤・平野	30
	08/09	体験！入浴・着替えの介助	阿部・鷺巣	28
	08/23	合併症の予防	今川・小林・坂口	22
	09/13	退院に備えて～介助者の心構え	坂口	30
クール	開催日	テーマ	担当者	参加人数
第3	09/27	体験！車椅子の介助	大森・斎藤・平野	16
	10/04	体験！入浴・着替えの介助	阿部・鷺巣	17

	10/25	合併症の予防	今川・小林・坂口	26
	11/08	退院に備えて～介護者の心構え	坂口	19
第4	11/29	体験！車椅子の介助	大森・斎藤・平野	18
	12/06	体験！入浴・着替えの介助	阿部・鷺巣	27
	12/13	合併症の予防	今川・小林・坂口	17
	01/17	退院に備えて～介護者の心構え	坂口	24
第5	01/30	体験！車椅子の介助	大森・斎藤・平野	20
	02/14	体験！入浴・着替えの介助	阿部・鷺巣	19
	02/28	合併症の予防	今川・小林・坂口	32
	03/07	退院に備えて～介護者の心構え	坂口	34

3. 地域行事参加

1. 戸田市サマーレディースソフトボール大会

日 時： 7月4日（日） 8：30～

会 場：戸田市道満球場

内 容：戸田地区近隣施設合同チームで出場

参加者：吉井事務長、金子、太田（総務課）若林（医事課）

2. 上前町会盆踊り

日 時： 8月5日（木） 18：00～

会 場：上前町会館

参加者：吉井事務長、金子（総務課）

3. ピンクリボンウォーク in 戸田

日 時： 10月24日（日） 10：00～

会 場：後谷公園～戸田公園駅～戸田中央総合病院～後谷公園

内 容：乳がん撲滅キャンペーン

参加者：吉井務長、看護部 3名 リハビリテーション科 3名 薬剤科1名 栄養科1名
事務部 8名

4. こどもの国イルミネーション点灯式

日 時：12月4日（土）16：30～

会 場：戸田市こどもの国

内 容：運営スタッフ

参加者：桜井（医事課）、金子（総務課）、

4. ボランティア

1. 受入報告

No.	月日	活動内容	団体・個人	活動時間	活動場所
1	04/18	絵手紙教室	大石 里子	14:00～	リハビリテーション室
3	06/20	〃	〃	〃	〃
4	06/13	あじさいコンサート	戸田市コンセーラルネスサ吹奏 楽団	14：00～	〃
5	08/15	絵手紙教室	大石 里子		〃
6	10/17	〃	〃	〃	各階食堂
7	10/31	秋のコンサート	当院リハビリテーション科 鈴木勝年、渡邊有希子	〃	各階食堂
8	12/23	クリスマスコンサート	埼玉県文化振興課後援 今泉様、谷岡様	14:30～	各階食堂
9	01/23	絵手紙教室	大石 里子	〃	各階食堂

10	2/20	〃	〃	〃	〃
11	3/20	〃	〃	〃	〃

5. 入院患者不在者投票

1. 参議院埼玉県選出議員選挙、参議院比例代表選出議員選挙

投票日 7月11日（日）

投票者 11名

編集後記

2010年度は、最後に来て私たちがかつて経験したことのない大きな災害にみまわれ、その影響は計り知れず、今後何年も復旧への足跡を残すこととなりました。

被災された皆様には病院職員一同、心よりお見舞い申し上げますと共に、一医療機関として出来る事がなにかを常に念頭に置き、微力ながら復興へのお手伝いをさせていただく所存です。

当院はTMGグループの基幹病院である戸田中央総合病院に隣接する、埼京線戸田公園駅からすぐの駅近病院です。近隣区域はTMGグループの拠点として、その規模を拡大し続けています。

2011年7月には、リハビリテーション外来を専門に行う「戸田中央リハクリニック」が開院いたしました。当院の外来部門を担う形での運用となり、地域の皆様の健康のために更にお役に立つことが出来ると思います。

常に「前進」し続ける戸田中央リハビリテーション病院をよく知っていただく為に、この年報がお役に立てば幸いです。

最後に、年報作成にご尽力いただいた各関係者の方々にこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。

平成23年12月

編集担当者：戸田中央リハビリテーション病院 広報委員会
 編集責任者：事務長 吉井政昭
 発行者：院長 佐藤信也

平成22年（2010年）10大ニュース

ランク	国内	国外
1	尖閣諸島沖で中国漁船が海保巡視船と衝突、海上保安官が撮影ビデオを流出	チリ鉱山落盤事故、33人「奇跡の救出」
2	ノーベル化学賞に根岸氏、鈴木氏	北朝鮮が韓国を砲撃、韓国側で民間人含む死者4人
3	宮崎で「口蹄疫」発生	上海万博開幕、7300万人入場
4	113年間で最も暑い夏、気象庁発表	ハイチでM7.0地震、23万人死亡
5	鳩山首相退陣、後継に菅副総理・財務相	メキシコ湾で原油流出、米史上最悪の海洋汚染事故
6	小惑星探査機「はやぶさ」帰還	金正恩氏が後継に確定
7	参院選で民主大敗	ノーベル平和賞に中国民主活動家の劉氏
8	野球賭博関与で琴光喜ら解雇	韓国哨戒艦沈没、「北の魚雷攻撃で」

9	郵便不正事件の押収証拠改ざんで大阪地検特捜検事を逮捕、村木元局長の無罪確定	ミャンマーで20年ぶり総選挙、スー・チーさん解放
10	サッカーW杯、日本は決勝T進出	アイスランド火山噴火、欧州全域で航空機飛行禁止措置